様式１１（別紙２）

事業者名	秋田県

補助事業の実績

Ⅰ　目的

　これまでの事業の成果を踏まえ、教育・保育アドバイザーを配置する市町村を拡充し、そのネットワークを活用強化することにより、地域や園種の垣根を越えた研修や人材育成を支援する。

　「幼児教育スタートプラン」を踏まえ、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる幼児期の教育の重要性についての理解啓発をすすめるとともに、県内全ての子どもたちへの質の高い幼児教育の保障に向けて、市町村における幼児教育推進体制の充実強化を図る。

Ⅱ　方法

「県（幼児教育センター）の取組」「県と市との連携による取組」「市町村の取組」を実施

Ⅲ　実施内容

県（幼児教育センター）の取組

１　教育・保育推進体制の拡充

（１）幼児教育センター機能の拡充（未配置市町村支援）

・県内各市町村との連携と事業内容についての理解啓発

・市町村担当者会議（オンライン開催）による情報提供

（２）「就学前教育推進協議会」の開催

①目的

　県全体の教育・保育の質の向上を目的とした県と市町村の連携による教育・保育の推進体制について県内幼児教育関係者が協議し、以後の推進体制の充実強化・活用に資する。

②期日・場所

　令和４年 11 月 25 日(金)

　秋田県生涯学習センター(秋田市)及びオンラインのハイブリット型開催

③内　容

【説明】

・事業概要

・県及び実施市実践中間報告

・文部科学省「幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業」モデル地域の実践発表（大館市）

【協議（パネルディスカッション）】座長：秋田大学教育文化学部　教授　山名　裕子　氏

・協議テーマ「わか杉っ子！育ちの学び支援事業『幼保小の架け橋プログラム』推進プラン」について

◇視点１：架け橋期のカリキュラム開発会議の設置及び取組等についてどのように進めたらよいか

学識経験者

・小学校側が学びの連続性と子どもを理解するためには、ＡＤの役割が重要になってくる。開発会議においては、保護者目線で物事を考える構成員も必要ではないか。県として、それぞれの市の現状を可視化できているかを確認することで、課題が見えてくるはず。大事にしていきたい。

・小学校とのつながりは、形はできているかもしれないが実態が伴ってくるのが大事である。学校側の捉える「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と就学前が捉える「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が違うかもしれないため、話合いを重ねていかなければならない。

・構成員には、いろいろな立場の人が必要。

行政担当者

・市町村で足りない部分を県が補う必要がある。県の方向性がしっかりしていないと市町村はついていけない。
・既存の組織をそのまま使うのではなく、誰を取り込めば影響力が大きいかを見極めて進めていくことが大事。
・開発会議の設置に向けて、県がリードしながらどの市町村でも取り組んでいけるような体制づくりが必要。

就学前教育・保育関係者

・教育委員会が入ることが、定期的、継続的に進めるための鍵になる。行政の計画の下、進めていきたい。ＡＤが配置されていない町等、地域によって差が出ないようにしてほしい。
・一つの学区に多種の就学前施設がある。小学校長が中心になって進めていくことや「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに進めていくことが大事。様々な園の方針を尊重した取組をお願いしたい。
・子どもが自信をもって学びに向かうための心の部分を支えてくれる専門家が必要。参観だけではなく、参加することが大事である。研究協議会まで参加することで、子ども理解につながる。
・地域の実態に合った取組がいちばんよい。

義務教育関係者

・現場としては、教育委員会からのトップダウンがよい。教育長、教育委員会との話合いをもつことが大事。

市町村関係者

・理念のある私立の園への行政の関わり方が課題である。カリキュラム開発には、教育委員会のリーダーシップが必要である。合同研修会に有識者を活用し研修していくことが位置付けられれば有り難い。少人数での開発会議で作成したカリキュラムを現場に下ろすより、現場の先生方に参加してもらい、有識者や保護者にも意見をもらいながら作成すればよいのではないか。

◇視点２：架け橋期のカリキュラムにおいてどのようなことが重要か

学識経験者

・幼児教育のカリキュラムと小学校のカリキュラムがつながったら、自分たちの意見が広がると考えたら楽しくなる。架け橋期というものを小学校と園できちんと考える必要がある。カリキュラム作成に関しては、０歳から学びは連続しているのだから、園全体で取り組むべき。
・５歳児と１年生をつなぐのではなく、０歳から押し上げてやるというイメージ。どういう姿が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とつながっているのかの共通理解が必要である。

行政関係者

・幼児教育と小学校教育のそれぞれの育みたい資質・能力を大事にしていきたい。つながることのみを大事にするのでなく、それぞれのよさを失わないようにしたい。幼児教育と小学校教育の違いを乗り越えていくことも大事ではないか。カリキュラム作成により可視化することも大事なことだとは思うが、作成して満足になってしまう危険性もある。幼児教育のよさと小学校教育のよさを広げていけるようなカリキュラム作成になればよいと思っている。
・幼保の先生が小学校の先生の要求に応えようとすると、窮屈なカリキュラムになってしまう。カリキュラムは上からおろしていくものではなく、就学前の段階の、学びの喜び、意欲、自信が高まっている姿、その上に小学校のカリキュラムを継続したり積み上げたりしていくものになればよい。

就学前教育・保育関係者

・現場の話が大事になってくるのではないか。子どもの発達について園でどのように取り組んでいるかを伝えることや小学校での取組を知った上でみんなで考えていくことが大事。
・多様性に配慮したカリキュラムが大事になってくる。一人一人を生かすカリキュラムをまず園の中で作ることが大切になると感じる。
・お互いに一人一人の特性を受け入れながら協調していくことを大切にしていくのがよいのではないか。子どもの一人一人の育ちということであれば、自分のことは自分でやるという自立が大事。協同的な遊びと学びは就学前と小学校で分けられるものではなく、子どもたちの育ちで多少前後すると考えられる。
・１年生はゼロからのスタートではないことを、園、小学校、教育委員会で共通理解するべきでないか。遊んだことが勉強へとつながっているということを、共通の視点で協議していくことが必要ではないか。市町村の掲げる方針、目の前の子どもの姿を基にしたカリキュラムを作成することが大切。そのためには、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにして話し合うなど小さなことから始めるとよい。
・訪問や園内研修を通じて良質の幼児期の教育とはどんなものかを保護者、地域の方々、教育関係者にしっかり理解してもらうことが大事である。教育関係者の中で幼児教育はただ遊ばせているだけという人もいる。いろいろな機会を通して、遊びの中から学ぶのだということを啓蒙していただきたい。

義務教育関係者

・大切なのは、小学校側が就学前教育の理解をいかに深めることができるのか、就学前教育・保育に携わる者がいかに小学校教育の理解を深めることができるかだと思う。保育の中で子どもが何を学びどんな成長をしているのかを、小学校の先生が読み取ることができるようになることが大切である。カリキュラム開発は、小学校と就学前施設をつなぐのではなく、学びをつなぐこととなり、学びのつながりが見えることになるのではないか。

④参集範囲及び参加者数

県内大学関係者、県内市町村教育・保育行政関係者、県内教育・保育団体関係者、就学前教育・保育施設関係者、市町村教育・保育アドバイザー、県教育庁関係者等、小学校長会関係者、県教育庁関係者　等

５９名参加(事務局除く)　＊就学前教育推進協議会委員 10 名及び県外参加者は集合型
＊実施市を含めた 25 市町村の行政担当者がオンラインで参加

⑤令和５年度に向けて

・幼児教育スタートプランの推進、架け橋プログラムの理解などにおいて、具体的にどのように取り組めばよいか、さらなる協議と理解が必要である。そのために市町村における幼児教育体制の充実強化を図てっていく。市町村における取組の進捗状況の把握と市町村に応じた情報発信をしていく。

（３）事業内容の発信

ア．「わか杉っ子元気に！ネット」への取組状況の掲載

イ．教育・保育アドバイザー未配置自治体の訪問

①目的

県と市町村の連携による教育・保育の推進体制の拡充の必要性についての理解促進を図る。

②方法

教育・保育アドバイザー配置市の取組状況及び成果等の掲載、就学前教育推進協議会での協議内容等の掲載

③実施内容

ア幼保推進課ホームページ「わか杉っ子元気に！ネット」の「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」に前年度の県及び実施市の各事業内容や取組を掲載。次年度以降更に効果的に更新していく。

【掲載及び更新内容】
・事業計画書（県及び実施市）
・事業実施状況（県及び実施市）　　※その他必要と思われる内容を随時更新

【ＵＲＬ】https://common3.pref.akita.lg.jp/youho/

イ事業実施市の取組状況及び成果及び就学前・教育保育の質の向上の重要性について、市町村教育委員会と福祉部局担当者の両者に参加していただき、説明会を実施した。各自治体の意見や要望を伺った。

④令和５年度に向けて

令和４年度以降の幼児教育スタートプラン及び身近なアドバイザー配置の必要性について、具体的な訪問や情報発信に努めていく。

(参考)市町村アドバイザー配置年度

年度	県北地域・実施市	中央地域・実施市	県南地域・実施市
令和元年(５市)	大館市	男鹿市　潟上市	横手市　仙北市
令和２年(６市)	大館市	男鹿市　潟上市	横手市　仙北市 大仙市
令和３年(７市)	大館市	男鹿市　潟上市 にかほ市	横手市　仙北市 大仙市
令和４年(８市)	大館市　能代市	男鹿市　潟上市 にかほ市	横手市　仙北市 大仙市

２　幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続の推進

（１）幼児教育スタートプランの市町村、各施設、保護者等への理解啓発

①目的

「幼児教育スタートプラン」を踏まえ、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる幼児期の教育の重要性について理解啓発を図る。

②方法・スケジュール

・県版幼児教育スタートプラン理解啓発リーフレットの原案作成(３～４月)
・幼児教育スタートプラン有識者会議
　〇第１回：５月２３日（月）
　　第２回：８月３０日（火）
　〇有識者委員：６名
　　（秋田大学教育文化学部教授、聖霊女子短期大学講師、聖園学園短期大学准教授、就学前教育・保育施設代表、市教育委員会関係者、わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業実施市代表）
・市町村における幼児教育スタートプラン推進に係るアンケート調査・分析（５月～８月）
・県小学校担当部局との連携

③実施内容

・幼児教育スタープラン理解啓発リーフレット「もうすぐ１年生～育ちと学びを未来につなぐ」作成
・幼児教育スタートプラン推進に係るアンケート調査・分析
・「幼児教育スタートプラン」理解啓発のための教育・保育アドバイザー未配置市町村への訪問
・県小学校担当部局との連携

（２）「就学前・小学校等地区別合同研修会」の開催(県内３地区)

①目的

地域における就学前及び小学校等の教育における円滑な接続の在り方について、幼稚園・保育所・認定こども園等と小学校等の教職員間の相互理解を深めるとともに、教職員の資質の向上を図る。

②期日・場所

北 地 区　令和４年７月 26 日（火）　北秋田市交流センター（北秋田市）
園関係者 22 名、小学校関係者 23 名、計 45 名

中央地区　令和４年８月　２日（火）オンライン開催
園関係者 25 名、小学校関係者 17 名、計 42 名

南 地 区　令和４年７月 29 日（金）オンライン開催
園関係者 25 名、小学校関係者 14 名、計 39 名

③対象（中核市及び事業実施市以外の市町村、実施市は市の課題・テーマに応じ単独開催）

市教育・保育アドバイザー配置市以外の自治体の公立及び私立幼稚園・保育所・認定こども園等の職員、小学校職員

④内容

接続期の子どもの育ちの共有による双方の教育の理解、小学校教育との円滑な接続に向けた具体的な取組や連携体制について　等

⑤令和５年度に向けて

・県主催と事業実施市主催の合同研修会を分けて実施することで、各地区の連携の実態に応じた課題やテーマをもとにした計画で進められ、幼保小の相互理解を含めた研修の充実が図られた。次年度以降も県・実施市ともに、各地区の連携状況の実態把握を行い継続していく。

・国の幼児教育スタートプランを踏まえ、県としての方向性を示しながら、「幼保小の架け橋プログラム」について全県域に理解啓発を図る。

（参考）本県の幼小連携･接続の実践状況

「令和４年度及び令和３年度秋田県における就学前教育･保育に関するアンケート調査結果」

No.	質問項目	令和４年度	令和３年度	全年比
1	子ども同士の交流	60%	64%	−4%
2	保育者･教員間の情報交換	87%	85%	+2%
3	接続を意識したカリキュラムの編成	91%	91%	0%
4	保育者による小学校の授業参観	50%	49%	+1%
5	保育者による小学校の授業参加	22%	21%	+1%
6	小学校教員による保育参観	52%	53%	−1%
7	小学校教員による保育参加	15%	14%	+1%

（３）県版幼児教育スタートプランリーフレットの作成及び配付（８月末：HP にも掲載）

①目的

「学びに向かう力の育成」を図る幼児教育についての理解啓発

②配布対象

・５歳児保護者：就学時健診時等に各市町村教育委員会を窓口に配布
・県内全ての小学校：30 部　　・県内全就学前教育・保育施設：10 部
・各市町村教育委員会：5 部　　・各市町村就学前教育・保育施設所管課：10 部
・市町村教育委員会所管社会教育施設等：３部
（公民館・図書館・文化会館・生涯学習センター等）
・県教育委員会各課・所、県立社会教育施設等
・事業有識者等
・秋田県私立幼稚園・認定こども園連合会関係者等

③ＨＰを活用した情報発信
・「わか杉っ子元気に！ネット」に掲載（リーフレット、リーフレット内容説明動画）

３　教職員の専門性の向上
（１）保育士等が習得すべき資質・能力のガイドライン（教職キャリア指標・自己到達目標評価表）の活用
①目的
保育士等がキャリアステージに応じて習得すべき資質・能力のガイドラインを活用し、県内就学前・教育保育施設等や県及び市町村就学前教育・保育行政が共通の方向性をもって教職員の人材育成を図ることができるようにする。
②方法
・「教職キャリア指標(保育者)」「自己到達目標評価表」の改定・活用
・「教職キャリア指標（園長）」の作成
・年次別研修会で活用（新規採用者、実践力習得、５年経験者、中堅~~研~~教諭等）
③実施内容
・第１回秋田県教職キャリア協議会　７月 12 日
・第２回秋田県教職キャリア協議会にて「教職キャリア指標（保育者）」の改定版の承認（特別支援教育の充実を図るため）10 月 17 日
・キャリア協議会委員（就学前教育関係者）による「教職キャリア指標（園長）」の承認
・各市町村へ「教職キャリア指標（園長）」と「教職キャリア指標（保育者）」の周知
・教職キャリア指標の改定を受け、自己到達目標評価表の修正
・「秋田県教職キャリア指標(保育者)」[令和５年３月全園に配付]
④令和５年度に向けて
・各種研修会での活用及び周知
・園訪問等の際に、具体的な人材育成の指標として活用を促す

（２）保育者の専門性向上を図る研修機会の提供
ア．中核リーダーの育成による園内研修の活性化への支援
イ．「園内研修リーダー養成講座」の開催(基礎編・応用編)
①目的
公立及び私立幼稚園・保育所・認定こども園等における園内研修のより一層の充実を図るため、園内研修を推進する保育者に対し、組織的・計画的・継続的な研修を目指した研修リーダーの役割に関する研修を行い、その資質の向上を図る。
②期日・場所
基礎編　令和４年６月 30 日（金）秋田県生涯学習センター（秋田市）
応用編　令和４年 10 月 12 日（水）秋田県生涯学習センター（秋田市）＊オンライン開催
③参加者
70 名　県内公立及び私立幼稚園・保育所・認定こども園等の研修リーダー（次世代の研修リーダーを含む）、市町村教育・保育アドバイザー
④講師

秋田大学教育文化学部　講師　保坂和貴　氏

⑤内容

園内研修計画の作成と研修の進め方、目的に応じた研修手法、ファシリテーターに求められる力、園内研修リーダー像とその役割、園内研修の評価と改善、組織的・計画的・継続的な園内研修にするための工夫、コミュニケーションスキルの活用　等

他園に学ぶ研修課題の実施（他園の研修に参加もしくは自園での研修実践）

⑥令和５年度に向けて

園内研修リーダーとして研修を推進する役割を理解し、本研修での学びや成果を日常の現場での実践にどう生かしていくかが重要になる。集合型で講義内容を具体的に感じ、学びを深めることの重要性や、同じ立場の参加者同士が、演習を通して学び合うことは受講者からも求められており、多くの受講者から集合型での実施を期待する感想が寄せられた。可能な限り集合型での開催ができるよう、会場や受講人数等の検討を行う。

（３）「学びに向かう力」の育成を図る保育改善の推進

・子どもに「育みたい資質・能力」は何かを考え深め合う機会の提供
（各種園訪問、研修会等における機会提供）

県と市町村との連携による取組

４　市町村教育・保育推進体制の支援

（１）市教育・保育アドバイザーの育成及びネットワークの充実・強化

①目的

県教育・保育アドバイザーを核とした市教育・保育アドバイザーの育成・支援や、市教育・保育アドバイザーのネットワークを構築する。

②内容

ア）県教育・保育アドバイザーの配置

イ）「教育・保育アドバイザー連絡協議会」の開催（５回）、参加者の拡充
・具体事例による保育の見方や保育者に対する助言方法についての演習・協議　等

ウ）指導主事等訪問への市アドバイザーの同行
（指導･助言方法についての理解、園や保育者の課題や情報の共有）

エ）市の要請による県指導主事・県アドバイザー等の訪問支援
（園や保育者の課題に対する市アドバイザーの関わり方や支援の仕方、悩みに対する指導･助言、市主催の研修会の企画・運営等への指導･助言等）

オ）県主催所管研修会へ参加
（市アドバイザーの専門性の向上を図る機会、研修の企画･運営方法を学ぶ機会）
（市の保育者の実態をつかむ）

カ）「他市のアドバイザーに学ぶ会」の開催
（他市のアドバイザー活動を参観、園や保育者との関わりについて学ぶ）

③内容の詳細

ア）県教育・保育アドバイザーの配置（市教育・保育アドバイザーの育成・統括的役割）

市教育・保育アドバイザーの育成と活動支援を担う目的で、県に教育・教育アドバイザーを配置している。統括的役割を担い、園や保育者の課題の共有、課題解決に向けた協議を進めるとともに、教育・保育内容に関する指導の方向性の統一を図るための取組を進めている。市教育・保育アドバイザーとのネットワークを構築し相談役にもなり、その存在が精神的な支えとなっている。

イ）「教育・保育アドバイザー連絡協議会」の開催（５回）、参加者の拡充

前年度に引き続き県教育・保育アドバイザーのコーディネートのもと、より実践的な内容を取り入れ、年５回実施した。保育者に対する具体的な指導・助言に向けたロールプレ

イによる演習や協議、事例検討、情報交換を行った。園や保育者の課題に対するよりよい指導･助言や支援の在り方、関わり等について考える機会とした。

【参加者】（計 13 名）

県教育・保育アドバイザー（以下　県ＡＤ）１名

事業実施市教育・保育アドバイザー（市負担ＡＤ含　以下　市ＡＤ）11 名

指導主事１名

【実施日程・場所・主な内容】

	期　日（曜）	場　所	主　な　内　容（予定）
1	令和４年 4 月 22 日(金) 10:00～15:00	秋田地方総合庁舎６階 601 会議室 ＊オンラインで実施	・令和４年度の県と実施市の連携・協力体制の確認 ・実施市の計画等について ・実施市開催の研修会及び園訪問予定の確認
2	6 月 24 日(金) 10:00～15:00	秋田地方総合庁舎６階 610 会議室	・講義・演習「乳児の発達の理解について」 ・ロールプレイによる事例検討 ・保育者に対する助言方法についての協議 ・市の課題等への対応（具体事例による協議）
3	8 月 25 日(木) 10:00～15:00	秋田地方総合庁舎６階 610 会議室	・ロールプレイによる事例検討 ・保育者に対する助言方法についての協議 ・市の課題等への対応（具体事例による協議）
4	10 月 25 日（火） 10:00～15:00	秋田地方総合庁舎６階 610 会議室	・ロールプレイによる事例検討 ・保育者に対する助言方法についての協議 ・市の課題等への対応（具体事例による協議）
5	令和５年 1 月 24 日(火) 10:30～15:00	秋田地方総合庁舎６階 605 会議室	・令和４年度の成果と課題の共有 ・令和５年度の活動の見通し

【教育・保育アドバイザーの声】

・ロールプレイによる演習は、アドバイザーの関わり方を見直したり、保育者や園長の思いを考えたりする上で有効だった。

・県幼保指導員による講義・演習「乳児の発達の理解について」は園訪問において役に立つ内容であった。次年度の市実施研修会で要請したい。

・集合型で研修を行い、情報交換することで、アドバイザー同士のネットワークが広がってきている。

・各市の課題やニーズに応じてテーマを設定した情報交換の場や、他市のアドバイザーにじっくり相談する場があってもよい。

・アドバイザー全員で園の見学や視察を行い、保育を共有したり保育の捉え方を学んだりしたい。

ウ）指導主事等訪問への市アドバイザーの同行

（指導･助言方法についての理解、園や保育者の課題や情報の共有）

【市ＡＤの同行数】

実　施　市	回数	前年比
大　館　市	19	-2
男　鹿　市	6	+1
横　手　市	3	-1
潟　上　市	5	-1
仙　北　市	11	+2
大　仙　市	28	+10
にかほ　市	4	0
能　代　市	12	－

R4.4～R5.3

実施市における、園種の垣根を越えた全園種を対象とした各種訪問時に、市アドバイザーが県指導主事及び幼保指導員に同行し、保育の見方や園及び保育者に対する指導・助言方法について理解を深めた。

市アドバイザーは県指導主事等と園や保育者の課題解決に向け指導・支援するポイントを共有し、園へ継続的に指導・支援を実施。コロナ禍で県から園への訪問が困難な場合は、アドバイザーに園への支援を担っていただいた。

エ）市の要請による県指導主事・県アドバイザー等の訪問支援

園や保育者の課題に対する市アドバイザーの関わりや支援の仕方、悩みに対する指導･助言、市主催の研修会の企画･運営等の具体的内容に関することなど、市教育･保育アドバイザーへの支援を行った。

オ）県主催所管研修会へ参加

（市アドバイザーの専門性の向上を図る機会、研修の企画･運営方法を学ぶ機会）

（市の保育者の実態をつかむ）

【市ＡＤの県所管研修参加数】

実　施　市	回数	前年比
大　館　市	5	-1
男　鹿　市	10	+4
横　手　市	8	0
潟　上　市	9	+4
仙　北　市	5	-4
大　仙　市	6	+1
にかほ　市	2	-1
能　代　市	1	－

R4.4～R5.3

市アドバイザーが幼保推進課主催の研修会に参加する中で、教育・保育内容等の理解を深めたり、研修会開催の企画や運営方法を学んだりした。また、所管研修で学んだことを市主催研修会及び園訪問で活用し、研修内容の充実に努めた。各市の園に在籍する保育者の実態把握の場にもなっている。

この他、他市主催の研修会にも参加しているアドバイザーが増えてきている。

市アドバイザーの代替わりや新規の方の参加、配置人数の違いにより回数にバラツキが見られるが、意欲的に研修に参加している。

カ）「他市のアドバイザーに学ぶ会」の開催

（他市のアドバイザー活動を参観、園や保育者との関わりについて学ぶ）

【市アドバイザーに学ぶ研修会】

期　日	場　所	主な内容・参加者
7月 29 日（金）	潟上市立 若竹幼児教育センター	保育参観・園内研修参観・アドバイザー会議 市ＡＤ３名、県ＡＤ、県指導主事各１名
9月 12 日（月）	社会福祉法人はなさき仙北 角館こども園　角館庁舎	保育参観･副園長及び担任との振り返り･アドバイザー会議 市ＡＤ６名、県ＡＤ１名、県指導主事２名
9月 16 日（金）	にしの杜保育園	保育参観・園内研修参観・アドバイザー会議 市ＡＤ２名、県ＡＤ１名、県指導主事各２名
9月 28 日（水）	大館市立有浦保育園	【中止】
10 月 19 日（水）	社会福祉法人大空大仙 なかせんワイワイらんど	保育参観・研修リーダー及び担任との振り返り・園内研修参観・アドバイザー会議 市ＡＤ２名、県ＡＤ１名、県指導主事２名
10 月 20 日（木）	男鹿市立脇本保育園	保育参観・園内研修参観・アドバイザー会議 市ＡＤ３名、県ＡＤ、県指導主事各１名
11 月 28 日（月）	ひまわり保育園	保育参観・園内研修参観・アドバイザー会議 市ＡＤ２名、県ＡＤ、県指導主事各１名

【教育・保育アドバイザーの声】

・各地区のアドバイザーから、これまでの経験をもとに今後の園訪問において参考になる意見を頂くことで、とても勉強になっている。
・アドバイザーの基本姿勢や助言の在り方、振り返り時の場面提示の工夫など、今後の取組の参考になった。
・アドバイザーが副園長の職務や職員の指導に関する助言に重点を置くことで、組織としての保育の質の向上を図っている点が参考になった。その関わりが副園長と職員の関わりのモデルになっているところが印象的で、学ぶことが多くあった。

担任・副園長との保育の振り返り
（角館こども園）

（２）市町村主催研修会の支援

①目的

県からの指導者（幼児教育担当指導主事、小学校生活科担当指導主事等）派遣により、市町村主催研修会を支援し、市町村の課題や園のニーズに応じた研修会を市町村が主体的に企画・運営できるようにする。

②方法

ＡＤ配置市及び未配置市町村の要請に応じた指導者(指導主事・幼保指導員・県ＡＤ)の市町村主催研修への派遣

③実施内容

市や園の課題やニーズに応じた研修会を主体的に企画・運営できるように、市の要請に可能な限り対応した。県から指導者（県指導主事、幼保指導員、県アドバイザー等）を派遣し、市主催研修会を支援した。

保育実践や市の課題に応じた研修会、人材育成に関する研修会などでの活用があった。今年度はコロナ禍で県主催の研修会がほとんどオンラインでの開催となる中で、市主催研修会は身近な地域で集合型・対面で開催でき、保育者にも好評であった。

(参考)市主催研修への指導主事等を派遣した研修会

市	研　修　会
大館市	幼保小連携推進会議、幼保小担任合同研修会、ファシリテーター研修会　２回、５歳児研修会
男鹿市	市就学前・小学校合同研修会、保育実践力向上研修会（２回）、キャリア別研修会（２回）
横手市	市幼小合同研修会、保育実践力向上研修会
潟上市	就学前・小学校潟上市合同研修会、公開保育研究会、ミドルリーダー研修会、保育実践研修
仙北市	ファシリテーター研修会３回、就学前・小学校仙北市合同研修会、ミドルリーダー研修会、乳児保育研修会
大仙市	保育実践力向上研修会、就学前・小学校大仙地区合同研修会
にかほ市	市幼保小合同研修会、取り組みやすい園内研修（２回）
能代市	保育実践研修会、就学前・小学校能代地区合同研修会、市幼保小連携推進協議会

【実施市における教育・保育アドバイザーの活用、研修会の実施状況】

ア）推進体制（各市の状況、政策決定、周知方法等）

市	対象施設数 a 幼　b 保 c 幼保 d 他	a 指導者の配置 b 外部指導者の活用	実施理由 目指す方向性	政策決定者 a 政策の決定者 b 決定の過程	内容の周知	市ＡＤ活用促進の工夫

大館	a.1 b 公 9 私 1 c 私 8 d 15	aH21 福祉課に保育AD 配置 H28 教育委員会に市AD 配置 b 県の指導者、市ＡＤを継続活用	教育・保育の質の向上 教職員の専門性向上 小学校教育との円滑な接続	a 市教育委員会 b 市福祉部局と市の課題を共有し協議	小中学校長会、各園長会、研修会、園訪問時の指導等で周知	リーフレットや、幼保小連携だより「つなぐ」の配付による周知
男鹿	a 私 1 b 公立 7 d 1	a H28 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続活用		a 市福祉部局 b 市福祉部局内で協議	市担当者と園長会議で周知	園長会議で基本の活用方法決定、幼保連携通信「ぶらんこ」配付
横手	a 私 4 b 公 3 私 21 c 私 4 d 7	aH28 に市 AD 配置 R1 市指導主事配置 b 市の指導主事が在籍。県の指導者の活用は多くない		a 市教育委員会 b 市福祉部局と協議	独自広報紙発行や施設訪問時による周知	幼小連携だより「よこてのめんこ」配付
潟上	a 私 1 b 公 1 c 公 4 d 7	aR1 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続活用		a 市教育委員会 b 市福祉部局と協議	市担当者と園長会議で訪問周知	毎月の園長会議で活用の基本確認、幼保小連携だより「かたっこすまいる」配付
仙北	b 公 3 c 私 5 d 3	aR1 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続活用		a 市福祉部局 b 市福祉部局内で協議	園長会議や園訪問での周知	訪問を通じ基本的な活用を周知
大仙	b 私 17 c 私 9 d 3	aR1 に法人から派遣の市 AD 配置 R2 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続活用		a 市福祉部局 b 市福祉部局内で協議	周知パンフレットの配布や施設訪問時による周知	AD 派遣事業実施要項の周知、幼小連携だより「だいせん元気っこ」の配付
にかほ	b 私 5 c 私 4	aR3 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続活用		a 市福祉部局 b 市福祉部局内で協議	園長会議や園訪問での周知	訪問を通じ基本的な活用を周知
能代	a 私 2 b 公 4 私 8 c 私 4 d 1	aR4 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続活用		a 市教育委員会 b 市福祉部局内で協議	就学前施設、小学校への訪問時による周知	訪問を通じ基本的な活用を周知、幼児教育・保育 AD 通信「てのひら」の配付

イ）市アドバイザー訪問回数と訪問実施率

	大館市	男鹿市	横手市	潟上市	仙北市	大仙市	にかほ市	能代市
R2 実績(回)	217	131	682	149	282	117	―	―
R3 実績(回)	189	105	548	143	226	115	47	―
R4 目標値（回）	250	116	500	97	210	195	85	100
R4 実績(回)	185	98	757	300	178	148	59	101

R4 実施率(%)	74.0%	84.4%	151.4%	309.0%	84.8%	75.8%	69.4%	101.0%

○コロナの感染状況により、計画どおり実施できない市も見られたが、各市とも可能な範囲で継続した訪問を実施し、目的を明確にしながら園や保育者への支援がなされている。

○計画的・継続的に、園への訪問がなされていることが、園や保育者と市アドバイザーとの信頼関係構築に効果を生んでいる。

ウ）市アドバイザー訪問内容

市	園内研修	保育公開	個別相談	実態把握	周知活動	県と同行	その他
大館	18.2 (25.4)	1.4 (1.5)	7.3 (5.4)	5.5(14.8)	29.7 (31.7)	8.7 (6.4)	29.2 (14.8)
	-7.2	-0.1	+1.9	-9.3	-2.0	+2.3	+14.4
男鹿	24.0(30.8)	4.0(7.1)	33.2 (36.1)	16.0 (14.4)	8.4 (6.5)	2.4 (1.4)	12.0(3.7)
	-6.8	-3.1	-2.9	+1.6	+1.9	+1.0	+8.3
横手	8.3(12.2)	2.5 (2.5)	2.8 (2.5)	1.7 (1.5)	64.2 (67.9)	0.3 (0.8)	20.2 (12.6)
	-3.9	0	+0.3	+0.2	-3.7	-0.5	+7.6
潟上	13.0(29.5)	3.4(7.1)	29.4(26.9)	6.1(2.6)	39.0(15.4)	1.1 (3.8)	8.0(14.7)
	-16.5	-3.7	+2.5	+3.5	+23.6	-2.7	-6.7
仙北	15.1(29.4)	12.1 (7.9)	10.4(23.1)	15.6(17.2)	13.0(10.6)	4.8 (2.9)	29.0 (8.9)
	-14.3	+4.2	-12.7	-1.6	+2.4	+1.9	+20.1
大仙	7.7 (3.1)	1.5(0)	21.8(25.0)	22.5(25.9)	7.4(10.7)	10.3(8.1)	28.8(27.2)
	+4.6	+1.5	-3.2	-3.4	-3.3	+2.2	+1.6
にかほ	21.4(14.1)	9.2(2.8)	28.6(34.9)	12.2(35.9)	9.2(6.6)	4.1(3.8)	15.3(1.9)
	+7.3	+6.4	-6.3	-23.7	+2.6	+0.3	+13.4
能代	11.2	0	0	36.8	33.6	9.6	8.8

［上段：R4 年度(R3 年度)の％　下段：前年比］

エ）地域で学び会う機会の充実、園や市町村を越えた研修会開催

【実施市での研修会の開催数と参加者】

	大館	男鹿	横手	潟上	仙北	大仙	にかほ	能代	計
開催数(回)	34(20)	5(8)	20(15)	11(8)	11(8)	3(3)	3(1)	6	93(63)
前年比	+14	-3	+5	+3	+3	0	+2		+30
参加者(人)	1128(1019)	50(116)	340(253)	152(105)	209(145)	94(86)	38(14)	165	2176 (1738)
前年比	+109	-66	+87	+47	+64	+8	+24		+438

［上段：R4 年度（R3 年度)の実数　下段：前年比（回数、人数）］

【分野別研修会開催数】［上段：R4 年度の回数（参加者数）、中段：R3 年度、下段：R3 年度比］

市	市全体	課題別	キャリアステージ別	担当年齢・職種別	公開保育	その他	開催数(参加者)

						（幼小研修会他）※	
大館	－	6(181)	－	8(234)	10(218)	10(495)	34(1128)
	－	8(208)	－	4(114)	4(89)	4(608)	20(1019)
	－	−2(−27)	－	+4(+120)	+6(+129)	+6(−113)	+14(+109)
男鹿	2(23)	－	2(15)	－	中止	1(12)	5(50)
	1(34)	－	1(7)	3(31)	2(30)	1(14)	8(116)
	+1(−11)	－	+1(+8)	−3(−31)	−2(−30)	0(−2)	−3(−66)
横手	－	1(32)	2(56)	－	16(202)	1(50)	20(340)
	－	1(34)	－	1(27)	－	13(192)	15(253)
	－	0(−2)	+2(+56)	−1(−27)	+16(+202)	−12(−142)	+5(+87)
潟上	－	1(15)	3(52)	1(20)	3(26)	3(39)	11(152)
	－	－	－	2(31)	4(34)	2(40)	8(105)
	－	+1(+15)	+3(+52)	−1(−11)	−1(−8)	+1(−1)	+3(+47)
仙北		9(125)	－	1(20)	－	1(64)	11(209)
	－	4(74)	－	4(71)	－	－	8(145)
	－	+5(+51)	－	−3(−51)	－	+1(+64)	+3(+64)
大仙	－	2(51)	－		中止	1(43)	3(94)
	－	1(23)	1(24)	－	－	1(39)	3(86)
	－	+1(+28)	−1(−24)	－	－	0(+4)	0(+8)
にかほ	－	3(38)	－	－	－	中止	3(38)
	－	1(14)	－	－	－	－	1(14)
	－	+2(+24)	－	－	－	－	+2(+24)
能代	－	2(38)	－	－	－	4(127)	6(165)

※その他：幼小接続に関する研修会・事業、市内研究発表会等

○市主催の研修として、地域の様々なニーズに対応した研修の開催を目指している。毎年同じ内容ではなく、前年度の評価や反省を生かし、各市で実態やニーズ等に応じた様々な研修会を企画している。

○今年度も、コロナ禍のため、予定通り行うことができなかった市があった。参加人数を少なくするなどできる限り実現できるよう、工夫していた。幼小合同の研修会を市主催研修として各市で実施できるよう、県でも支援をしながら開催した。

○地域で学び合う研修会となるよう、近隣市町村への研修会・公開研究会への参加の呼び掛けを進めている。アドバイザー同士での情報交換ができていたが、コロナ禍で市町村の行き来が制限され、広域での研修会とはならなかった。

（３）県と市町村の連携による園の重層的支援

①目的

県と市町村の連携体制を活用し、園の課題解決等に向けた情報提供をするとともに、園訪問で県指導主事等と市町村教育・保育アドバイザーが園の支援方針を共有し、同一の方向性で支援する。

②方法

・外部専門家や関係課・所との連携による情報提供

・指導主事等と市アドバイザーとの情報共有による支援の方向性の統一、園への継続的な支援
・未配置市町村の園の要請に応じた支援

③実施内容

・
・県指導主事による園訪問への同行
・市町村研修支援、園支援訪問

4　成果と課題　（○成果、●課題、◇改善の方策）

（1）教育・保育推進体制の拡充

①幼児教育センター機能の拡充（未配置市町村支援）

○アドバイザー未配置市町村の教育委員会及び福祉部局担当者を訪問し、県の構想の説明の他、市町村の就学前教育・保育推進体制の実態や質の維持・向上のための取組等、今後の見通しなど伺った。幼保小連携やアドバイザー配置に係る意見等を踏まえた、実態の把握や県への要望確認など、有意義な機会をもつことができた。

●必要性を感じているが、人材、財政面で課題を感じている市があった。

◇令和５年度は、訪問や市町村支援の機会に全市町村の教育委員会及び福祉部局との関係性を構築しつつ、幼児教育推進体制の充実、活用強化のための理解啓発を図る。

◇市町村における幼児教育推進体制の構築に向けた市町村支援訪問を実施する。

②「就学前教育推進協議会の開催」

○実施市も含め、県内１７市町村の就学前教育・保育行政担当者(教育委員会・福祉部局)に参加していただくことができた。「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について、どのように捉えているか」「どのように具現化していけばよいのか」様々な立場から協議いただいた。小学校や園任せでは難しく、行政の支援や、行政と一体となった取組が必要であるとの意見が出された。また、そもそも乳幼児理解がどう図られているのか、その根本理解の重要性について座長から提言があった。市町村行政担当者の意識付けという意味で有意義な場となった。

○文部科学省「幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業」モデル市である大館市による実践発表は、「幼保小の架け橋プログララム」の理解を促してくれるものであった。また、他市町村へ今後の示唆を与えてくれる大変有益なものであった。

○国の幼児教育スタートプランや架け橋プログラムを踏まえ、様々な関係機関や保護者、園や小学校職員など、広く理解啓発を図ることに関連した協議会となった。

●円滑な接続を図る上で、行政の後押しが大切だが、保育の質の面で理解が進んでいない市町村も見られた。現場任せになっている様子が感じられたり、部局間連携が図られていなかったりしており、そうしたところを県も支援しつつ改善を図る必要がある。

◇令和５年度は、各市町村の実態把握を明確にした上で、協議会の着地点を明確にする。

◇県教育委員会における義務教育課、教育事務所の幼保小連携に係る指導主事にも委員として参加していただく。

（2）幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続の推進

①幼児教育スタートプランの市町村、各施設、保護者等への理解啓発

○園支援訪問は、各園が課題にしていること等について助言する機会となった。今までの１回のみの訪問だけでは伝えきれなかったところ、今までできなかった園内での研修等などアドバイザーが配置されていない市町村の園に対して、支援することができた。

●「市町村研修支援」の実績が少なかった。今まで、各市町村では保育者向けの研修会を実施していなかったため、活用する市町村は１町に止まった。来年度は、各市町村の幼小連携協議会への支援等も可能であることを周知していきたい。

②「就学前・小学校等地区別合同研修会」の開催（県内３地区）

○コロナウイルス感染症拡大防止のため、集合ができない地区もあったが、オンラインを活用し、中止することなく実施することができた。

○就学前での遊びを通して得られた育ちや学びが、どのように小学校での生活や学習につながっていくのかについて話し合うことで、相互に新たな気付きをもつことができた。
●協議や情報交換のなかでは、どうしても「できないことや困ること」の話題になることがある。話し合う視点を明確にするとともに、資質・能力のつながりについての話合いができるよう、工夫していく。
◇『幼保小の架け橋プログラム』についての周知を継続し、園や学校でどのようなことに取り組んでいけばよいか、研修会を通し具体的に参加者に伝えていく必要がある。今後は、各市町村独自の合同研修会を開催できるよう、支援していく。

③県版幼児教育スタートプランリーフレットの作成及び配付

○就学時健診等において、リーフレットを県内の全５歳児を対象に配付することができ、保護者に対して幼小の接続、家庭生活で心がけたいことなどについて理解を図る機会となった。また、県内の教育委員会、福祉部局、小学校、就学前教育・保育施設等、社会教育施設に配布し、乳幼児期と小学校の育ちと学びのつながりについて理解啓発を図った。
●リーフレットの内容については、作成のねらいを学校・園・保護者のどこにするのかにより、変わってくる。全てを網羅するのは難しいため、作成時は、どこに周知するか等のねらいを明確にする必要がある。リーフレットの内容周知や活用促進において取組に工夫が必要である。

（３）教職員の専門性の向上

①保育者の専門性向上を図る研修機会の提供

○園内研修リーダー養成講座は、基礎編は集合型での研修を実施できたが、応用編はオンライン開催となった。運営側も受講者側もオンラインでの研修に慣れ、グループ協議も実施できた。他園に学ぶ研修を計画したが、コロナ禍で他園との行き来が難しい園が多かった。ＩＣＴを活用しながら他園とのやりとりを進め実施するなど、主体的に取り組む受講者も複数いた。
●応用編はオンラインでの実施となった。演習・協議・情報交換、研修時間等に制限があることから、少人数対象での開催や分散開催など、進め方の見直しや手立てを工夫する必要があった。
◇集合型、オンライン型いずれでも内容の充実が求められる。特にオンライン型では、講義中心とならないようにするとともに、研修の目的を確実に達成できるよう、講演講師との打合せを密に行い、協議時間の設定などの改善を図っていく。

③「学びに向かう力」の育成を図る保育改善の推進

○各種訪問や研修会等において、乳幼児における見方・考え方を生かし、生活や遊びを通した総合的な指導により、子どもが自ら環境に関わり、発達に必要な体験を積み重ねる教育・保育の充実の重要性について理解促進を図ってきた。
○育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育・保育の計画作成、実施、評価、改善のサイクルの構築に向けた取り組みの支援を機を捉えて行ってきた。
●学びに向かう力とは、小学校教育の先取りをするのではなく、総合的な指導を通して、創造的思考や主体的な生活態度の充実など、乳幼児期にふさわしい展開をする中で育まれていくことの理解はできているが実践が結び付いていない園も見られる。
◇各種研修においてキャリアステージに応じて秋田県幼稚園・保育所・認知こども園等「自己到達目標評価表」（令和５年度版）を活用し、育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や秋田の探究型保育を視点とした学びに向かう力の理解を図る。

（４）市町村教育・保育推進体制の支援

①市教育・保育アドバイザーの育成及びネットワークの充実・強化

ア）「教育・保育アドバイザー連絡協議会」の開催

○本協議会は、県教育・保育アドバイザーのコーディネートにより、保育者への具体的な指導･助言、園内研修への支援方法等を考える機会となっている。他市の取組状況の共有や共通する課題について情報交換するなど、ネットワークの構築に寄与している。

○他市の取組のよさを自市の実践に取り入れるなど、アドバイザー同士のネットワークの積極的な活用により、アドバイザーの意識の向上が多く見られた。
●市アドバイザーがそれぞれ感じている課題やニーズを共有し、検討する時間を設定できなかったため、市アドバイザーからの要望が寄せられた。
◇アドバイザーの増加や入れ替わりに伴う、就任前の経歴や経験年数の違いに配慮し、本協議会の内容の見直しを進める。年度末のアンケート結果をもとに、各市アドバイザーのニーズや要望を取り入れながら検討する。
◇アドバイザー育成の重要な協議会である。令和５年度もアドバイザー未配置市町村の就学前教育・保育施設に関わる担当者も協議会に参加いただくなど、一層のネットワークの構築を図っていく。

イ）市の要請による県指導主事・県アドバイザー等の訪問支援
○市主催の研修会においては、市が主体的に企画・運営できるように、市の課題やニーズに即した要請に県から指導者を派遣する形で支援することができた。また、市アドバイザーによる園訪問に県アドバイザーが同行する形で、アドバイザー支援を行った。
●実施市が増えたことにより、県アドバイザーの対応が難しくなってきている。各市の実態を把握するために、全実施市を訪問する機会が必要である。
◇令和５年度も指導主事等との同行を促し、園を重層的に支援していく。
◇年間に１回程度は様々な機会に全実施市を訪問できるようにするとともに、県南、県北のサテライトセンターと各市の取組内容や状況を共有する。

ウ）県主催所管研修会へ参加
○県所管研修への参加は、市アドバイザーの専門性向上を図る機会、市主催研修の企画・運営方法を学ぶ機会となっている。また、自市の保育者が所管研修においてどのような研修を積んできたかを把握する上でも有効である。
○保育経験のないアドバイザーもおり、保育の見方・考え方、計画の立て方、記録の仕方、様々な研修手法のスキル等、園訪問時に指導・助言に役立てることができた。

エ）「他市のアドバイザーに学ぶ研修会」の開催
○他市の園の保育や保育者とアドバイザーとのやりとり、園内研修等をアドバイザーたちが参観することで、園や保育者との関わり方や園内研修への参画の仕方について学ぶ機会となった。
◇アドバイザー全員で保育を参観し、保育の捉え方などを協議する場を設定したり、協議のテーマを設定したりし、アドバイザーのニーズに対応していく。

②市町村主催研修会の支援
○市主体で企画・運営を行うことで、市の課題やニーズ、様々なキャリアに応じた研修の充実、機会の提供が図られ計画的に実践している。県は研修講師や助言者として市からの要請を受け支援するスタイルが定着してきている。
●今年度も地域をまたいだ広域での研修会や近隣市町村を交えた研修会ができなかった。来年度も状況に応じて開催を支援していく。
●事業実施市で主催研修の内容や機会が充実していく一方、未配置市町村への県からの支援に偏りがある。
◇次年度は、県の支援策としてアドバイザー未配置市町村の主催研修への支援を拡充するなど、近隣地域を巻き込んでの市町村と連携した一体的な研修支援の実施を目指す。

③県と市町村の連携による園の重層的支援
○県指導主事等の園訪問に市アドバイザーが同行する他、市内全園を巡回訪問するなど、園や保育者のよさ、課題等を共有し、同一の方向性で継続的な支援を心掛けている。

○市は、組織的・計画的な研修の推進やファシリテーションに関する指導を県指導主事等に依頼し、その指導の視点を基に市アドバイザーが園内研修支援を継続支援し、保育改善等につなげている。

●アドバイザー未配置市町村の園支援が年１回に限られているため、アドバイザー配置市との支援格差が出ている。

◇次年度は、計画訪問・認定こども園訪問・要請訪問の他、複数回の園支援が可能となるよう県の園支援策実施し格差解消を図るとともに、保育改善や質の向上につなげる。

実施市の具体的な取組（大館市）

１　教育・保育の現状と課題

（１）教育・保育の質の向上に向けて、教職員の資質向上、園内リーダーの養成と園内研修の充実等の体制が構築されたが、それらの幼児教育センター機能を安定させていく必要がある。

（２）多様な保育施設、多様な働き方の職員が協働する中、市が目指す就学までに育てたい力、保育・教育の在り方を共通理解し、具体的実践に移していくには園ごとの温度差がある。

（３）小学校との情報共有、合同研修はあるものの、小学校入学後の生活や学習への適応や指導に困難を抱える事例が見られる。

２　令和４年度の目的、重点、実施内容

【目的】

ふるさとキャリア教育の理念の下、就学前から小学校低学年までを「人間的基礎力」を育成する時期＝架け橋期として、それに関わる保育者・教職員が教育・保育の指導や援助等について共通理解を図り、一層連携を推進する。

【重点】

架け橋充実期のカリキュラム（素案）に向けて、０歳から５歳児までの保育・教育の成果と課題を整理する。

就学前施設・小学校の教職員相互の研究会や合同研修会への参加を促進する。

【実施内容】

（１）部局間連携による教育・保育推進体制の充実

○教育委員会と子ども課の連携による幼児教育センター的機能の強化

①　教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導

・子ども課の保育アドバイザー、教育研究所教育・保育アドバイザーの定期的な打ち合わせの実施、訪問、連携事業の推進

・各園の要望に応じた訪問、研修への支援

・基幹保育園園長会、所長会への参加、情報提供、助言(月１回)

・基幹保育園主任会との連携による研究推進への助言(月１回)

・小学校授業研究会への参加

②　共同開催事業の実施

・今年度から就学前から中学校までの「個別の教育支援計画」の様式の統一、データ化を図り、支援に係る情報を確実にデータで引き継ぐ取り組みを開始した。

・幼児通級指導教室「育ちの教室ぐんぐん」(9～3 月)～入学前の集団での生活や学習に不安

をかかえている年長児を対象に、少人数集団で通級指導を実施。指導スタッフとして、子ども課と教育委員会が支援に当たっている。

・満５歳すてっぷ相談(年間 12 回)～就学を見通し集団への不適応、人との関わりが苦手な子どもの早期発見、就学に向けた「生活習慣づくり」の保護者講話・相談を実施。子育て講話「小学校に入るまでにできてほしいこと」を教育委員会が担当。

・子ども課と小学校との連携による就学時健診の実施。子どもについての事前情報の共有、その後の保護者面談を連携して実施している。保護者に対しては、県が作成したリーフレットを活用して、架け橋期の保育・教育、子育てへの理解につなげている。

○「育ちの教室ぐんぐん」、「満５歳すてっぷ相談」、就学時健診、諸検査、各種相談歴を連動させ、就学情報支援ファイルを作成することにより、早期支援のための在籍園・小学校への情報提供、関係機関との情報共有、保護者への継続的なサポートを可能にしている。

○教育委員会主催の研修会への保育士等の参加や発表者が増えており、幼保小の育ちや学びについての共有が図られている。

③　研修会の実施

〈市主催研修会〉

・４歳児担任研修会（4/28）
・幼保小連携推進会議(5/16)
・幼保小担任研修会(5/31)
・年齢別研修会（６回）
　０歳児（5/19）オンライン１歳児（5/23）オンライン２歳児（5/30）
　オンライン３歳児（5/24）４歳児（5/25）５歳児（5/26）
・発達支援セミナーⅠ(6/21)
・ファシリテーター研修会Ⅰ(7/1)
・実技研修会(8/23)
・発達支援セミナーⅡ(8/29)
・５歳児研修会(11/18)
・ファシリテーター研修会Ⅱ(12/8)
・教職員研究実践発表会（1/6）
・子どもの虐待防止研修会(1/18)

○昨年度の反省をもとに研修内容を検討した。年度始めの年齢別研修会を２年ぶりに実施した。これからの保育に役立てようと受講者が多く、保育の質の向上につながっている。

○実技を伴う研修では、演習の時間を長くしたので参加者の理解度や習熟度が増し、そのことが自信となり、自園で生かそうとする意欲も出てきた。

（２）「教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

教育・保育アドバイザーによる市内全園への巡回訪問・指導

・私立の認定こども園への協力要請

◇令和４年度アドバイザーによる巡回訪問･指導（大館市）

⑥派遣実績　計５０施設／全５０施設　２２２回	
回数	・幼稚園：私立１園（６回）　・保育園：公立９園（６４回）、私立１園（８回） ・幼保連携型認定こども園：私立　８園（５２　回） ・その他の施設：（へき地保育所７園（２０回）児童館０か所（０回）、小規模保育施設２か所（１３回）、認可外保育施設１か所（６回）、事業所内保育施設４か所（２８回））　・小学校：１７校（２５回）

訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、１８園（３２回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、７園（１５回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、６園（ １３回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、１０ 園（ １０回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、３３ 園（ １０８回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、１９園（ １９回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、１７ 校（ ２５回））
理由	基幹保育園である公立保育園への年間を通した継続的な支援により、市が目指す保育の方向性を具現化するとともに、園内研修のモデルとして他園にも広げていく役割を果たす。私立園やへき地保育所には、継続的に幼保小連携便りを配布しながら研修や訪問のメリットを具体的に周知するための 訪問を増やしていく。子ども理解と接続等における教職員との相互理解のために幼保小との連携を図る。

○子どもの育ち・読み取りの共有方法、研究協議の進め方等への継続的な助言により、研究に深まりが見られる。
○周知活動として公立以外の施設へ訪問できたので、定期的に情報交換ができるようになってきた。
●施設により、研究への取り組み方や協議の進め方に差がある。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

①　市主催研修会の開催

◇４歳児担任研修会　(4/28)　４歳児担任等対象　28 名参加
内容「満５歳すてっぷ相談」における保護者への講話について
講師　大館市教育研究所　副主幹　山本多鶴子氏
○今回の内容を保護者との面談等に生かしたい、子どもの良さや成長を保護者と共有していきたい等の感想が多く、保護者との向き合い方を学ぶ機会となった。

◇年齢別研修会(5/19～5/30)　担任等対象　173 名参加
内容　年齢別の発達、発達の繋がりについて
講師　花岡小学校　校長　浅野直子氏（０～２歳児）オンライン
　　城西小学校　校長　花田一雅氏（３～５歳児）
○発達の繋がりを理解した上での各年齢で大切にしたいことを学ぶことができた。
○事例を基に考えたり話し合ったりしながら、「子どもの心に寄り添い共感する大切さ」について気付かされる研修であった。

◇発達支援セミナーⅠ(6/21)　サポーター・加配担当者対象　42 名参加
内容　「発達障害の子に関わるために大切なこと」
講師　大館市福祉部子ども課巡回支援専門員　佐藤たけこ氏　畠山佳子氏
○参加者の悩みや聞きたいことの事前アンケートをもとにグループで情報共有したことで、手立てのヒントが見つかった。また、同じ悩みを皆で共有したことで気持ちが楽になったという参加者が多かった。
◇グループの話し合いの時間を長くしたかったため、講話を短くしてもらったが、もっと話を聞きたかったという参加者もいたので、開催回数、内容の検討を次年度行う。

◇ファシリテーター研修会Ⅰ(7/1)　及びたしろ保育園ミニ公開保育兼ねる
　　R3 ファシリテーター研修会Ⅰを受講した職員対象　21 名参加
内容　公開保育参観後、SOAP 視点に基づく KJ 法の演習
講師　秋田県教育庁北教育事務所　指導主事　庄司伸子氏　指導主事　岡部賢哉氏
＜アンケートより＞

・参観後の協議は、写真やビデオを見て子どもの姿を見取るよりも、話題となった場面の前後の様子まで全員で共有出来たので話し合いがしやすかった。
・協議の方向に迷いが出たときには、視点やねらいに立ち返って考える、意見が出にくいときや深めたい部分では、隣同士で話し合ってみてから意見を出すなどの、他の園の工夫を知ることができた。
○実際に参観した後の協議は、子どもの姿や場面を共有して話し合うことができたと好評だった。
○ミニ公開保育と北教育事務所の実施市支援訪問の研修会の取り組みは、今年度初めて行ったが、実際に参観した後の協議は、子どもの姿や保育者の援助等について場面共有しているので、内容が深まった。

◇実技研修会　（８/23）

新規採用者から５年経験した保育士、保育教諭、保育補助者対象
20 名参加

内容　絵本・手遊び・ふれあい遊びの紹介（演習・情報交換）
講師　大館市公立保育園　主任保育士
＜アンケートより＞
・自分の園でやっている手遊びや歌でも、他の園ではアレンジを加えて、いろいろなバージョンがあることを知った。季節に合ったアレンジや子どもの興味 を引くアレンジをして、実践してみたいと思った。

手遊びの演習

・絵本の内容を遊びに繋げていくというお話しがあり、子どもたちの好きな絵本を選び、遊びに繋がる方法を考えてみたい。
○昨年度も好評であり引き続き開催した。若年層を対象としたが、学んだことを自分なりに保育に取り入れていこうとする感想が多かった。
△運動や外遊びの研修を要望する感想もあり、次年度の参考にしたい。

◇発達支援セミナーⅡ　（８/29）　幼稚園教諭・保育教諭・保育士対象　39 名参加
内容　個別の教育支援計画作成について（講義・演習）
講師：秋田県立比内支援学校　教育専門監　藤田久美子氏
＜アンケートより＞
・実際に作成した支援シートを活用しながら研修に参加することで、照らし合わせながら講義を聴くことができ、とても分かりやすかった。
・演習では、小グループで１つ１つ書き方を確認できたので、理解が深まった。
○園で悩みながら迷いながら作成していた先生方が多く、あらためて勉強して理解を深める場となった。事前にアンケートを収集していたので、ポイントがはっきりした。
△来年度は、記入したものを持ち寄り、情報共有の場を設けたい。

◇５歳児研修会(11/18)　年長児担当対象　33 名参加
内容　保育要録の記入について
講師　北教育事務所　指導主事　庄司伸子氏　指導主事　岡部賢哉氏
＜アンケートより＞
・事例を用いての演習は分かりやすく、リフレーミングや文例を活用した文章構成を園内研修に取り入れたい。
・要録の根底には、保育計画や日々の記録の大切さ、子どもの姿から育ちを見取る力等、どの保

育者にも求められているものがあると感じた。
○演習が個人→グループ→代表者発表の形で進められ、個人で考える時間もグループで話し合う時間も十分保障されたので、自分の考えを深めたり他者の考えを理解したりしながら学ぶことができた。

◇ファシリテーター研修会Ⅱ(12/8)　園内研究をリードする中堅職員対象　22 名参加
内容　研究協議の実践
講師　北教育事務所　指導主事　庄司伸子氏　指導主事　岡部賢哉氏
＜アンケートより＞
・この研修でファシリテーターの役割・協議の進行の仕方をより深く学ぶことができました。先生方から出してもらった意見を受け止め共感することで意見を出しやすい雰囲気づくりをすることや、そこから絞ったり引き出したりする力を身に付けられたらと思います。園内研修を通して、お互い支え合い、高め合えるような関係性が生まれるとよいと思います。
・ファシリテーターの役割を全員が知り、順番にやってみることで、会議・研究・研修の進め方
・進み方が変わるのではないかと思います。
○参加者は園内で SOAP 型の協議を実践しており、その実践の中で抱いていた迷いや不明な点を参加者同士で確認したり指導主事の先生方に直接聞いたりすることができ、自園での協議の進め方の参考になった。

◇子どもの虐待研修会(1/18)　園長・主任・保育士等対象　37 名参加
内容　子どもの虐待対応について（講義・演習）
講師　大館市子ども課児童相談係　社会福祉主任　松田さとみ氏
＜アンケートより＞
・虐待がその時だけの問題ではなく、子どもの脳を傷つけ、その後の人生にも影響をおよぼすことを考えた時、虐待の早期発見・通報が大切だと改めて感じました。万が一、園で家族の虐待に気付いた時、園からの通報により保護者との信頼関係がそこなわれるのではという心配もありましたが、子ども課の方で関係性を崩さないよう対処してくださるというお話を聞き、相談・通報することへのハードルが下がりました。
・研修会での演習を自園に戻り、職員と一緒に再度やってみました。演習を通していろいろな思いや考えを共有し合いました。保護者の小さな変化・子どもの虐待に気付けるように目配りしていきたい。

② 基幹保育園ミニ公開保育の開催
大館市就学前教育・保育施設職員を対象に公立保育園９園の保育を公開することにより、自園の保育の質の向上につなげることをねらいとして実施した。事前に各園の研究テーマとサブテーマを情報提供し、参加者も自園の研究に活かせるようにした。

◇たしろ保育園（7/1）　北教育事務所指導主事、小学校長、関係者評価委員、
就学前教育・保育職員 23 名参加
＜アンケートより＞
・指定クラス以外も参観させて頂き、年齢を考えた環境構成が参考になった。
・広い園庭で、のびのびと思いっきり遊ぶ子どもたちの姿が印象的だった。

◇城南保育園（7/12）　小学校長、関係者評価委員、就学前教育・保育職員 23 名参加
＜アンケートより＞
・限られた空間の中で、やってみたいことをのびのびとできる環境作りがされていた。様々な素材から子どもたちがさらに新しいものを作ろうとする姿も見られた。保育室の手作りのおも　ちゃに温かさを感じることができた。
・園庭のプールや水遊び、泥遊びを保育者も一緒に全力で楽しむ姿がとても素敵で、見ている私もとても楽しくなりました。

◇十二所保育園（8/30）
小学校職員、関係者評価委員、就学前教育・保育職員
24 名参加
＜アンケートより＞
・「誰か手伝って」と自分から発信したり、重くて砂を運べずにいるお友達にそっと手をかす子どもがいたり･･･。伝え合う力、気付く力、協力し合う力が育っていると思いました。
・保育士等の間で声を掛け合いながら連携して子どもたちを見守っていました。当たり前のことですが、大切なことだと改めて思いました。

◇東館保育園 （9/13） 小学校校長、関係者評価委員、就学前教育・保育職員 25 名参加
＜アンケートより＞
・困ったことや問題が発生した時、保育者が解決するのではなく、「どうしたらいい？」と聞いて、子どもに考えさせようとしたり話し合わせようとしたりしていたのが、よかったです。
・保育者が、子どもの思い・言葉を優しく受け入れているところ、楽しさ・驚きに共感していているところが、ステキな関わりだなと思いました。

どろんこ遊び

◇有浦保育園(10/26) 小学校校長、関係者評価委員、就学前教育・保育職員 22 名参加
＜アンケートより＞
・ビニールのかくれんぼスペースは、静かにできそうな場所だったり光を楽しめる場所だったり、遊びの幅が広がりそうだと感じました。環境作りの参考になりました。
・保育者が受け止めてくれる安心感をもちながら、やりたいことがじっくりできていました。遊びの保障もしっかりできていると思いました。

◇大館乳児保育園（10/27） 就学前教育・保育職員 18 名参加
＜アンケートより＞
・子どものしたいことに合わせた保育や環境になっていて、一人一人の子どもが安心した表情でゆったりと過ごしていると感じました。
・陽射しの中で本を読もうとして、子どもが絵本を持って外に出ました。好きな場所で好きな遊びをじっくり楽しめる環境作りをしていると感じました。

◇釈迦内保育園(10/31) 関係者評価委員、児童民生委員、就学前教育・保育職員 17 名参加
＜アンケートより＞
・友達同士のトラブルに対して、どの先生も年齢やその子の特性に合わせた援助をしていて、すばらしいと思いました。
・友達とやり取りしながら遊ぶ姿がたくさんありました。「今、ぼく使っているから、あっちのを使ったら？」というように、思いを言葉で表せていることもいいなあと感じました。

◇扇田保育園(12/7) 小学校教諭、保護者代表、就学前教育・保育職員 22 名参加
＜アンケートより＞
・各クラスゆったりじっくり好きな遊びをする空間があってよかった。他のクラスの子どもも行き来し異年齢交流も見られた。以上児の真似をしてやろうとする 1 歳児の子どもたち、興味も広がっていました。
・友達といろいろな案を出しながら階段を作ったり、子ども主体で遊びを進めたりしていてすばらしいと思いました。

◇西館保育園(12/8)　　就学前教育・保育職員 24 名参加
＜アンケートより＞
・園全体が伸び伸びとした雰囲気が感じられ、園長先生をはじめ、職員の皆さんの保育を楽しむ思いが伝わりました。
・忍者になりきる環境作りや言葉掛けは子どもの遊ぶ意欲を高めていました。忍者ごっこの中に身体を動かす手立てがいろいろ仕掛けられていて、すばらしいと思いました。

◇城南保育園分園(12/20)　就学前教育・保育職員 20 名参加
＜アンケートより＞
・子どもの発見したことを聞き逃さず一つ一つ丁寧な関わりがされていたことが、すごく良かったと思いました。
・どこのクラスも、子どもがやりたいことにとことん付き合う保育士さんの姿がありました。だからこそどの子も伸び伸び遊んでいたのだと思いました。

○ミニ公開保育を参観することで、自分の保育の方向性を考えたり環境の構成の参考にしたりしようとする前向きな声が多かった。また、公開園も参加者の感想が保育改善の参考になったり、励みになったりした。
○参観者に対して「保育改善に生かしたいので率直なご意見を！」呼びかける園もあり、他の園の先生方のアドバイスを積極的に求める姿勢が見えてきた。
○市主催となっているミニ公開保育は、１園増え１０園になり、保育の参考にできる枠が広がった。

③　基幹保育園（５園）主催の研修会：オーダーメイド研修会
・公立園長会で研修会内容が重ならないように調整し、多様な研修を受講できるようにした。

実施園	実施日	内　容	講　師	参加者
大館感恩講	6/22	保育者の心模様	西館保育園 園長　佐藤和博　氏	１３名
扇田保育園	8/10（コロナにより延期） 2/1 実施予定	折れない心の育て方	緑の牧場教会 牧師　村岡昇　氏	
たしろ保育園	10/25	楽しいお絵かき	ATELIER　Ｋｏ 成田康　氏	３２名
城南保育園	12/1	地球温暖化・SDGｓについて	あきたエコマイスター 藤原清美氏 藤原久子氏	２１名
有浦保育園	12/13	保護者と、どう向き合うか	大館市立中央公民館 主任・生涯学習コーディネーター　一関留美子氏	２０名

○保育者の日々の悩みや迷いに合致した研修や実践に結びつく研修が実施できている。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」
①　就学前教育と小学校との円滑な接続のための支援
◇小学校の授業参観と協議・保育参観と協議・保育士体験
たくさんの小学校で園の先生方による１年生の授業参観が実施されている。１学期の早い段階で、授業参観と情報交換、交流の打合せをしている。また、ＰＴＡ授業参観日やみんなの登校日に保育園の先生を招待する学校もある。
保育園では、要請訪問や関係者評価、園行事に小学校の職員を招待している園が多い。また、

夏休みを利用して、小学校教諭が保育士体験をする研修や、小学校が保育士等と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした研究協議も増えている。

子ども同士の交流も大変多く、農作業に園児を招いて一緒に活動する交流や、生活・総合の時間に保育園を訪問する交流も計画されている。また、連絡協議会を組織している学区では、園児・児童（・生徒）のめざす子どもの姿や共通実践事項を話し合っている。学区の子どもの育ちを保・小（・中）で、また、地域とも共有しながら取組を決めて実践している。

２日間で６名の小学校教諭が保育を体験

多少の雨でも元気に外遊びしていました。虫探しでは、自分で虫を探すだけでなく友達と協力して捕まえたり捕まえた虫を友達にあげたりして、**友達との関わりを深め**ていました。プール遊びの場面では、「見てて！〇秒もぐる！」「〇秒できた！」と**自分なりに目標を決めて達成する喜び**を味わっていました。自分からあまりそのようなことを話さない子どもには、先生が、「〇〇君、前は～だったよね。できるようになってすごい！」とその子の**頑張りを見取って褒めて**くださっていました。**一人一人にていねいな関わり**ができていることがすばらしいと感じました。　〈保育士体験の小学校教諭の感想〉

〇入学前の早い段階で１年生の授業を参観し話し合うことは、入学後の１年生の適応状況について情報交換したり子どもの育ちを共有したりして今後の支援に生かす上でも大変有効であった。また、スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムの見直しにもつながった。

〇各園の保育の参観に、校長、教頭、１年生の担任だけでなく、全職員が参加するところや、その後の研究会にも参加する小学校が増えてきた。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共通理解のために有効な実践である。

△生活科における子ども同士の交流が単なる招待に留まっていたり、T2・T3 として参加する保育士との打ち合わせや役割分担が曖昧だったりする場合も見受けられた。

<u>◇幼保小連携だより「つなぐ」の定期発行（月１回）</u>

・大館市の全就学前教育・保育施設（35 施設）のほか、小学校、北教育事務所、他市の保育アドバイザー、市教育委員会、子ども課に配布。

・わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業について、「大館の保育・教育を語る」の連載、就学前教育・保育と小学校の教育の連携のための情報提供、研修・訪問の実施状況、感想等を掲載している。

・保育と教育双方の理解を進めるための特集として交流の実践例、「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』で考える幼保小のつながり」などを特集した。

・幼保小の架け橋プログラムの趣旨・内容の周知・普及の為の情報を提供している。

〇園と小学校との交流、小学校職員の保育参観・体験、研究協議への参加、幼保小連携便りの情報提供等により、小学校職員の保育への理解が深まってきている。

△他市の連携だよりを参考にして、興味関心のある記事の掲載や読みやすい紙面の構成を心がけたい

② 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の実施

<u>◇幼保小連携推進会議　(5/16)</u>　副園長・主任、教頭・養護教諭対象　43 名参加

内容　「効果的な幼保小連携について」の講話　講師　北教育事務所　指導主事　岡部賢哉氏

「生活習慣の確立について」市学校保健部会　養護教諭の発表

メデイアコントロールについての協議

○メデイアに対する早期からの取り組みや家庭への啓発の必要性を実感することができた。メディアコントロール週間に参加したいという就学前施設が多いことも分かり、幼保小連携して取り組んでいきたい。

◇幼保小担任合同研修会(5/31)　年長児・小１担任・養護教諭対象　66 名参加
内容　「育ちや学びの連続性をふまえた円滑な接続」について
講師　北教育事務所　指導主事　岡部賢哉氏
○講和後、スタートカリキュラムについての情報交換や連携交流事業の具体について協議し、有意義な会となった。
○養護教諭が初の参加となり、生活習慣の確立について実態や課題を共有しながら、保護者への啓発の手立てを共に考えることができた。

◇大館市教職員夏季研修会（8/3）
就学前全施設職員・小学校教職員対象　46 名参加
「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿を意識した乳幼児期からのカリキュラム
～基盤となる考え方としての一考察～」
学校法人柴田学園大学短期大学部　学長　　柴田幼稚園　園長
島内智秋氏
○カリキュラムに対する基本的な考え方と、保育にどう反映させるかなどの具体を豊富な事例を交えて講話いただいた。参加者で認識を統一することができた。

◇大館市教育研究会生活科部会（10/21）山瀬小学校２年生の授業参観・研究協議
就学前全施設職員 18 名・小学校教職員８名、行政関係者　５名　参加
○小学校の先生方は教材や援助について、子どもたちの思考や活動を想定した上で様々な配慮や工夫がなされており、就学前の先生たちにとって参考になった。
○小学校２年生の授業を参観する機会は少なく、１年生の育ちの姿とは違った成長、発達を知ることができた。

◇大館市教職員実践発表会（1/6）
就学前全施設職員・小学校教職員対象　102 名参加
実践発表
・扇田保育園　　「自分が大好き　友達も大好き　友達に共感できる子ども」
～子どもの育ちを理解した遊びの環境づくりと保育者の関わり～
・十二所保育園　「思いっきりやってみよう」
～ファシリテーターの挑戦　全員参加の語り合い～
＜アンケートより＞
・普段の活動の中で、子どもの姿やつぶやきから一人一人を理解し、自分のよさに気付けるような声掛けや支援などが成長につながっているのだなと思いました。「受け入れてもらう」「認めてもらう」ことにより自己肯定感が高まり、自己表現や共感力につながるということを改めて感じ、私も日々子どもと関わる中で、一人一人が満たされる環境づくり・支援・声掛け、大切にしていきたいと思いました。（小学校養護教諭）
・園内研究のやりにくさなど意見を拾って、保育士がやりやすいように、また、時間短縮となるように改善していることがとてもよいと感じた。『G-SO♡AP!』と十二所保育園独自の協議方法を見つけ出したことで、子どもだけでなく保育士も認められる経験ができ、自信につながっていると思った。保育士もモチベーションを保ちながら保育している様子が印象的だった。『保育はチーム!』という大切さを改めて感じた。（保育士）
○公立保育園２園からの実践発表があり、小・中学校の教職員もその分科会に参加し、保育への理解が深まった。
○幼保小中の連携が大切であることをあらためて意識したという感想が多かった。

◇大館市保育実践発表会（1/27.1/30 実施予定） 就学前全施設職員・小学校教職員対象 115 名

実践発表

・扇田保育園　「自分が大好き　友達も大好き　友達に共感できる子ども」
～子どもの育ちを理解した遊びの環境づくりと保育者の関わり～

・十二所保育園　「思いっきりやってみよう」
～ファシリテーターの挑戦　全員参加の語り合い～

教育研究所　副主幹　山本多鶴子氏
幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業」について

（５）「県との連携体制の充実」

◇県主催協議会・研修会、教育・保育アドバイザー連絡協議会への参加

・園長等運営管理協議会（4/27）・就学前・小学校等地区別合同研修会（5/16.5/31）
・教頭・主任等研修会（5/10.11/2）・園内研究リーダー養成講座(6/30.10/12)
・教育・保育ＡＤ連絡協議会（4/22.6/24.8/25.10/25.1/24）

○アドバイザー研修では、他市の事業内容や進め方、アドバイザーとしての関わり方、保育の見方など学び、本市の事業に生かすことができた。

◇秋田県教育庁幼保推進課との連携体制と役割分担の明確化

・県幼保推進課・北教育事務所の要請訪問への同行(18 施設)。
・北教育事務所指導主事等との打合会の開催（年２回)。

〈具体的な連携〉

・北教育事務所指導主事による市の事業や研修への支援・協力
・市アドバイザーが依頼文書、研究内容、指導案の見直し後、各園で訂正し、その後、北教育事務所へ送付。それを受けて、北教育事務所から各園に日程・内容の確認。
・同行訪問では、子どもの姿や保育者の関わり、環境の構成等で気付いたことを指導主事と情報交換し共有。
・市主催研修会に内容について、打ち合わせや情報共有。

○市主催研修会の内容を県と共有できたので、参加者が同じ内容を何度も聞くことがなくなった。

○県による教育・保育アドバイザー等の研修参加や県教育庁北教育事務所要請訪問同行により、アドバイザーとしてのスキルアップにつながり、園訪問での助言に生かすことができた。

３　わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(R４)の成果と課題

○市主催の研修会が定着し、多くの参加者がいる。中でも年齢別研修会・実技研修会の内容は、園での実践に直接生かすことができるものなので、保育者の意欲を高めるものとなっている。

○ファシリテーター研修会で研究協議の基本的な進め方を学んだ先生達が増えたことにより、園での協議が充実してきている。協議を重ねることで、子どもの育ちの見取りを確かなものとし、保育の質の向上にも繋がっている。

○保育士等が小学校の研究会に参加し参観・協議を行ったことは、保育・教育双方の理解に有効であった。公開保育研究会や各園の要請訪問には、小学校の教職員はじめ、近隣園からも参加がある。育みたい資質・能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を視点に参観したり協議をしたりすることで、多くの教育関係者が架け橋期の育ちを共有することが増えてきている。

○様々な研修会や園長会、主任会等で市アドバイザーの業務内容やメリットを伝えてきたことにより、園内研究に市アドバイザーの継続的な支援を求める保育施設が多くなり、再訪問した時は、助言したことや話し合われた内容等について改善されていることが増え、その成果を実感している。

●市主催の研修会や公開保育への参加の有無は施設によって違いがあることから、情報共有にも差が出てくる。今後も参加を促すとともに、欠席時には、どのように情報や研修内容を伝えるか検討

する。
●へき地保育所は、園児数の減少により集団としての保育の質が保たれていくのか心配なところもある。また、所の運営や研究、若手職員育成の悩み等への助言の機会を増やしていきたい。

実施市の具体的な取組（男鹿市）

1　教育・保育の現状と課題
（1）教育・保育アドバイザーの継続的な支援のもと、保育者の研修意欲の高揚を発展させ、就学前教育・保育の推進体制を定着させていくことが課題である。
（2）市教育委員会指導主事と教育・保育アドバイザーの連携による接続を見通した教育課程の編成を目指し、接続期の質の高い教育・保育体制の充実・強化が必要である。

2　令和４年度の目的、重点、実施内容
【目的】
・ 教育・保育アドバイザーによる市内就学前施設への巡回訪問を通して保育内容や保育者の支援、キャリアに応じた研修会を開催し、就学前教育の質の向上を図る。
・ 幼保小の円滑な接続のため、市指導主事との連携を密にしながら、男鹿市就学前・小学校合同研修を開催し、幼保小が接続期の重要性を共有する。また、公開保育や授業参観等を通して、幼保小の職員が互いに学び合う体制づくりを構築する。
・ 県主催研修会等への参加により教育・保育アドバイザーとしての専門性の向上を図る。

【重点】
・各就学前施設の訪問を通して、各園の課題解決に応じた保育者支援と園内研修の支援を図りながらスキルアップを図る。
・県主催研修会や教育・保育アドバイザー連絡協議会等に参加し、教育・保育アドバイザーの資質向上に努める。

【実施内容】
（1）「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」
・教育・保育アドバイザーの配置
・保育者の専門性の向上を図るため各種研修会を実施
・専門機関との連携推進
・市教育委員会との連携実施
〇担当課から市教育委員会や市指導主事へ連絡を取ることにより、徐々に接続期の重要性が浸透してきている。今後も積極的に連絡を取りながら就学前教育につなげていきたい。
●連携を待っているのではなく、担当課が主体的に働きかけていく必要がある。
△乳幼児理解につながるよう担当課だけでなく、関係する課や関係機関との連携を取りながら進めていく。

（2）「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」
・教育・保育アドバイザーを１名配置し、毎月１回、各就学前施設を計画的に訪問し、保育参観、園内研修、公開保育やサポート事業の事前打ち合わせ、園運営の相談等に対する支援を実施。
・専門機関職員の参加による特別支援会議や指導主事要請訪問の同行実施を通して、知識や技術等を学ぶ。
・年度当初の園訪問は、園運営や本事業に対する今年度の方向性について話し合い、年度末には１年間の成果と課題、要望等について聞き取りし次年度に活かす。
・主に異動職員、フレッシュ職員等を対象に個人面談をする。

◇令和４年度アドバイザーによる巡回訪問･指導（男鹿市）

⑥派遣実績　計１５施設／教育保育施設全９施設 小学校６施設 １０４回	
回数	・幼稚園：私立１園（９回） ・保育園：市立６園（６６回） ・保育所型認定こども園：市立　１園（８回） ・その他の施設：（事業所内保育施設　１か所（２回） ・小学校：６校（１９回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（実績のうち、９園（６２回） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（実績のうち、４園（１０回） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（実績のうち、９園（４７回） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（実績のうち、９園（８５回） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（実績のうち、９園（３３回） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（実績のうち、８園（　６回） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（実績のうち、６校（１９回） ・特別支援訪問（実績のうち、８園（　７回）
理由	・市内の就学前施設を訪問し、保育内容や園内研修、園の課題について支援し、保育の質や専門性の向上を図るため。また、市内の小学校を訪問し、円滑な接続に向けての相互理解を深めるため。

○保育内容や園内研修における成果や課題等について、保育者と一緒に考える場を持ったことで、保育や園内研修に対して意識しながら実践するようになってきた。また、園内研修では、活発な意見交換を通して自分の考えや思いを伝える力がついてきている。

●保育の質や実践力に個人や園に差がある。「主体性を大事にした保育」や「子どもにとって」、「発達」や「関わり方」等、今後も一人一人に応じて一緒に考えていかなければいけない。また、園内研修では、研究を深めていくために「その後どうしていくのか」についての支援が必要である。

△保育の振り返りや園内研修担当者による振り返りの時間をその都度確保していくために事前に当日のスケジュールに入れるよう伝えていく。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

①６月１０日（金）フレッシュ研修Ⅰ・Ⅱ（キャリア別研修）

会場：男鹿市脇本公民館　　参加者８名

内容　「週日案の書き方と振り返りの仕方について」

講師　秋田県教育庁幼保推進課　主任指導主事　武石郁子　氏

講師　秋田県教育庁幼保推進課　幼保指導員　　阿部真理　氏

講師　秋田県教育庁幼保推進課　教育・保育アドバイザー　山上真智子　氏

○内容を、研修対象者である１～５年目向けとしていただいたことで、分かりやすかったという感想が聞かれた。また、研修会後の実際の指導案では、項目のポイントを理解して書くようになった。

●指導案の項目の理解はしていても、いざ書くと一般的な書き方になっていることもあるため、子どもの姿から何を育てたくて、どう保育をしていくのか等、具体的なことを一緒に考えていく必要がある。

実際に指導案を作成

△振り返りの時間に、指導案の内容についても一緒に考えて

いくようにする。

②７月６日（水）全体研修　会場：男鹿市民文化会館
参加者９名
内容　「週日案の書き方と振り返りの仕方について」
講師　秋田県教育庁幼保推進課　主任指導主事　武石郁子　氏
講師　秋田県教育庁幼保推進課　幼保指導員　　阿部真理　氏
講師　秋田県教育庁幼保推進課　教育・保育アドバイザー　山上真智子　氏
○各園の要望により、開催した研修である。参加者からは「指導案の必要性」や「項目の捉え方」、「何を育てたいのか」、「何をどう経験していくのか」など、一つ一つ具体的に教えていただき、今までの悩みが解消されたという感想が多くあった。その後の園訪問では、今回の学びを活かした指導案の書き方に努めていると感じる。
●今回の学びが各園の一人一人に浸透しているわけではないので、今後も園訪問等を通して一緒に考えたり、アドバイスをしたりしながら、子どもの姿からの指導案になるよう支援していく必要がある。
△園全体に浸透するよう園内研修等で今回の学びを伝えていく。

講師を交えて話し合う

③１０月２９日（土）全体研修（キャリアアップ対象研修）
会場：男鹿市民ふれあいプラザ　　参加者１４名
内容　「乳幼児教育・保育の理解」
講師　秋田県教育庁幼保推進課　主任指導主事　武石郁子　氏
○「保育を深く考える機会となった」「各年齢に応じた捉え方の必要性が心にしみた」「指導計画に反映していきたい」等、前向きな感想が多かった。自分の保育を振り返り、本日の学びを活かした保育となるように努めている姿が園訪問等で見られるようになった。
●今後も、保育の基本を再確認できるような全体研修や学びを継続していく必要がある。

④１１月９日（水）キャリア別研修　（臨時保育士・臨時幼稚園教諭研修）
会場：男鹿市脇本公民館　　参加者７名
内容　「保育の質を高めるために」
講師　秋田県教育庁幼保推進課　主任指導主事　武石郁子　氏
講師　秋田県教育庁幼保推進課　教育・保育アドバイザー　山上真智子　氏
○普段保育に関する研修を受けることが難しい臨時保育士にとって、０・１・２歳児の未満児、３・４・５歳児の以上児、それぞれの各年齢の育ちの理解と保育者の関りについての講義は新鮮で大きな収穫となった。その後の園訪問において、子どもをよく見るようになったり、ゆっくり話しかけたりするなど保育に対する気持ちの変化が感じられるようになった。
●研修については「今回初めて受けた」「何年も受けていなかった」という参加者からの話があった。学びの場は正職員、臨時職員に関係なく平等に提供していく必要がある。
△園訪問において、各園で実施されている保育参観、保育参観後の振り返り、園内研修、保育を語る会、クラス会議等に臨時保育士も参加できるよう伝えていく。

⑤１２月８日（木）公開保育研究会（男鹿市立北浦保育園）
…新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」
・教育委員会と担当課が４月に令和４年度の方向性について確認し、１月には令和５年度に向け

ての協議の場を設定
・市指導主事と連携をしながら「男鹿市就学前・小学校合同研修会」を開催
・各小学校主催の幼保小連絡協議会に参加（第１回：４月、第２回：２月）
・公開保育研究会や要請訪問日に、小学校教職員が保育参観と協議に参加するよう市教育委員会や学校へ依頼
・各小学校主催の公開研究授業に保育士等が授業参観と協議に参加できるよう依頼
・幼保小相互理解のため、認定こども園船川保育園保育士と船川第一小学校１年生担任、船越保育園保育士と船越小学校１年生担任が１日職場交換体験。小学校教諭による保育士体験は小学校の夏休み期間中、保育士等による小学校教諭体験は６月
・保育士等が小学校フリー参観等に出席

①男鹿市就学前・小学校合同研修会
７月２７日（水）　会場：男鹿市民文化会館　　参加者１２名
内容　「育ちと学びをつなぐ幼小の円滑な接続について」
講師　秋田県教育庁幼保推進課　指導主事　佐藤忠浩　氏

5歳児年間指導計画の発表

円滑な接続のための取り組みを学ぶ

○スタートカリキュラムと５歳児年間指導計画を互いに持ち寄り、説明・紹介し合ったことで学校教育や園の教育・保育内容の相互理解につながった。参加者からは「お互いのカリキュラムを意識しながら作成したい」「一緒に話し合いながらお互いの子どもの育ちを大事にしたカリキュラム作成をしたい」という感想が聞かれ、育ちのつながりが大事であるという意識が相互にできた。
●今後も、幼保小の職員同士が「円滑な接続」「育ちの連続性」等の重要性を共有することができるように合同研修を開催する必要がある。
△今後は合同研修が定着していくよう連絡協議会や授業参観、連携通信等を活用し効果などを伝えていく。

②各小学校と就学前教育施設との連携
・男鹿市立船川第一小学校
５月１９日（木）幼保小連絡協議会
７月１３日（水）一日小学校教諭体験（１年生）・協議
２月　３日（金）体験入学
２月２８日（火）幼保小連絡協議会
・男鹿市立脇本第一小学校
６月　３日（金）幼保小連絡協議会
１０月１３日（木）授業参観（１年生と２年生）
・協議

２月　２日（木）体験入学・入学説明会

・男鹿市立船越小学校

６月　９日（木）幼保小連絡協議会

２月１０日（金）幼保小連絡協議秋

・男鹿市立払戸小学校

６月　９日（木）幼保小連絡協議会

７月　５日（火）授業参観（１年生）・協議

・男鹿市立美里小学校

５月２７日（金）幼保小連絡協議会

１１月１１日（金）体験入学

２月２４日（金）幼保小連絡協議会

・男鹿市立北陽小学校

２月１３日（月）幼保小連絡協議会

保育士が教諭体験

○就学前施設職員は、これまで幼保小連絡協議会以外への参加がほとんどなかった。前年度末に、円滑な接続に向けて市教育委員会と担当課が協議の場を持ったことにより、授業参観や協議に参加することができた。このことがきっかけとなり、就学前施設職員と小学校教職員が相互に接続の重要性を意識し理解するようになった。

●円滑な接続のために今後も引き続き協議会、授業参観、一日小学校教諭体験、一日保育士体験等を継続していく必要がある。

△様々な場面を通して連携の大切さを各就学前施設や小学校に伝えていく。

（５）「県との連携体制の充実」

・県と連携しながら就学前施設や保育士等の課題解決に向けた継続的指導や支援

・就学前教育推進協議会、教育・保育アドバイザー連絡協議会への参加

・市主催研修会講師として依頼

・県教育・保育アドバイザーの育成支援の活用

○研修会開催に向けて講師と事前打ち合わせをすることにより、参加者が事前学習をし、意識しながら参加するようになった。意欲的な参加につながっている。

○要請訪問への同行が、教育・保育アドバイザーのスキルアップにつながっている。また、市に学ぶ研修では各市アドバイザーから学ぶものが多くあり今後も継続してほしい。

３　わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(R４)の成果と課題

○園訪問で、保育参観後や園内研修参観後に一緒に考える時間を持ったことで、「子どものため」を軸として「自分のための保育」や「自分のための園内研修」として受け止めるようになり、意欲的に「子どものため」を意識した保育をするようになった。また、今後は更に「自分のための」が「園全体のため」につながっていくことに期待している。

○園訪問から見えてきた課題から、必要と思われる研修会を設定したことで、保育の質や専門性の向上につながってきている。

○小学校との円滑な接続については、就学前施設と小学校との協議会、小学校教職員の保育参観、授業参観への参加、幼保小連携通信「ぶらんこ」による情報提供等により、小学校教職員の就学前施設の教育・保育の内容に対する理解が深まってきている。

●「認定こども園サポート事業」を市内の公立保育園全体で取組んでいることから、これまで継続してきた研修会の内容や開催数を就学前施設と相談しながら見直していく必要がある。

●小学校との連携では「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を共通のものとして、協議し合う中で「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」をより深めていく必要がある。

実施市の具体的な取組（横手市）

1　教育・保育の現状と課題
（1）各幼児教育施設において、教育・保育の質の向上に向けた研修の充実等の体制が構築されてきたが、継続実施できる体制づくりが必要である。
（2）幼児教育施設と小学校との連携・接続組織は構築されてきたが、その実施に温度差が見られる。
（3）小学校・幼児教育施設教職員等の双方における子どもの学びや資質・能力のつながりへの理解をより深めていく必要がある。

2　令和４年度の目的、重点、実施内容
【目的】
本市において３年間実施済みの「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」の成果を踏まえて、県と連携しながら、幼児教育施設の教育・保育の質の向上と幼小の円滑な接続に向けた体制を構築する。

【重点】
事業体制を見直し、地域で学び合う体制づくりの新たな課題に向けた研修会への取組、訪問支援への取組の基盤体制づくり

【実施内容】
（１）「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

・市民福祉部との協力による関係機関のつながりの強化
◇横手市子ども・子育て会議、横手市幼小接続推進協議会の事務局としての連携
◇５歳児健康相談会、「幼児言葉の教室」への通級等を通して

○５歳児健康相談会で保健師が対応して気になる園児をアドバイザーが面談を通して、より詳しく観察し、必要に応じて巡回相談を勧めている。
●市民福祉部幼保担当課との情報交換会を通し、より連携を深めたい。

・「横手市幼小接続推進協議会」における市一体としての具体的な取組につながる協議及び関係団体との協力強化（年２回の協議会開催と各団体との会議・研修会開催）
◇第１回横手市幼小接続推進協議会開催：令和４年６月１７日
【会場】横手市条里南庁舎会議室
【参加者】協議会委員（１０名中８名）事務局（７名）

◇第２回横手市幼小接続推進協議会開催：令和５年２月１５日実施

○今年度は、従来の一斉協議の形ではなく、２グループを編成しアドバイザーが進行役を務めて協議し合った。実践や部局の事業内容などの紹介を促す等具体的な話を引き出すことによって課題を明確にすることができ、今年度の方向性を確認できた。
●各団体での共通理解を図ってもらえるよう、より細かに働きかけていく必要がある。

（２）「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

・教育指導課に教育・保育アドバイザー２名の継続配置
・要請訪問及びその前後訪問による、園内研修会の持ち方、諸帳簿作成等の支援
・保育士等との面談、気になる子の保育やその保護者への対応、幼小接続についてなど園のニーズに応じた随時訪問の継続

2023/1/17

No.	期　日	会　場　園	他園からの参加（人数）	総計	小学校の参加態勢等
1	6月8日	こひつじ	十文字保育園（4）三重保育所（3）にしの杜保育園（2）	9	十文字小学校校長・教頭　参観・協議
2	6月9日	大森保育園	川西保育園（3）	11	コロナ感染拡大防止のため参加見合わせ
3	6月22日	川西保育園	大森保育園（3）	12	大森小学校教頭　保育参観中に記載した付箋を協議に提出
4	7月20日	下鍋倉保育所	浅舞感恩講保育園（1）樽見内保育園（1）	17	浅舞小学校研究主任　保育参観・協議参加
5	7月22日	明照保育園	土屋幼稚園（1）横手マリア園（2）	13	横手南小学校校長　保育参観
6	8月5日	樽見内保育園	浅舞感恩講保育園（1）下鍋倉保育所（1）雄物川保育園（1）	9	浅舞小学校１年担任　保育参観・協議参加
7	8月9日	常盤保育園	ときわベビーハウス（3）	11	横手北小学校研究主任　保育参観・協議参加
8	9月6日	雄物川保育園	沼館保育園（1）醍醐保育園（1）	7	雄物川小学校教頭　保育参観
9	9月16日	にしの杜保育園	十文字保育園（1）こひつじ幼稚園（1）	13	十文字小学校校長参観　教頭保育参観・協議参加
10	10月4日	ますだ保育園	なし	16	増田小学校校長・教諭　保育参観・協議参加
11	10月14日	たいゆう保育園	なし	6	大雄小学校教諭・校長　保育参観　校長協議参加
12	10月24日	相愛こども園	むつみこども園（3）・乳児園（1）金沢保育園（1）常盤保育園（1）和光子ども園（1）十文字保育園	30	横手北小学校校長・教諭保育参観　旭小学校校長保育参観
13	11月30日	醍醐保育園	雄物川保育園（1）	16	醍醐小学校校長　保育参観・協議参加
14	12月14日	沼館保育園	雄物川保育園（1）むつみこども園（3）	11	雄物川小学校2年担任　保育参観・協議参加
15	12月13日	浅舞感恩講保育園	樽見内保育園（1）下鍋倉保育所（1）	11	行事の都合で参加見合わせ
16	1月17日	吉田保育所	醍醐保育園（1）	10	吉田小学校

◇令和４年度アドバイザーによる巡回訪問･指導（横手市）

⑥派遣実績　計　54 施設／全 54 施設　500 回	
回数	・幼稚園：私立４園（61 回） ・保育園：公立３園（46 回）、私立 22 園（328 回） ・幼保連携型認定こども園：私立４園（58 回） ・その他の施設：（へき地保育所　園（　回）児童館　か所（　回）、小規模保育施設　か所　（　回）、認可外保育施設７か所（60 回）、事業所内保育施設　か所（　回）） ・小学校：14 校（175 回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、33 園（66 回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、15 園（21 回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、17 園（17 回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、2 園（2 回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、40 園（550 回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、3 園（3 回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、14 校（182 回））
理由	令和３年度の実績を踏まえ、より保育の質向上をサポートできる訪問を重視し、各園のニーズに応じ、継続した訪問をしていきたい。また、幼小接続について実際の接続組織の会議に参加し、小学校区ごとのニーズに合ったサポートをしてきた。

○事前訪問では、当日の保育参観の在り方や指導計画の見直し、参観後の園内研修の方法や内容についてアドバイザーが丁寧に関わっていた。園長・主任等との話合いもあれば、事前園内研修の形で、多くの職員が事前に研修する場合もあった。要請訪問当日も、ファシリテーターの後方支援をしたり、職員と一緒になって付箋に記入したりすることもあった。それによって、各園で園内研修が盛んに進められてきており、市主催の研修会を実際に生かした研修が多数の園で行われるようになってきた。実際に保育者も研修のよさに気付いてきており、前向きな感想が聞かれる。また、参観後に担任との振り返りの時間を設定し、担任の頑張りを認めるとともに、悩んでいた点、課題となる点について話し合う機会が得られた。研修後の園長、主任等との振り返りでは、職員の成長を価値付けていくことができ、今後の方向性を見付

けたり、園全体としての質向上に広げていこうとする姿が見られてきた、また、事後訪問では、指導主事の指導事項の中で、当該園の最優先課題と思われることについて、課題の確認、今後の取組方法や手順などの支援を行うことができた。

○公開保育研修会では、参加したことによって園内環境の気付きや研修の進め方など大変勉強になったという感想を毎回聞くことができた。ほどよい緊張感の中で互いの考えを交換することのよさと横のつながりのよさを感じつつある。

●園内研修への意欲、充実感はどの園も高まってきているが、研修と実際の保育がさらに結び付くようになっていくことが次のステップとなる。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

・テーマや年齢層など対象を絞った、短時間での研修を企画・運営

◇第１回横手市保育実践力向上研修会：令和４年５月２０日

【会場】横手市条里南庁舎講堂

【参加者】市内幼児教育施設職員（園内研修をリードする職員）３４名

【内容】講義「各園の特色を生かした研修計画の立案とその進め方」

横手市教育委員会教育指導課

指導主事　小川由美子

演習「具体的な計画を立案してみよう」

研修計画を実際に立てる研修

◇第２回横手市保育実践力向上研修会：令和４年９月２９日

【会場】横手市条里南庁舎講堂

【参加者】市内幼児教育施設職員（採用２、３年目の職員）２２名

【内容】講義「乳幼児の教育・保育で大切なこと」

横手市教育委員会教育指導課

指導主事　小川由美子

演習「レッツ　トーク！」

互いの園のよさや悩みをトークし合う

◇第３回横手市保育実践力向上研修会：令和５年１月１８日

【会場】平鹿生涯学習センター

【参加者】市内幼児教育施設職員３２名

【内容】講義「望ましい園内研修を進めるためのファシリテーターの役目」

秋田県教育庁南教育事務所　指導主事　石山　潤　氏

○ほぼ全ての施設から参加があり、計画的に園内研修を進めていくことの大切さを感じた感想が聞かれた。また、若手職員がやはりたくさんの悩みや戸惑いを感じながら仕事に向かっている現状も分かり、継続した支援が必要であると感じた。ファシリテーター研修も２年目の継続実施により、より多くの方への理解と実践を広げることができた。

●いずれの研修にも手応えを感じてはいるが、今後の現場での生かし方等継続支援が大切だと感じる。研修計画については、もう少し早い時期であれば良かったという声もあり、どの時期にどんな研修が必要かを現場の声をもとに考えていかなければならない。また職員不足で園外研修に参加しにくい園があることも実情なので、研修ありきにならないことを心掛けていきたい。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

・幼小教職員の合同研修会の継続開催
◇横手市幼小合同研修会：令和４年８月１８日
【会場】横手市条里南庁舎講堂
【参加者】小学校教頭または教務１４名　各幼児教育施設主任または副主任３６名
【内容】講義「今後の幼小接続の方向性について」
秋田県教育庁南教育事務所総務・幼保推進班
主任指導主事　　佐藤　伸剛　氏
協議「子どもの姿から学びを」

小学校区ごとに子どもの姿をつなぐために何ができるかを協議し合う

○昨年度と対象者を変え、マネジメントの中心となる教頭、主任にしたことで、子どもの捉え方の共通理解、研修の在り方、連携組織や事業の在り方、日常の情報共有など、より具体的な話合いをすることができた。

・小学校区での職員体験事業継続実施
◇小学校教職員参加者　２７名
幼児教育施設職員　２７名参加

小学校教師による保育体験

【体験報告書より】
子どもたちは自分の身の回りのことを自分でやろうとする意欲があるので、支援する場合は声掛けをして意欲を持続させたり、できないときに手助けをしたりすることが大切だと感じた。遊びの際にも、自主的な活動を見守りつつ、友達との関わりが難しいときに声を掛けるなど、支援のタイミングを大切にするという点は小学校と共通すると思った。

○継続実施により、幼小の職員同士の関係が良好になってきており、その後の連携にもつながっている。各小学校区で、それぞれの実情や必要な時期に応じて計画・実施されるようになってきた。

・互いの授業参観・保育参観の継続
○各小学校区ごとの公開保育研修会、要請訪問、計画訪問を通して、よりたくさんの先生方が参観し合い、協議に参加し合うことが多くなった。子どもの姿を通して話し合うことで、資質・能力に言及した意見交換も増えた。深みが増してきているように感じる。
●今年度小学校の生活科の研究校はこれまでにないほど多かった。さらに、幼児教育施設の先生方の参加がより進むよう働きかけていく必要がある。

保育参観を通して幼小の職員が子どもの学びの姿を協議し合う

・各小学校区での幼小連携委員会への参加と事業への支援

◇雄物川小学校区(5/10)	◇横手北小学校区（5/26）	◇朝倉小学校区（5/27）
◇醍醐小学校区（5/30）	◇吉田小学校区（6/10）	◇旭小学校区（6/15）
◇十文字小学校区（6/17）	◇大森小学校区（6/21）	◇浅舞小学校区（6/24）
◇大雄小学校区（6/27）	◇山内小学校区（7/1）	◇栄小学校区（7/8）

○それぞれの連携委員会へ参加したことで、書面ではわからない実情がよくわかった。それを踏まえて、他校区の事例を紹介していくことで、さらなる連携事業を推進していくことができた。

●年度末の連携委員会に参加し、幼小接続の目指すべきところの理解をより広げながら各小学校の温度差の改善に努めていく。

（５）「県との連携体制の充実」

・県主催の協議会・研修会、事業実施市主催研修会への継続参加
・県の指導を仰ぎながら事業体制の見直し、継続強化
・「市アドバイザーに学ぶ会」の継続実施
・県要請訪問への同行訪問

○年度始めと終わりに南教育事務所指導主事と研修計画、訪問等について協議し合う場をもったことで、方向性や内容について助言をいただき、それをもとに具体的に実施することができたり、来年度へつなぐことができたりした。また、他市町村の実践を参考にしながら、計画を改善しつつ研修、訪問を進めることができてきた。

●県の方向性をきちんと確認しつつ、市の実態に合った事業実施が進められるようにしていきたい。

３　わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(Ｒ４)の成果と課題

○小学校区をベースとした公開保育研究会の開催が広がり、幼小の接続はもちろん、幼児教育施設同士の横のつながりが強くなった。園内研修が定着してきた中で、さらに他園の研修会でも学び合うという基盤が少しずつ広がってきている。

○コロナ禍で集うことが難しくなった今だからこそ、短時間、少人数で学び合う研修会をニーズに合わせて行った。研修内容によって参加対象を絞ったことで、目的が明確化し、研修会でのことをもとに園内研修が行われた。

○毎月発行の幼小連携便り「よこてのめんこ」をアドバイザーが実際に訪問して手渡しすることで、月１回は必ず訪問でき、先生方と話をすることができる。その際に、保育を見せてもらったり、園の課題について話を伺ったりすることも多いので、そこから今後の支援をつなぐことができている。

●採用年数の少ない職員にとって、やはり施設だけでは解決できない不安や悩みを抱えていることに改めて気付くとともに、継続した関わりをしていったり、個人的な相談を受けたりしながら支えていかなければならない。それに加え、市の研修計画も今年度末の早い時期に計画を立て、現場のニーズに寄り添った研修をさらにしていきたい。

●幼小接続の体制の基盤はでき上がってきており、連携の会、職員体験事業、互いの教育・保育参観も行われてきている。今後、市として何を目指していくのかを県の方針を参考にしながらしっかりと打ち出していかなければならない。

実施市の具体的取組（潟上市）

１　教育・保育の現状と課題

（１）各園の形態や地域性をいかした教育・保育に配慮し、質の向上につなげていく支援のあり方についての検討と指導体制の構築が必要である。

（２）市幼保小連携事業において情報交換と子ども同士の交流は年数回行われているが、就学に向け

ての具体的な取組には差が見られる。
（３）就学前施設と小学校の職員双方の「小学校への円滑な接続」に対する共通理解が必要である。

２　令和４年度の目的、重点、実施内容
【目的】
小学校と就学前施設が、教育・保育課程等の相互理解を図り円滑な接続に向けて連携を推進するための事業を実施し、学びの連続性を保障するための体制の構築を図る。
園訪問を通して園内研究充実と保育の質の向上を図る。

【重点】
園内研修の充実、相互職場体験の質の向上

【実施内容】
（１）「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」
・教育総務課指導主事と子育て応援課が連携し円滑な就学に向けた事業（年中児相談等）を実施
・教育総務課に幼児教育アドバイザーを配置し、子育て応援課と連携し研修事業、公開保育、保育実践研究等を実施
・教育総務課による園訪問（９／２～９／３０　５園）
目的:特別な教育的配慮の必要な園児に対し、実際の保育場面での行動観察を通して、適正な就学と就学後の継続した支援の推進に資する。
参加者：専門検査員、園長・主任・担任、小学校特別支援教育コーディネーター等
・幼児通級教室の実施
・市教育支援アドバイザーとの連携による特別な支援を要する子どもへの支援
○今年度から幼児教育アドバイザーが教育総務課に配置したことで、園と小学校の連携における課題の洗い出しができた。
●各課の強みを生かした連携推進の在り方について検討・改善

（２）「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」
①園訪問により各園の実態や課題を把握し、教育・保育改善や園内研修へ効果的な関わりをもつことで、各園の教育及び保育の質の向上を図る。
②公立園の園長会議や主任会議に参加し、教育課程や園内研究研修、幼保小連携等について助言するとともに、事業の共通実践事項の周知を図る。また、園長や主任からの情報や意見を吸い上げ、園訪問や市主催研修等に生かす。
・市内就学前施設への巡回訪問と要請訪問（全施設月１回以上）
・園内研修、公開保育、個別相談（13 施設対象）
・園長会議への参加(月１回)、主任会議(随時)

◇令和４年度アドバイザーによる巡回訪問･指導（潟上市）

⑥派遣実績　計　　19 施設／全 19 施設　97 回	
回数	・保育所：公立 1 園（18 回） ・幼保連携型認定こども園：公立 4 園（78 回） ・幼稚園型認定こども園：私立 1 園（2 回） ・その他の施設：　小規模保育所 2 か所（4 回）、認可外保育施設 4 か所（8 回）、 事業所内保育施設 1 か所（2 回） ・小学校：6 校（16 回）

訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、5 園（45 回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、5 園（15 回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、5 園（119 回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、6 園（24 回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、13 園（132 回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、5 園（5 回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、6 校（10 回））
理由	・継続した園訪問により、各園や保育者の課題に沿って支援をし、保育の質の向上を図るため。 ・就学前教育から小学校教育への円滑な接続に向けて、就学前施設と小学校の教職員が互いに理解を深め、幼保小連携の推進を図るため。

○園や保育者の課題や悩みを一緒に考えたり、よい点を価値付けてアドバイスしたりすることで、保育や園内研究に主体的に取り組む姿が見られるようになってきている。

●園内研究の在り方や指導計画の作成、教育課程に関わる内容について、的確なアドバイスができるよう、連絡協議会や県主催研修会等を活用して研修していきたい。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

①　市主催保育実践研修会の開催

ア　保育実践研修会①(課題別研修)

目的：こどもの人権の理解や専門職としての責務を再確認し、保育の質の向上を図る。

日時：令和４年５月２０日（金）

参加者：保育従事者　１５名

場所：潟上市役所４階大会議室

内容：講話「子どもの人権と保育」

講師：秋田県教育庁幼保推進課指導班　副主幹（兼）班長　　井上英樹　氏

＜参加者アンケート結果＞

満足	やや満足	やや不満	不満
１４	1	0	0

＜参加者の感想＞

・子どもの人権を尊重し、一人一人の育ちに応じた関わりや環境づくりをしていきたい。また、一人の保育者ではなく、園全体で話しながら発達過程に応じた保育に取り組めるようにしていきたい。

○人権について法令の知識だけではなく、具体的な事例も交えて分かりやすく解説していただいたことにより、参加者からは、個人の意識として、また、チームとしてアンテナを高くして保育にあたる重要性を感じたとの感想が多く出された。

○講話の中で紹介のあった資料を活用し、全職員で子どもの人権について確認した園もあった。園外研修が園内研修に生かされ、一部の職員だけでなく全職員の研修になったことは有意義であった。

△研修内容が好評だったため、次年度も同様の研修があってもよいとの声が聞かれた。市主催の研修として検討するとともに、各園で年度初めに全職員が子どもの人権について確認する機会がもてるよう、年間の研修計画に位置付ける等の提案を管理職に働きかけていきたい。

イ　保育実践研修会②（保育補助研修）

目的：保育補助者として子どもの発達理解と内面理解を深め、保育に向かう基本的態度について確認し、各職員の資質の向上を図る。

日時：令和４年６月２７日（月）

会場：潟上市役所　４階大会議室
参加者：公立園の園長または主任５名
　　保育補助従事者１８名
　　内容：講話・演習「保育の中で大切にしたいこと」
講師：聖霊女子短期大学　講師　石井美和子　氏
＜参加者アンケート結果＞

満足	やや満足	やや不満	不満
２０	3	0	0

＜参加者の感想＞
・子どもやその背景にあるものを考慮しつつ、今その子どもが何を考えているのか、何を必要としているのか、何がしたいのかアンテナを張り巡らせて、保育に関わっていきたい。（保育補助職員）
・園には，様々な職種立場の職員がいるが、子どもを前にすればだれもみんな同じなので、今日の研修を踏まえ、「子どもの姿をよく見る、子どもとよく触れ合う、子どもがどういう気持ちなのか知ろうと心がける。」を園内で共有し、チームで頑張っていきたいと思う。（管理職）
〇保育補助職員が、子ども理解や子どもへの自身の関わり方について見直す研修となった。
〇管理職にも参加してもらうことで、園運営やチームとしての職員体制について考える機会となった。
△保育補助研修は、今後も継続して実施し多くの職員を参加させたいとの管理職の要望が多かった。保育補助職員はもとより、保育補助以外の職員（看護師等）も含めた研修についても、今後検討していきたい。

ウ　保育実践研修会③（ミドルリーダー研修）
目的：園運営の中核的な役割を果たすことが期待されるミドルリーダーとして、その職務を遂行する上で必要とされる資質の向上を図る。
日時：令和４年７月１３日（水）
会場：潟上市役所　４階大会議室
参加者：公立園の園長または主任５名
　　保育従事者１２名
内容：講話・演習「ミドルリーダーの役割」
講師：秋田県教育庁幼保推進課
　　指導主事　　佐藤玲子　氏

活発な意見交換がされたグループ協議。

＜参加者アンケート結果＞

満足	やや満足	やや不満	不満
１７	0	0	0

＜参加者の感想＞
・後輩にアドバイスをしていくのはもちろんだが、考えを聞いて認め、任せてみることも大切だと思った。その上でうまくいかなかったところを一緒に考えていくということを心がけていきたい。また、園のつなぎ役として今日の研修での学びを生かしていきたい。（ミドルリーダー）
・組織として得意なことに責任をもち、自信をつけながら仕事をしていくことができればと思った。園運営の一助として、さまざまな考え・アイディアを引き出せるようにしていきたい。（管理職）
〇講話と演習を通して、参加者がミドルリーダーの役割について理解・自覚し、参加者同志の有益な情報交換をすることができた。
◇園長、ミドルリーダーそれぞれの立場から園運営への参画や組織について考える機会になった。今後も研修内容に応じて管理職の参加も考えていきたい。

△研修参加者から、小規模保育施設職員の研修や小規模保育施設と連携施設との連携の在り方について、声が寄せられた。年度当初計画していた研修会はア～ウであるが、エの保育実践研修会④を１２月に実施した。また、オの保育実践研修会⑤「特別支援教育管理職研修」を２月に実施し、次年度の特別支援教育の在り方について研修を深めた。

エ　保育実践研修会④（未満児保育研修）

目的：乳幼児の発達の過程を踏まえ養護と教育が一体となった保育について理解を深める。
期日：令和４年１２月５日（月）
会場：潟上市役所　４階大会議室
参加者：公立園の園長または主任　１２名
　　保育従事者　８名
内容：講話・演習「０・１・２歳児の育ちの理解と保育者の援助」
講師：秋田県教育庁幼保推進課　幼保指導員　阿部真理　氏
＜参加者アンケート結果＞

満足	やや満足	やや不満	不満
２０	０	０	０

＜参加者の感想＞
・子どもの姿をじっくりと見て、周りの保育者と共有しながら、「どこに楽しさを感じているのか。何が育っているのか。」を深く読み取り、そこから手立てを考えていきたい。
・日々の子どもの様子を基に「読み取りの演習、経験や学び、この先の育ち」を考える研修が大変有効であることを感じた。繰り返し研修していくことで、気付きが増え、子どもの育ちに還元されるのではないかと思う。（管理職）
○年度当初の計画にはなかったが、保育の原点を再確認する研修であり、管理職にも保育者にも有益であった。

オ　保育実践研修会⑤（特別支援教育管理職研修）（中止）

目的：園全体で取り組む特別支援教育について、管理職の理解を深める。
期日：令和５年２月１３日（月）
会場：昭和こども園　２階会議室
参加者：園長・主任　１２名
内容：講話・演習「園全体で取り組む特別支援教育」
講師：認定こども園　海山学園　追分幼稚園　園長　山本新平　氏

※保育実践研修会全般の成果と課題について
○今年度実施した研修会は、参加者が熱心に研修する場面が見られ、概ね好評価を得た。研修内容によっては、受講した研修を生かして、園内の全職員で研修をした園もあった。管理職の参加を促したことも、園運営にプラスになっている。
○研修内容について、園の管理職・保育士の要望を聞くとともに、園の課題を洗い出し、その解決につながる研修が実施できた。
●新型コロナウイルス感染防止の観点から、時間や参加者を絞っての研修となった。状況を見ながら、参加人数や研修方法についても検討していきたい。
△研修に参加した職員からは、継続してほしい研修や今後参加してみたい内容について様々な要望があった。職員の声や園長会議での意見を集約するとともに、園訪問や指導主事訪問等で課題となった点について精査し、市として次年度必要な研修内容を検討していきたい。また、園外研修ではなく、各園での園内研修として実施した方がよいものについては、次年度の研修計画に盛り込むよう管理職に働きかけをしていきたい。

②公開保育研究会、公開保育の開催

ア　公開保育研究会

期日：１０月２１日

会場：天王こども園　市民センター「かたりあん」

参加者：５名

内容：保育参観、全体会（園内研究概要説明　保育の振り返り）、指導助言

指導者：秋田県教育庁幼保推進課　指導主事　　髙橋亜希子　氏

幼保指導員　　阿部　真理　氏

イ　公開保育

（ｉ）　期日：６月２３日

会場：追分保育園

参加者：１０名

内容：保育参観、協議

（ⅱ）　期日：１０月７日

会場：出戸こども園

参加者：７名

内容：保育参観、協議

（ⅲ）期日：１１月８日

会場：昭和こども園

参加者：９名

子どもの姿や環境構成、保育者の援助等について話合いが行われました。

○参観者と公開園職員で、環境構成や保育者の援助、職員の協力体制等について活発な意見交換がなされた。

●連携する小学校の職員の参観が少なく、課題である。

保育参観や授業参観を通して子どもの育ちや学びを語り合えるように、働きかけを工夫していきたい。

③保育実践研究「体力向上事業」の実施

ア　基幹園での実践

ねらい：様々な動きを通して、主体的・意欲的に遊ぶ子どもたちの健康な心と体づくりをめざす。

内容：リズムに合わせて、全身を使った様々な動きを楽しむ。

発達に合わせた動きを遊びに取り入れ、バランス感覚を養う。

心や体を十分に動かして遊ぶ取組を家庭に発信し、調和のとれた発達の大切さを知らせていく。

講師：YELLOW　BLACK ダンススタジオ秋田　　石井　勲　氏

活動日程：令和４年６月～令和５年１月まで月２回講師による指導を行う。

対象：３、４、５歳児

未満児クラスの活動は、保育参観時に行う予定

他園の職員の参観：７月１２日、９月２９日

公開保育：１１月１５日

体力向上事業「リズムに合わせて、ほっぷステップじゃんぷ」

イ　基幹園以外の公立４園での実践

各園の実態に応じ、園の方針や取組方法を計画し、指導計画に位置付けて実践する。

ウ　体力向上担当者会議の実施

ねらい：各園の体力向上担当者が自園の実践を持ち寄り、情報交換をしたり成果や課題につ

いて検討したりすることで、市内の子どもの体力向上と職員が広域的に学び合う体制を構築する。

期日：５月３０日、８月２５日、１０月２５日、１２月１３日、１月１３日

○昨年度の体力向上事業は、基幹園のみの実践に留まり、市全体での取組とはならなかった。この課題を踏まえ、今年度は基幹園の取組を随時他園に公開したり、各園の担当者会議を設けて情報共有したりする場を設定した。ねらいを共通理解し、基幹園の取組を参考に各園で工夫しながら実践をしている。

○各園の担当者は、園での推進役を果たしている。また、担当者会議を設定したことで、市の事業運営の経験を積むことができた。

④小規模保育施設と公立園・幼稚園との連携

ア　小規模園に係る現状や要望の把握

・実践保育研修会③の参加者アンケートに「小規模園同士の情報交換の場が欲しい。」「小規模園と連携園の連携を図りたい。」という意見が複数寄せられた。

・子育て応援課に情報提供するとともに、園長会議において小規模保育施設との連携の現状について公立園長から聞き取りを行った。

・小規模保育施設の園長会は組織としてなかったことから、子育て応援課と連携し小規模保育施設連絡会を立ち上げる。

イ　小規模保育施設連絡会の開催　　８月２３日

・小規模保育施設の園長等と子育て応援課主任、幼児教育アドバイザーで意見交換や情報共有をする。

・連携園との関わりについて、実態把握や今後のスケジュールを確認する。

ウ　就園連携合同研修会の実施　　１０月３１日

・小規模保育施設と連携園で、今年度の引継ぎ会の実施日を決定したり今後の連携計画を作成したりする。

エ　就園連携引継ぎの実施　　２月

・小規模保育施設と各連携園において、引継ぎ会を実施する。

○これまで小規模保育施設の現状把握や公立園等との連携はあまり行われていなかった。今年度は、小規模保育施設の連絡会を立ち上げるとともに、小規模保育施設と公立園等との連携が図られるよう、就園連携合同研修会を実施した。

●小規模保育施設の職員は、意欲はあっても運営上の理由から研修会や公開保育になかなか参加できない状況がある。現状を把握し、少しでも改善できる方策を共に考えていきたい。

△今年度、子育て応援課と教育総務課が連携して、小規模保育施設連絡会や就園連携合同研修会を立ち上げることができた。今後も両課でサポートはするものの、就園連携合同研修会については、運営のリーダーシップを連携園の管理職に担ってもらう方向で進めていきたい。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

①就学前・小学校等潟上市合同研修会の実施

目的：市内における就学前教育と小学校教育との円滑な接続の在り方について、幼稚園・保育所・認定こども園等と小学校等の職員が相互理解を深めるとともに、各職員の資質向上を図る。

期日：７月２７日（水）

会場：潟上市役所　４階大会議室

参加者：小学校の管理職と１年生担任等

園の園長または主任と５歳児担任等

内容：講話「育ちや学びをつなぐ幼小の円滑な接続について」
地区ごとのグループ協議「育てたい子どもの姿の共有」と情報交換

講師：秋田県教育庁幼保推進課　　副主幹（兼）班長　　井上英樹　氏

②就学前教育施設と小学校との円滑な接続のための支援

ア　相互職場体験

追分保育園（７月２９日）　天王こども園（８月２日、８月８日）
昭和こども園（８月８日）　若竹幼児教育センター（８月２２日）
天王小学校（８月３０日）　追分小学校（９月８日）　出戸小学校（９月２２日）
東湖小学校（１１月１８日）飯田川小学校（１１月１８日）
大豊小学校（１２月６日）　出戸こども園（１２月２２日）

イ　情報交換会

東湖小学校・天王こども園（６月１日）
出戸小学校・出戸こども園（６月２日）
大豊小学校・昭和こども園（６月９日）
飯田川小学校・若竹幼児教育センター（６月２１日）
天王小学校・天王こども園（７月１４日）
出戸小学校・出戸こども園（２月１４日）
東湖小学校・天王こども園（２月１７日）
大豊小学校・昭和こども園（２月２２日）
飯田川小学校・若竹幼児教育センター（２月２４日）
天王小学校・天王こども園（３月３日）
追分小学校・追分保育園（３月上旬）

相互職場体験。小学校職員の学校紹介に、子どもたちは釘付けです。

③特別支援地区別連絡会　教育支援アドバイザー

天王南中学区（８月１９日）
羽城中学区（８月２２日）
天王中学区（８月２３日）
各小・中（管理職１名・特別支援コーディネーター１名）
各園長が出席し、特別な支援を要する子どもについて情報を共有する。

④幼児通級教室（年中児親子相談会サポート事業）

市教育支援アドバイザーが園を訪問し、１回３０分程度の活動を行う。
４園（１３名）　４７回実施

⑤幼保小連携だより「かたっこすまいる」の発行（月１回）

○研修会や相互職場体験の授業参観や保育参観、話合いを通して、小学校教育と就学前教育の特徴や相違点、指導方法について、職員の理解が深まってきている。
○就学前から、特別な支援を要する子どもについて情報を共有し合うことで、小学校、中学校への進学の際の、子ども・保護者の不安を軽減するとともに、必要な支援が途切れることのないような体制ができている。
●地区ごとに連携の組織体制は整ってはいるものの、特に、小学校において取組内容や職員の意識に温度差が見られる。また、公開保育への小学校職員の参加や小学校の授業研究会への園職員の参加が少ないことも課題である。
●幼保小中間での協議の場が、特別な支援を要する子どもの情報交換に特化している所もある。より、各園・校での子どもの姿を見合ったり、話し合ったりする機会・時間が必要。
△研修会や相互職場体験、保育参観、授業参観等、様々な機会を通じて職員同士が子どもの学び

や育ちについて理解を深めるとともに、小学校教育への円滑な接続のための指導計画やスタートカリキュラムの改善が図られるよう、継続した働きかけをしていきたい。

（５）「県との連携体制の充実」

①県主催協議会への参加

・アドバイザー連絡協議会（４月２２日）（６月２４日）（８月２５日）（１０月２５日）
（１月２４日）

○事例検討による演習は、保育者への具体的な助言や園内研修・園への課題等の支援方法を研修する有意義な機会となっている。

○他市アドバイザーとの話合いは、本市の取組の改善を図る上での参考となったり、自身の園への関わり方のヒントになったりしている。

△各地区の状況によってアドバイザーの関わり方は様々である。各地区でアドバイザーが園や保育者にどのような関わり方をしているのか、どんな研修会を実施しているのか等、取組状況について情報交換の場があってもよいと感じている。

②県主催研修会、文部科学省主催研修会への参加

・園長等運営管理協議会（４月２７日）
・教頭・主任等研修会（５月１０日）
・就学前教育理解推進研究協議会（６月１４日）
・中堅教諭等資質向上研修Ⅰ（６月２２日）
・「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」意見交換会第１回及び幼児教育アドバイザー等を対象とした意見交換会第１回（６月３０日）
・中堅教諭等資質向上研修Ⅱ（７月１５日）
・５年経験者研修Ⅱ（９月１５日）
・「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」意見交換会第２回及び幼児教育アドバイザー等を対象とした意見交換会第２回（１０月２８日）
・教頭・主任等研修会Ⅱ（１１月２日）
・就学前教育推進協議会（１１月２５日）
・中央セミナー（１２月１５日）

○教育・保育内容の理解を深めたり、園訪問のアドバイスの参考にしたりすることができた。

△可能であれば、他市が主催している研修会にも参加してみたい。

③県教育・保育アドバイザーによる支援訪問

・追分保育園（６月２３日）
・出戸こども園（１０月７日）
・天王こども園（１０月２１日）
・昭和こども園（１１月８日）

○毎回、各園の保育や公開研究会の課題や改善点を丁寧に指導していただいている。園の課題解決や公開研究会の運営、園への助言に生かすことができている。

○園への関わり方や支援の仕方、研修会の進め方の他、多岐にわたる疑問や悩みについても指導・助言していただけることは、大変ありがたい。

④県指導主事計画訪問・要請訪問への同行

・天王こども園（６月２９日）
・出戸こども園（７月１４日）
・追分保育園（７月２８日）
・昭和こども園（９月１日）
・若竹幼児教育センター（１１月９日）

○計画訪問・要請訪問での園・保育者への指導・助言から、保育の見方や園の課題、課題解決に向けての支援の方法を学ぶことができた。園や保育者のよいところや課題を共有し、今後の

園訪問に生かしていきたい。

⑤他市アドバイザーに学ぶ研修会

・若竹幼児教育センター(７月２９日)
・仙北市角館こども園参観(９月１２日)
・横手市にしの杜参観保育園（９月１６日）

○各地区のアドバイザーの実践を参観したり、これまでの経験も含めて参考になる意見や具体的実践を聞いたりすることができた。アドバイザーの役割を再認識するとともに園訪問等に生かすことができた。

３　わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(R４)の成果と課題

○園内研修の充実（幼児教育アドバイザーの助言等による）
○相互職場体験の質の向上（園・小の職員が 10 の姿という共通の視点で子どもを見て、振り返りができた）
○体力向上事業（基幹園での実践・公開、市で学び合う体制の構築、各園での実践）
○小規模保育施設と公立園等との連携体制の構築
○各小学校区の幼小連携の取組の実態、課題の把握
●教育課程の改善・５歳児の指導計画・スタートカリキュラムの改善（園・小で共同して作成していく必要）、小学校の職員の意識改革（０歳児～１８歳までの学びの連続性・園と小学校の違いについての理解促進）
●研修リーダーの育成
●保育実践研修会の内容検討（多くの保育士が参加できる環境作り、研修内容を各園で生かす体制づくり、保育補助・ミドルリーダー育成・特別支援等様々なニーズに合った研修の実施）
●保育記録と指導計画・評価

実施市の具体的取組（仙北市）

１　教育・保育の現状と課題

（１）各年齢層での経験にばらつきがあり、保育の中で子どもの内面を読み取ることや、若手への指導に自信が持てずにいることも多い。管理職・中堅保育者の育成や、保育者の質の向上に向けて取り組むことが課題である。また、育児休暇明けの未満児の途中入園希望者や、個別での関わりが必要な子が増えてきている現状の中で、人員体制も課題のひとつである。
（２）幼小連携に関しては、隣接している学区の中で子ども達を軸にした交流はできているが、保育・授業参観後の協議には至っていない現状にある。子どもの情報共有だけでなく、それぞれの発達段階における子どもの具体的な姿や、小学校へつながる学びについての育ちの協議ができるように教育委員会と連携した相互理解のための体制作りをしていきたい。

２　令和４年度の目的、重点、実施内容

【目的】

令和元年度からの３年間の事業取り組みからステップアップし、下記の３点を目標として取り組む。

・幼小接続連携のための小学校訪問同行、幼小合同研修会日程調整等をスムーズに進めるために教育委員会とのこれまで以上の連携体制強化に取り組む
・小学校のスタートカリキュラム作成を意識した幼小接続連携体制強化
・副園長がアドバイザー的業務を担えるように、ミドルリーダーとして育成を図る

（教育・保育の質と専門性の向上）

県と連携した教育・保育アドバイザーの育成、就学前施設への事業内容周知、及び教育・保育アドバイザーによる園内研修の支援、研修を継続して実施する。

「求められる教育・保育の在り方」を園の課題に沿って検討しながら、現在の取り組み状況を踏まえた検討を重ねる。

（幼小連携の強化）

当市の教育理念「未来に向けた人材育成するための教育」を目標とした「幼児教育と小学校教育との円滑な接続」を推進し、子どもの育ちと学びの相互理解を基盤とした取組の充実を図る。

【重点】

園の課題を明確にしながらアドバイスや援助を行い育みたい資質能力を視点にした保育実践の支援を目指す。

【実施内容】

（１）「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

部局間連携による教育・保育推進体制の充実（幼小接続の連携体制の強化）

・教育委員会と子育て推進課の連携体制の構築（継続）

① 教育委員会学校訪問に同行する。

R4.7月1日(金)	西明寺小学校	教育委員会・教育委員・園長・アドバイザー	14名
	神代小学校	教育委員会・教育委員・副園長・アドバイザー	14名
	白岩小学校	教育委員会・教育委員・副園長・アドバイザー	14名
R4.7月4日(月)	桧木内小学校	教育委員会・教育委員・副園長・アドバイザー	14名
	生保内小学校	教育委員会・教育委員・主査教諭・アドバイザー	12名
R4.7月8日(金)	角館小学校	教育委員会・教育委員・副園長・アドバイザー	14名

○「異年齢活動の中で学年の発達や育ちをどのように保障していくか」「少人数クラスは集団としての育ちをどのように経験させていくか」等が園の課題であるが、小学校では複式学級での授業体制の課題になり、少子化の現状を捉えた体制作りの必要性を実感した。

○園長等の感想から隣接する小学校の連携体制の中で授業や保育を参観し合うだけでなく、話し合いの時間を持つことが大事であるという意識が高まったことを感じた。

② 地区別幼小連絡会

R4.5月11日(水)　会場（仙北市立角館小学校）
角館小学校４名・角館こども園３名・角館西保育園２名
中川保育園２名・アドバイザー
授業参観・年間計画（交流）の確認、日程調整等

R4.5月16日(月)　会場（仙北市立西明寺小学校）
西明寺小学校３名・にこにここども園２名・アドバイザー
授業参観・保育参観・年間計画（交流）について等

R4.6月15日（水）　会場（はなさき仙北神代こども園）
神代小学校３名・神代こども園７名・アドバイザー
情報交換・年間計画について・日程調整等

R5.2月27日(月)　会場（仙北市立西明寺小学校）
西明寺小学校２名・にこにここども園４名・アドバイザー
令和４年度の振り返り（成果と課題を話し合う）

R5.3月10日(金)　会場（だしのこ園）
生保内小学校３名・だしのこ園４名・アドバイザー
令和４年度の振り返り
令和５年度に向けて～育ちと学びについて～

R5.3月16日(木)　会場（角館小学校）
角館小学校３名・角館こども園１名・角館西保育園１名
中川保育園１名・アドバイザー
令和４年度の振り返り（成果と課題を話し合う）

R5.3月23日(木)　会場（仙北市立神代小学校）
神代小学校３名・神代こども園４名・アドバイザー

R5.3月23日(木)　会場（にこにここども園）
西明寺小学校１名・にこにここども園３名・アドバイザー

○学区ごとに１年間の幼小の計画についての振り返りが行われ、成果と課題を出し合うことで次年度に向けての園と小学校の活動内容や子どもの姿を確認しあう有効な時間になっている。また、子どもの情報交換だけでなく、何のためにそのことを行うのか「ねらいを考えて実施しましょう」という声もあり、双方の理解をしながら園小のつながりを大事にしたいという気持ちが感じられた。

（２）「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

・教育・保育アドバイザーによる園への支援（園内研修、保育実践）
・定期的な園内研修支援（研修の取り組み、事前の研修内容を確認する）
・各園の課題を明確にし、課題解決に向けての園訪問を継続する
・保育実践の見直し（指導計画等）、保育参観からの保育の振り返りの助言を行う
・新規採用保育者、保育補助との個別面談・支援の構築を図る
・副園長、ミドルリーダーの育成を図る

◇令和4年度アドバイザーによる巡回訪問・指導（仙北市）

⑥派遣実績　計17施設／全17施設　178 回	
回数	・保育園：公立　3園（38回） ・幼保連携型認定こども園：　私立　5園（105回） ・その他の施設：（事業所内保育施設2か所（0回）、家庭的保育施設1か所（1回） ・小学校：6校（34 回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、8園　（35 回） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、8園　（28回） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、8園　（24回） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）　（目標のうち、8園　（36回） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、11園　（30回） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、8園　（11回） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）　　（目標のうち、6校　（67 回）
理由	・大仙市管内でのコロナ感染者拡大から園訪問を控えた時期もあり、令和3年度に準ずる訪問回数を目指していく。 ・園の良い点、課題を分析し園のニーズに合わせて支援を考え、一人一人の保育の質の向上に努める。 ・周知活動では、アドバイザーの活用法の例示をしながらアドバイザーの活用範囲を広げていくと共に、声をかけていなかった職員に意識的に声をかけていくように努める。 ・園内研修へのプロセスに関わることで、引き続き研修の充実を図る。

＜保育実践＞

○保育の振り返りでは、遊びの盛り上がりや子どもの姿だけを捉えることも多くあったが「ねらい」に近づくためにどんな援助や手立てを心掛けたかを意識する保育者が増えてきた。

●保育者は、保育の手立てや環境の構成を言葉で伝えることはできるが、指導案に具体的なことが記載されていないことが多い。

◇保育をイメージし具体的な記載を心がけることを支援していくとともに、自分で意識して行った手立て等を後で記録して残すことをアドバイスしていくことを心掛けていきたい。

＜園内研修＞

○各園で保育参観後、KJ 法を使って話し合う協議が多くなってきた。事前に出された付箋から話し合いのポイントを押さえることや時間配分を考える等、進行係や記録係に求められる力は大きい。昨年のファシリテーター研修会後から、各園で園内研修計画の見直しをしたり、研修での話し合いを深めていくための工夫をしたりする意識が高まっていること

が感じられる。

◇公開保育をしてくれた保育者に、他の保育者からいろいろな視点からアドバイスが返っていくようなアドバイザーの支援を継続して心掛けていきたいと思う。

◇各園からアドバイザーに園内研修への参加の声をかけられることはうれしいことであるが、各園の研修日が重なってしまうことが多く参加できないこともあることが残念である。各園との日程を調整しながら参加できるように努めたい。

○０歳児や１歳児を含めた全クラスを公開し子どもの姿から保育者の手立てや環境の構成を話し合う園が増えている。

●０歳児の姿を見取り、話し合うことが難しいという声が多い。
その子の姿や行為だけでなく遊びの中で何を経験して楽しんでいるのか、どんなことに興味関心があるのか。育ちつつある姿や複数担任での保育の手立て等、保育を深めていくことができるようなアドバイスを心がけていきたいと思う。

KJ 法で話し合いを

０歳児　～保育参観～

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

・キャリアステージや課題に応じた研修、キャリアアップ研修の充実
・保育補助者研修会（同じ内容で２回）
・ファシリテーター研修会（年３回）
・副園長等を仙北市保育研修会（保育補助研修会等）へ園の職員と一緒の参加を促し実施する
・乳幼児理解研修会
・幼児理解研修会
・実技研修会を実施

R4.4 月 19 日（火）保育補助研修会（参加者 24 名）
保育補助職員 15 名・栄養士１名・副園長５名・主査１名・家庭援護係２名
講師　学校法人聖園学園　聖園学園短期大学　　准教授　蛭田　一美　氏

アンケート結果
①　満足　21 名　　②やや満足　０名　　③やや不満　０名　　④不満　０名　※記載なし　３名

＜参加者の感想＞
～保育補助職員～
・信頼関係の構築の話が印象的だった。
繰り返しあきらめず受容し、理解して傾聴を続ける中で信頼関係を築くことは、保育者同士でも同じことと思った。
・実際に動作を交えての講話はとてもわかりやすかった。子どもの目線になって大人と接した時は威圧感があり、子どもは怖いだろうと思えた。
また、ちょっとした体の向きで相手に与える印象が違う事に気づくことができた。

子どもの目線で考える

～副園長等～
・園がひとつのチームとして、様々な職種の先生達が同じ気持ちで新年度を迎えることができるように補助職員の研修が４月に行われることは大変有意義であると思われた。
・保育補助職員は、子どもへの対応だけでなく、入ったクラスや保育者の思い等様々なことを考えながら日々保育に寄り添っていると思うので、研修を受ける機会があることで自信を持ったり、安心で

きたりすることにつながると思う。保育補助研修会は、毎年続けてほしいと思う。

○保育補助の役割を園運営に活かしてほしいという願いから今年度も、継続して管理職の参加を募る。保育補助職員のアンケートからは、昨年に続き研修の場があるということがとても有意義であったということや、保護者支援は、「目の前にいる子どもの姿が根本的な基本である」ということを実感したという声があった。

●園側から保育補助職員のみならず、用務員や栄養士等保育に携わる職員以外は、なかなか研修を受ける機会がないという現実が見えてきた。

◇保育補助職員だけでなく、園にいるその他の職員も保育を進めていく上で欠かせない存在になっていることを考慮しながら、いろいろな視点からの研修を提供していきたいと思う。

R4.4 月 26 日（火）保育補助研修会（参加者 23 名）

保育補助職員 15 名・園長 2 名・副園長 5 名・用務員 1 名

講師　学校法人聖園学園　聖園学園短期大学　　准教授　蛭田　一美　氏

アンケート結果

①　満足　20 名　②やや満足　1 名　　③やや不満　0 名　　④不満　0 名　※記載なし　2 名

＜参加者の感想＞

～保育補助職員～

・保護者がわからないことや聞きたいことをなんでも聞ける関係性ができて初めて子育て支援といえるという話が心に響いた。保護者に対して支援したつもりにならないように心がけ「どうして言ったことをやらないんだろう」といった否定的な気持ちを持たずに、やることができない事情を思いやることができるようにしたいと思った。

コミュニケーションスキル

～園長等～

・保育補助の研修はありがたく思っている。保育補助職員は、実際には子どもにも保護者にも関わっているので自信を持って取り組んでいくことができるよう研修の機会を増やしてもらえたらと思う。

○保育補助研修会は、第１回、２回目も同じ内容で研修を行った。

保護者支援・子育て支援のエピソードを交えた講師の講話は、保護者に寄り添うことがより具体的に伝わったと思われた。保護者との関係はその時の対応が上手く進んだとしても、ちょっとしたことで崩れてしまうこともある。

保護者への対応の基本を忘れないようにすることは、園や保育者、アドバイザーとの関わりにも通じることもあることを心に刻んでいきたいと思った。

◇園の運営体制で保育補助職員の勤務体制や担当する役割も違っている。

子どもの育ちを園の職員みんなで支えるという考えから、子どもの内面理解、発達理解等研修回数や内容を検討したいと思う。

R4.5 月 12 日（木）ファシリテーター研修会①　参加者 18 名

講師　秋田県教育庁南教育事務所　指導主事　石山　潤　氏

＜参加者の感想＞

・KJ 法での話し合いは、ゴールのイメージがあるとスムーズに進むことや参加した人が緊張せずに意見を出し合えることを実感した。事前準備についての情報を研修委員で共有し園内研修に活かしていきたい。

・協議前に付箋を出してもらう、その付箋からファシリテーターと記録者が話し合いのポイントを押さえるというやり方は、話し合いのゴールのイメージを持つためにとても良い方法だと感じたた。保育公開などの研修で実践してみたい。

○各園で[illegible]（話し合いのゴールが示されていること）（意[illegible]（話やすい雰囲気である）ということが、話[illegible]

R4.5 月 20[illegible]育事務所　指導主事　石山　潤　氏

<参加者の感想>
・園内研修で誰がファシリテーターをやっても協議を進めることができるようになることや、園の職員の学びにつながるために事前準備で質問集を充実させていきたいと思った。
また、「ねらい」に結び付く効果的な質問を具体的に全職員に伝えたり、一緒に考えたりして質問を増やしていくことで協議を実践していきたい。
○保育参観後、出された付箋から話し合いのポイントにすることや、時間配分を考えること等、進行や記録に求められる力は大きい。昨年のファシリテーター研修会から、各園で園内研修計画の見直しや取り組みについて深めていこうという意識が高まっていることが感じられる。
●提供された講師の指導案から「子どもの姿・援助・環境の構成」を読み取って、出し合った付箋から話し合いを深められそうな付箋を見つけ、どんなところに視点をおいたらいいかをグループの話し合いにしたが、とても時間を要した。
子どもの姿や遊びのなかで経験している事の読み取りに、時間がかかってしまうことが伺えた。
◇公開保育をしてくれた保育者に、いろいろな視点からアドバイスが返っていくような支援を工夫していくこともアドバイザーに求められることだと思った。
◇ファシリテーターや記録者が出された付箋から話し合いのポイントを絞る時に、アドバイザーも一緒に支援できるように工夫していきたい。

事例：５歳児の読み取りをする

R4.6月6日（月）実技研修会　参加者17名
講師　カワイ体育教室　　三浦　正宏　氏
アンケート結果
①　満足　16名　　②やや満足　１名　　③やや不満　０名　　④　不満　０名
※（時間があれば、もう少し実技をやりたかった）
＜参加者の感想＞
・縄がうまく回せない子にどう関わればよいか悩むことが多かったが、実際に自分が縄を持って実践してみることで体の使い方や縄の動きを体感できた。年齢で経験させたい体の動きを考えながら今後の指導に役立てたいと思った。
遊びのアイディアをたくさん教えていただいたので日々の保育に取り入れ、みんなで楽しみながら体を動かすことができる場を作っていきたい。
・コロナ禍で散歩に出ることが少なかったり日常生活の中でも歩くことが少なかったりしているため、今の子ども達は浮き指が多いということがとても印象的であった。歩くことが一番の運動であり歩くことでバランス感覚を養い転倒も少なくなることを改めて学ぶことができた。
○コロナ禍ではあったが、子ども達に指導していることを思い浮かべ、他の保育者と力を合わせたり実践したりすることで、保育者自身が楽しみながら体を動かすことが実感できたようだ。
●コロナ禍で実技研修がなかなか実施されずキャリアアップにつながる実技研修も少ないようだ。仙北市でも実技研修を希望する声が多くありコロナ禍の中で場所、内容、時間等を検討する時に課題も大きい。

マット遊びに挑戦！

R4.10月４日（火）ファシリテーター研修会③　参加者２０名　公開園　（副園長・担任　６名参加）
講師　秋田県教育庁南教育事務所　指導主事　石山　潤　氏
～公開園保育者の感想～
・公開前の指導案に他園の保育者から質問をされることによって気づかされたことや、より深く考えさせられたことがあり当日の保育の見通しやイメージを見直す良い機会になった。同じ遊びをしていても一人一人のゴールや目的に違いがあるという視点も頭に入れ、個々の理解に努めながら保育

に臨みたいと思った。
・日案を他園の先生達に見てもらうことで、自分では気づかなかった環境の構成や援助について考えるキッカケとなった。
いつも接している子ども達なので多少省略して書いてしまうことが多かったが、細かいところまでしっかり記載することで自分の保育が明確になってくることが大事なことだと感じた。

指導案を読み取り、保育者へ質問をする参加者

＜参加者の感想＞
・指導計画を見ながら保育をイメージして協議ができたので「自分だったら」と置き換えて考えたり、別の意見に触れたりできたことがとても学びになった。
指導計画を作成する時に「ねらい」に迫るために自分はどこを大切にしているのか自分自身を振り返る研修になった。
・今回の研修会では、指導案や日案の読み取りについて学ぶことができた。実際の保育を見る前に子どもの姿を想像したり、保育者の思いや意図を捉えたりすることでポイントを押さえ参観することができると感じた。

R4.8 月 4 日（木）から延期　R4.10 月 19 日（水）　乳児保育研修会実施参加者 20 名
（園長 1 名　副園長 3 名参加）
講師　秋田県教育庁幼保推進課　幼保指導員　阿部真理　氏

＜参加者の感想＞
・演習：他の保育者の意見を聞いたり話し合ったりすることで、子どもの姿からの読み取りを深めていくことや、普段何気なく見ている姿も学びや育ちにつながっていくことを意識することができた。
・SOAP の視点を理解し納得するまでに時間を要し、指導計画を作成することは難しいと思ったが、自分の読み取ったことを他の保育者の言葉を聞いて考えることで徐々に SOAP の意味を理解できた。今までの指導計画作成では、子どもの姿だけを記載することが多くそこに育っている事や楽しんでいることを書いていなかった。子どもの姿から、読み取ったことを記載することで「ねらい」につながっていくことが大事なことだと思った。
○SOAP の視点で子ども達を見るという講話が保育者に響き、「遊びの中で何を学んでいるか」「何を経験しているか」等、意識して考えてみることが大事ということが実感できたようである。
●０，１歳児の遊びの姿を「育みたい資質能力」で捉えることが難しいと思っている保育者もいる。
子どもの姿や行為に目がいき、育ちの部分を深く考えないでしまうことも多くなっている。
◇指導計画を完成しなければという気持ちが強いのか、紙面を埋めることや文言にこだわることが多いと感じる時がある。
遊びのその時の場面の子どもの姿や保育者自身の新たな発見を書き加えていくような指導計画でもいいのではないかという案も提示しながら、保育者自身が保育を楽しんで記録できるようなアドバイスを考えていきたい。
保育者の子どもの姿の捉えで保育の援助や環境の構成等が日々変化していくことも一緒に考えていきたいと思う。

子ども達に保育の中でどんなふうに、物や事・自然と出会わせる？（真剣に考える！）

仙北市保育研修会（男性）
①　R4.7 月 26 日(火) 参加 3 名　②R4.9 月 2 日(金) 参加 4 名　③R5.3 月 24 日（金）

○園に配置されている男性保育士は、それぞれ１名、２名なので男性保育者同士で話す機会がないということから男性保育士の研修会を開催した。
過去には離職した人もおり、男性保育者同士で離職を防ぎたいという強い思いがあることを知ることができた。

◇日々の保育や思いを話し合える場の提供も大事だと思っていたが「保育を見合う機会がほしい」「指導案について話し合いたい」等男性保育者から出される希望も多く聞かれた。
出された意見等の思いに添いながら内容を工夫していきたいと思う。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

（１）部局間連携（教育委員会教育総務課・北浦教育文化研究所と子育て推進課）
・学区（園・小学校）の情報交換時に参加
・小学校との円滑な接続に向けた合同研修会の開催（公開研究会を開催）
・幼小連携に関する研修会

R4.10 月 11 日（火）就学前・小学校仙北市合同研修会
午前　にこにこども園公開保育
午後　協議・講話　　（西明寺小学校）
講師　秋田県教育庁南教育事務所　指導主事　石山　潤　氏

参加者 64 名　（小学校 23 名　園　29 名　関係者 12 名）

＜グループ協議についての感想＞

～園参加者～
・協議の中で、保育者が大切にしていることや、育てたいと思っていることが学校での基礎になっているという話を小学校の先生達から直接話された。自信を持って保育をしていきたいと思った。
・小学校の先生達と協議したことにより、園での今の姿が学校での〇〇な姿につながるというような長期的な見通しを持つことができた。園ではより「10 の姿」を意識したねらいや指導計画を子どもの姿と照らし合わせながら立てていくようにしたい。

＜園、小学校グループ協議＞

～小学校参加者～
・子ども達の遊びの中でねらうべき姿を念頭に置き、声をかけている保育者の姿に頭が下がる思いだった。
・５歳児には「協力する」「力を合わせる」姿を子ども同士でどのように関わらせるのかとても難しいことだと思った。
子ども達の遊びで何を味わわせたいのか、場の工夫はどうするのか、保育者の言葉かけもたくさん必要なことがわかった。
園の先生達と協議ができて有意義な時間だった
・保育はぼんやりした視点で参観させてもらったが、協議の中ではポイントをしぼった話し合いになったことがよかった。５歳児であればという具体的な姿が明確になり考えやすかった。
・園の先生達は子どもの力を伸ばし自信を持たせるために個々に対する言葉かけをとても大切にされていることを知り「自分はどうだろう？一人一人をきちんと見取っているだろうか」と振り返る機会になった。

〇参加人数が多かったことはうれしいことであったが、コロナ禍にあり開催可否の最終判断が難しかった。検温、手洗い、換気等を心がけながら予定通り実施できたことが合同研修会の大きな成果であった。また、合同研修会を通して小学校との相互理解が深まり教育委員会との協力体制も良い方向で進めていきたいと思う。

＜幼小交流授業参観＞

R4.4 月 21 日(木)
神代小学校　スタートカリキュラムに合わせた
１学年授業参観・協議
はなさき仙北神代こども園３名、アドバイザー

１年生の授業参

〇３月に話し合われた子どもの姿をスタートカリキュラムに合わせて４月の授業参観や協議ができることは、小学校と園が子ども達の育ちをつなげていこうと意識していることが感じられ有意義な時間になった。このような取り組みを各園・各小学校にいろいろな形で紹介できたらと思った。

R4.6 月 15 日(水)　　神代こども園　5 歳児保育参観・協議
神代小学校 3 名　　神代こども園 7 名、アドバイザー

R4.9 月 8 日(木)　　西明寺小学校　1 学年国語
秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所　指導主事　粟津　明子　氏
授業参観・協議　　にこにここども園 3 名、アドバイザー参加

○午後の協議でこども園の職員から小学校の協議の仕方を見て、自分達が接しているすこども達と重なり、日々の保育を振り返りながら保育していくことが大事であるという感想が出された。双方での共通点や相違点を明確にしながら子どもの育ちをつなげていくような話し合いは大事であり話し合いに参加することが有意義なことであることが実感できたようだ。

R4.9 月 13 日（火）　指導主事訪問　桧木内小学校 1 年（おひさま学級）
秋田県教育庁南教育事務所　　指導主事　大川　康博　氏
授業参観・協議
はなさき仙北ひのきないこども園 3 名、アドバイザー参加

＜小学校保育体験＞
R5.1 月 13 日（金）　角館小学校 2 年担任
場所（角館こども園　5 歳児）

○保育体験をした教師から、実際の遊びに入って友達のやりとりができていることや周りの友達の良さを認め合っている姿を感じることができ、子どもの良さを考える時間になったという貴重な感想があった。保育や授業の時間に違いがあることを双方で理解できたことや、子ども一人一人に対していろいろな支援を考えていることを確認できたことは有意義な時間になった。
◇保育体験・授業体験を通して話し合えることを各学区にも反映されていくように小学校との連携をアドバイザーの立場でも考えていきたいと思う。

＜教育委員会主催　研究会＞
R4.11 月 2 日(水)　仙北市教育研究会研究大会
研究授業　角館小学校、白岩小学校、角館中学校
講演会「ふるさとキャリア教育の 12 年～教育のイーハトーヴを求めて～
講師　大館市教育委員会教育長　高橋　善之　氏

参加者：市内小中学校全職員、教育委員会関係者、園 7 名、アドバイザー

●幼小連携の取り組みが一部の教師や保育者に終わらず、小学校や園全体の取り組みになることが重要と思われる。

R5.2 月 28 日（火）　仙北市教育研究会研究大会について（オンライン）
会場　仙北市立西明寺小学校
参加者：市内小中学校評議員、教育長、園 7 名、アドバイザー
教育委員会関係者、西明寺小学校教頭

※仙北市教育研究会研究大会について趣旨説明を聞く。

「言語活動の充実」を柱に市内全ての小・中学校が研究への方向性を同じくし本大会の授業参観・授業研究を通してテーマに関わる成果と課題を共有しその育成につなげることを目的としているが、そのベースである子どもの育ちを園も一緒に考えていってほしいという視点を教育長から聞くことができた。はじめは学区ごとに、園と小学校の話合いが重点になると思われるが教育委員会との連携体制を図りながら推進していきたいと思う。

・仙北市子ども家庭総合拠点（教育委員会・保健課・子育て推進課・市内園）
＜就学前児童に関する支援機関連携会議＞
R4. 4月28日（木）　子育て推進課・北浦教育文化研究所・市内４園
R4. 7月13日（水）　延期
R4. 7月14日（木）　延期
R4.10月26日（水）　子育て推進課・市内４園
R4.10月31日（月）　子育て推進課・市内４園
R5. 1月27日（金）　子育て推進課・北浦教育文化研究所・市内８園

＜どれみの会＞・仙北市で行う月２回の就学前児童の療育訓練事業である（親子一緒に参加）
通年　講師　宮川　貴子　氏
年２回（音楽療法）　講師　日沼　郁子　氏
R4(5/11.5/30.6/13.6/29.7/7.7/25.8/10.8/29.9/12.9/28.10/12.10/27.11/9.12/5.12/21)
R5.(1/11.2/9.2/20.3/6.3/27)
7/7～8/29 中止　9/28 中止　1/30 中止
※アドバイザーが関わったどれみの会
5月11日（水）5月30日（月）11月24日（木）
2月 9 日（木）2月20日（月）3月6日（月）3月27日（月）

R5.2月20日（月）保護者学習会　講話「我が子に寄り添う・支える」
～心の根っこを育てよう～
教育・保育アドバイザー　佐々木　真貴子
（どれみの会）
○参加した親子の様子や講師の助言をアドバイザーが園訪問を通して伝えることで、参加の子を中心とした訪問や保育参観を通して、担任や特別支援コーディネーターと一緒に支援の方法を話し合うことができたり情報共有できたりしている。
●コロナ禍にあり「どれみの会」が中止になった日も多かった。どれみの会は、保護者の就労日が関連しての参加になるので講師や保護者の日程調整が難しい。
●アドバイザーの日程調節ができず、アドバイザーが「どれみの会」に参加できないことも多かった。
支援機関連携会議、課内での話し合いを参考にしながら、園に伝えることを工夫していきたいと思う。
◇「どれみの会」の保護者への講話を担当したことで、０～５歳児の育ちを理解する大切さや園の遊びが学びにつながっていることを保護者へどのように発信していくかの大事さを改めて痛感した。保護者が悩んでいることをどのように受け止めてあげたり、聞いてあげたりするかを考えながら努めていきたい。

＜巡回相談＞
令和４年度インクルーシブ教育システム推進事業「専門家・支援チーム」における巡回相談
R4.9月15日（木）　はなさき仙北ひのきないこども園
秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所　指導主事　朝倉　紀子　氏
秋田県立大曲支援せんぼく校　教諭　佐々木　奈織　氏
＜特別支援委員会＞

R5.1月12日（木）　はなさき仙北角館こども園
秋田県立大曲支援せんぼく校　副校長　佐々木　義範　氏
秋田県立大曲支援せんぼく校　教諭　佐々木　奈織　氏
講話　「難儀している子どもたちとの関りを通して考えたこと」
～支援の具体と保護者との連携～
講師　秋田県立大曲支援せんぼく校　副校長　佐々木　義範　氏
R5.1月19日（木）　令和４年度母子保健関係者研修会（主催　保健課）
講演　「基本的な発達障害」と「保護者支援」
講師　秋田県立医療療育センター小児科メンタルヘルス外来医師
渡部　泰弘　氏

（５）「県との連携体制の充実」

・指導主事訪問に同行する
要請訪問
R4.6月21日（火）白岩小百合保育園
R4.8月23日（火）角館西保育園　小学校５名（校長・教諭）保育参観
R4.8月31日（水）白岩小百合保育園　小学校１名（校長）園６名　保育参観、協議
R4.11月1日（木）中川保育園　小学校２名（校長・教諭）園６名　保育参観、協議
R4.6月16日（木）にこにここども園　小学校１名（教頭）保育参観のみ

・幼保連携型認定こども園訪問
R4.6月29日（水）ひのきないこども園　小学校２名（校長・教諭）校長協議参加
R4.9月 1 日（木）にこにここども園　小学校１名（教頭）園５名　小（保育参観のみ）

R4.10月27日(木）だしのこ園
R4.11月15日(火）神代こども園　小学校３名（校長・教頭・教諭）教頭・教諭協議参加
R4.11月17日(木）角館こども園　小学校２名、園６名　小（保育参観のみ）

○コロナ禍になってから、他園の保育を参観することがなかなか実施されない状態にあった。他園の保育者を受け入れた園からは、自分達が気づかなかった視点から意見を出してくれ大変有意義な学びにつながったという感想が多く聞かれた。

◇指導主事訪問に同行した際に、保育に対する保育者の思いを引き出す、保育者の意図を知るなど指導主事や幼保指導員からの声かけの学びが大きい。指導されたことを事後に園と一緒に考えることができる機会にも恵まれていることもあるので、保育者の意欲に結び付いていくような関りをこれからも考えていきたい。

・県の幼児教育推進協議会
① 園長等運営管理協議会（4月27日）Web研修参加
② 教頭・主任等研修会（5月10日）
③ 新規採用者研修（7月20日）参加
④ 就学・小学校等南地区合同研修会（7月27日）Web研修参加
⑤ 就学前教育推進協議会（11月25日）Web研修参加

○Web研修を同じ場所で受けることで、講話の中で感じたことや、普段の保育で悩みに思っていること等短い時間ではあるが話をすることができる利点があった。

・アドバイザー連絡協議会へ参加（年５回予定）
① 4月22日Web研修参加　②6月24日　③8月25日　④10月25日⑤1月24日

・他市アドバイザーに学ぶ
・R4. 7月29日（金）　潟上市立若竹幼児教育センター（潟上市）
・R4.10月20日（木）　男鹿市立脇本保育園（男鹿市）
◇潟上市、男鹿市アドバイザーに学ぶ会に参加
仙北市実施日
・R4.9月12日（月）　角館こども園（仙北市）

○昨年は、コロナ禍の中アドバイザーに学ぶ研修会がほとんど中止だったので、参集型で研修会ができたことが有意義であった。他市のアドバイザーの話を聞くことでより多面的に柔軟に支援していく大切さを実感できた。

３　わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(R４)の成果と課題

＜保育の資質向上に向けて＞

○外部研修会で学んだ内容を保育や園内研修に活かそうという意識が強くなってきた。
学んだことを保育実践でどのように活かしていくのか、その内容が自園でどのように必要なのかを考えることが大事であることを助言しているがそれに伴い仙北市で行う研修内容もより精選していきたいと考える。

○園内研修を深めるために中間評価をし、さらに園評価で振り返えることが大事であるという意識が強くなってきた。
園内研修で出された意見が深められるように研修の持ち方をより一層保育者と考えていきたい。

○保育公開や園内での協議を終えた後、アドバイザーが日を改めて訪問し保育の振り返りに参加している。当日の保育の流れをアドバイザーが作成した子どもの姿や写真を提示することで、保育者から遊びの場面での手立てや援助を言葉で引き出し一緒に考える時間が出来てきた。
保育者が遊びの場面で子どもに関わった意識やその時の関わった思いが明確になることも多くなってきていることを捉え継続していきたい支援方法のひとつとしたい。

●「毎週同じような子どもの姿の記述やねらいになってしまう、指導計画の作成が難しい」という声が毎年の課題になっている。文言の使い方や指導計画を完成させることに気持ちが大きいことが難しいという要因のひとつと受け止め、子どもの姿を書くだけでなく保育者が意図している事や遊びで経験していることを記録に残すような助言に努めている。また、完成形でなくてもその時の子どもの姿や、足りなかった手立てを書き足していくことで指導計画を作成していくことも保育の資質向上につながっていく意識として高めていきたい。

●園の管理職が指導計画を見て、日々の保育と重ね合わせて声をかけていくような体制を推進しながら保育者の良い面を認めてあげることや保育者の自信に繋がっていくような言葉かけをしていく支援を継続していくように努めている。方法のひとつとして管理職の研修会を計画しているがなかなか実施できていない。

＜幼小の連携について＞

○保育参観や授業参観で終えるのではなく、午後の話し合いの協議へも園や小学校の職員の参加がでてきたことは、大きな成果である。コロナ禍にあり、取り組みがなかなか進まない学区もあるが子どもの育ちについて話し合うことが大事なことであると意識が高くなってきた。

＜事業の取り組みについて＞

●幼児期の終わりまでに育ってほしい姿や育みたい資質・能力の視点から話し合うことが、園と小学校でなかなか浸透していないところが大きい。
幼小で話し合う時間調整の難しさ、人事異動による取り組みの違い等課題や成果を明らかにしながら、教育委員会と子育て推進課の行政間でも連携体制を取りながら進めていきたい。

●園からの要請や声をかけられることで複数回の訪問ができている園もあるが、園の事情に合わせてなかなか訪問できていない園もある。園のニーズを把握しどのような支援が必要か明確にしていく必要がある。

実施市の具体的取組（大仙市）

1　教育・保育の現状と課題
（1）就学前教育・保育施設と小学校の、子どもの捉え方や育ち・学びへの理解にまだ相違がある。
（2）小学校入学後の生活、学習に適応できないケースがまだ少し見られる。
（3）園小の交流活動・参観は行われているが、連携体制が組織されていない小学校区がまだ数校あるため、幼児教育から学校教育への接続を円滑に図るための十分な環境づくりが必要。

2　令和４年度の目的、重点、実施内容
【目的】
教育・保育アドバイザー２名で活動。市内の教育・保育施設及び小学校への事業年度計画や重点の周知。園内研修等の支援を通じ、保育士等個々に留まらず園全体の保育の質が向上できるよう関わりを深めていく。また、各小学校区の連携組織が実効性のある充実したものになるよう関わり、相互参観はもとより協議参加を更に促し、相互理解をより深め接続が更に円滑になるよう支援していく。

【重点】
・園内研修に関わる回数を増やすとともに関わり方を改善し、園自らが更に主体的に保育の質の向上に努められるよう支援する。
・より具体的なスタートカリキュラムの作成の仕方について研修会を実施し、小学校が園と関わりながら作成できるよう土台作りをする。

【実施内容】
（1）「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」
・教育・保育アドバイザーを子ども支援課に２名配置
（就学前教育・保育施設経験者１名、小学校経験者１名）
・本事業の目指す姿や年度別重点について十分周知する。（就学前教育・保育施設、小学校）
・子ども支援課と教育委員会との連携体制を更に深めていくため、定期的（月１回）に事業の進捗状況の報告、確認、情報交換、協議の場をもつ。

【成　果】
○丁寧な周知活動により、授業や保育の相互参観・協議参加を積極的に行う小学校区が増えた。
→協議まで参加：昨年度は、のべ１１園　８校
今年度は、のべ３５園１９校（急なコロナ等での不参加３校）
○教育委員会との連携が強化し、情報交換や事業の進捗状況を確認しながら、校長会や教頭会を通して、園小連携や幼小接続の取組について働きかけることができた。
○就学前・小学校大仙地区合同研修会を、昨年度は市教委に“手伝ってもらう”という形だったが、今年度は、共に成功に向けて役割分担しながら実施することができた。
○スタートカリキュラムの提出について市教委から働きかけてもらったことで、どの小学校区でも作成することができた。共有フォルダを作成してもらったことで小学校区同士で参考にし合うことができたことも大きい。

【課　題】
●スタートカリキュラムを育ちや学びを「つなぐ」「生かす」と捉える意識の醸成。
●園の協議への参加が、管理職にとどまらず学級担任等に広げること。
●相互参加で得た内容を、自園や自校で共有すること。

【今後に向けて】
◇スタートカリキュラムの作成が、園と小学校のやり取り（情報交換等）を基に行われるよう、具体的なやり取りの仕方について資料提供を行った。（１月１８日の教頭会で配付）
◇園内研修（協議）に、小学校の管理職だけでなく担任等の職員が参加できるよう、校長会や教頭会を通して、小学校に働きかけてもらう。

◇園内研修や授業研究会への相互参加で得た内容や気付きを、自園や自校で全職員と共有してもらえるよう、アンケートの中にその項目を入れる。

（２）「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

・教育・保育施設へ年２回の定期的な訪問の継続（２７施設）
前期訪問：５～６月　　後期訪問：１２月
（園の目標や重点・課題の把握、教育・保育の支援、特別な支援を要する子の把握等）

・単発派遣訪問
園からの要請に随時対応。教育・保育アドバイザーの積極的な活用を促す。

・園内研修への支援
保育の改善や園内研修（協議）の仕方への支援、園の課題や研修計画等へのアドバイスを行う。

【単発派遣等訪問】

①かえで保育園大曲
期日：令和４年５月２０日（金）
内容：気になる子どもの対応について

②大曲中央こども園
期日：令和４年６月７日（火）
内容：公開保育研究協議会に向けて　意見交換等

③すくすくだけっこ園
期日：令和４年６月９日（木）
内容：公開保育研究協議会に向けて　意見交換等

④大曲駅前こども園
期日：令和４年６月１５日（水）
内容：公開保育研究協議会に向けて　意見交換等

⑤おおたわんぱくランド　のびのび園
期日：令和４年６月２２日（水）
内容：公開保育研究協議会に向けて　意見交換等

⑥つきの木こども園
期日：令和４年６月２３日（木）
内容：園内研修の協議の仕方について

園内研修の協議、
KJ 法で活発な意見交換

⑦藤木保育園
期日：令和４年６月２８日（火）
内容：保育内容と園内研修について

⑧大曲中央こども園
期日：令和４年７月１日（金）
内容：園内研修について

⑨なかせんワイワイらんど
期日：令和４年７月６日（水）
内容：園内研修について　市のアドバイザーに学ぶ研修会打合せ

⑩角間川保育園
期日：令和４年７月１４日（木）
内容：園内研修について

⑪おおたわんぱくランド
期日：令和４年８月８日（月）
内容：公開保育研究協議会に向けて　意見交換

⑬中仙東保育園
期日：令和４年８月９日（火）
内容：園の課題について

⑭なかせんワイワイらんど
期日：令和４年９月７日（水）
内容：園内研修について
⑮大曲駅前こども園
期日：令和４年９月８日（木）
内容：園内研修について
⑯大曲乳児保育園
期日：令和４年９月２９日（木）
内容：保育内容と園内研修について
⑰なかせんワイワイらんど
期日：令和４年１０月７日（金）
内容：協議及び市アドバイザーに学ぶ研修会について
⑱大曲南保育園
期日：令和４年１０月１１日（火）
内容：保育内容と園内研修について
⑲四ツ屋こども園
期日：令和４年１０月１７日（月）
内容：保育内容と園内研修について
⑳なかせんワイワイらんど
期日：令和４年１０月１９日（水）
内容：市アドバイザーに学ぶ研修会
㉑すくすくだけっこ園
期日：令和４年１０月２７日（木）
内容：園内研修について
㉒大曲北保育園
期日：令和４年１１月４日（金）
内容：保育内容と園内研修について（未満児保育）
㉓大曲北保育園
期日：令和４年１１月２２日（火）
内容：園内研修について（以上児保育：コロナの影響で保育参観はナシ）
㉔みつば保育園
期日：令和４年１１月２８日（月）
内容：気になる子どもについての理解と対応
㉕協和まほろばこども園
期日：令和４年１２月１４日（水）
内容：園内研修について
㉖はなだて保育園
期日：令和５年１月１９日（木）
内容：保育内容と園内研修について（１歳児）
㉗大曲東保育園
期日：令和５年１月１７日（火）
内容：園内研修について

以上、のべ２７園

【成　果】
○昨年度は、こちらから訪問をお願いすることも多かったが、今年度は、園から積極的に依頼してくることが多くなった。コロナ禍により、依頼があっても実施できない園もあったが、昨年度より多く訪問できた。
○保育や園内研修を向上させるためにアドバイザーを活用する園が増えた。「モヤモヤしていたことがすっきりした」「前より充実した協議ができるようになった」などの園からの声をいただ

き、必要とされている実感をもつことができた。

【課　題】

●園や保育士等のニーズに対応できるよう、更に研鑽を積む必要がある。自分の経験や保育観だけに頼らず、知識等深め幅広い見識をもって当たらなければならない。

【今後に向けて】

◇園が、指導主事訪問で受けた指導・助言について、「何を」「どのように」していったらいいのかを共に考え、具体的に改善できるよう支援していく。

◇園内研修の協議の仕方に課題を感じている園が多いので、共に考えながらある程度の道筋を示していくようにしたい。特に、「ねらい」を軸にした振り返りや話し合いによって保育を深く掘り下げ、保育へのさらなる意欲が持てるように関わっていきたい。

◇令和４年度アドバイザーによる巡回訪問･指導に関する具体的な目標（大仙市）

⑥派遣実績　計　47 施設・校／全　47 施設・校　１４２回	
回数	・幼稚園：私立　０園（０回） ・保育園：公立　０園（０回）、私立１４園（５３回） ・幼保連携型認定こども園：私立　１０園（４６回） ・その他の施設：小規模保育施設　１か所（２回）、認可外保育施設　１か所（２回）、 事業所内保育施設　１か所（３回） ・小学校：　２０校（３６回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、２４園（２６回） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、４園（４回） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、１ 園（１回） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、２７園（５４回） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、２７園（２７回） （目標のうち、２０校（２０回） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、２４園（２４回） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、１４校（１６回） （目標のうち、２０園（４６回）
理由	・各園を年４回以上訪問し、園の実態、課題の把握及び課題解決に向けた支援と保育の質の向上を図る。 ・県と同行の際、情報提供をしながら、訪問機会を増やしていく。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

◆県の指導主事訪問の機会を通じ法人や施設形態の枠を越えた「学び合う」体制を推進し、その体制が定着できるよう支援していく。

＜指導主事訪問実施園＞

・保育園：１７園中１４園…約８２％（昨年度は、１７園中１２園…７０％）

・認定こども園：１０園中１０園…１００％　・事業所内保育施設：１園中１園…１００％

【成　果】

○他園の園内研修に参加し、互いに新しい考えや方法に触れることで学び合いが生まれ、自分あるいは自園の保育や園内研修のレベルアップにつながっている。

○昨年度は、保育についての協議後にアドバイザーが保育士等と振り返る時間を設けることが多かったが、今年度は、園の状況やニーズに対応し協議前にその時間を設ける機会を増やしている。それによって、協議や振り返りがより整理され内容の濃いものになってきている。

【課　題】

●アドバイザーが「学び合い」の参加園を調整しているが、今後、仲立ちなしでも園同士がやり取りできるような体制づくりをどのように構築していくか。

【今後に向けて】
◇園同士でのやり取りによる「学び合い」となると、園にかかる負担（連絡・調整）が大きくなるので、今後、３年程度の年次計画により段階的に進めていく。
◇市内保育所には、指導主事訪問を要請しなかったり（２園）、学び合いに参加しなかったり（１園）する園がまだある。その第一歩として、当該園の園内研修に参加させてもらうなどして信頼関係をより築きながら参加の良さを伝えていく。
◇保育実践力の向上に向けた研修会の実施（年２回）
・内容：ファシリテーター研修
日時：令和４年６月１７日（金）
講師：秋田県教育庁南教育事務所　指導主事：石山　潤　氏
対象：市内教育・保育施設職員
＊保育士等キャリアアップ研修「マネジメント」対象
＊参加レポート提出、アンケート実施

保育実践力向上研修会Ⅰ

＜アンケート結果＞
◇講義について
①非常に満足…２１名　②満足…５名　③普通…なし ④やや不満…なし ⑤不満…なし
◇演習について
①非常に満足…１９名　②満足…７名　③普通…なし ④やや不満…なし ⑤不満…なし
＜参加者の感想より＞
・保育の学びを深めるため、ねらいや視点を明確にしゴールを決めて取り組むことで分かりやすく意見の出やすい協議になると感じました。
・ファシリテーターの不安を軽減できるより具体的な事前準備の仕方・内容が分かり、すぐ実践しようと思いました。園でしっかり伝え全員で共有したいです。
・園では毎回手応えを得られず悩んでいたので、実際にどのような言葉を投げかけるとよいかが分かり、不安が解消されました。
・予めポイントを２点に絞ること等、向かう方向が見えて充実した演習ができました。

・内容：特別な配慮を必要とする子どもの支援について
日時：令和５年１月２０日（金）
講師：秋田県立大曲支援学校　教育専門監　：本多　由香　氏
地域支援主任：丹波　舞子　氏
対象：市内教育・保育施設職員
＊保育士等キャリアアップ研修「障害児教育」対象
＊参加レポート提出、アンケート実施
＜アンケート結果＞
◇講義について；参加２５名（新型コロナウイルス関連で１名欠席）
①非常に満足…１８名　②満足…７名　③普通…なし ④やや不満… なし⑤不満…なし
◇演習について
①非常に満足…１８名　②満足…７名　③普通…なし ④やや不満…なし ⑤不満…なし
＜参加者の感想より＞
・保護者や本人の願いを叶えるためという言葉が一番印象に残りました。
・特別な支援が必要な子だけでなく、一人一人に合った学び方を考える大切さを改めて感じました。
・個別の支援計画について目標やニーズの考え方を教えていただき大変勉強になりました。
・演習では、事例から具体的な特性を読み取るのが難しかったですが、同班の先生方の様々な角度からの捉え方に触れ検討することができ見方が広がりました。

・切れ目のない支援の具体について考えさせられました。就学ぎりぎりになって慌てるのではなく、就学先や関係機関と情報共有しながらつながりを深めることの大切さを改めて学びました。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

・市内小学校（２０校）及び教育・保育施設へ、事業説明と園小連携計画等の情報収集、今年度の幼児教育推進事業の重点の周知と事業への積極的な協力の依頼。
・小学校区での相互参観においては、互いに育てたい資質・能力について理解を深めるために、協議への参加を更に呼びかけ、特に小学校には管理職以外の参加の重要性への理解を促していく。
・接続カリキュラム等、教育課程の編成についての支援の継続。
全体計画や単元配列を組み入れたスタートカリキュラムを作成できるよう、また互いの小学校区のものを参考にできるよう、市教委に共有フォルダをつくってもらった。さらに、園と小学校が資質・能力等についてやり取りしながら作成できるよう具体的なやり取りの仕方を示しながら働きかけている。

〈小学校の授業参観及び研究協議への参加〉

①大曲小学校
期日：令和４年６月１日（水）
内容：１年生５クラスの授業参観
参加：大曲中央こども園、大曲南保育園、大曲東保育園、
大曲駅前こども園、日の出ベビー保育園
どれみ保育園　　６園から１５名

②角間川小学校
期日：令和４年７月４日（月）
内容：１・２年生（体育）の授業参観、協議
参加：角間川保育園から２名

③豊成小学校
期日：令和４年８月３１日（水）
内容：１・２年生（算数）の授業参観、協議
参加：なかせんワイワイらんどから１名、中仙東保育園から１名

④花館小学校
期日：令和４年９月１５日（木）
内容：１年生（生活科）４年生（総合的な学習の時間）の授業参観、協議
参加：大曲駅前こども園から２名、大曲北保育園から２名、はなだて保育園から３名

⑤清水小学校
期日：令和４年９月２０日（火）
内容：１年生（図工）の授業参観、協議
参加：なかせんワイワイらんどから１名

⑥南外小学校
期日：令和４年１１月１日（火）
内容：１年生（国語：書写）授業参観、協議
参加：つきの木こども園から１名

⑦中仙小学校
期日：令和４年１１月７日（月）
内容：２年生（国語）授業参観、協議
参加：なかせんワイワイらんどから１名

⑧大川西根小学校
期日：令和４年１１月８日（火）
内容：１年生（算数）の授業参観、園小連携協議会
参加：大川西根保育園から２名

⑨神岡小学校
期日：令和４年１１月９日（水）
内容：１年生（生活科）授業参観
参加：すくすくだけっこ園から１名
⑩内小友小学校
期日：令和４年１１月１１日（金）
内容：１年生（生活科）授業参観　＊協議は、小学校の都合により後日
参加：内小友保育園から２名
⑪花館小学校
期日：令和４年１１月２４日（木）
内容：１年生（体育）授業参観、協議
参加：大曲北保育園から２名
⑫太田北小学校
期日：令和４年１１月２９日（火）
内容：１年生（音楽）授業参観
参加：おおたわんぱくランドから１名
⑬西仙北小学校
期日：令和４年１１月２９日（火）
内容：全学年の授業参観（生徒指導計画訪問）、協議
参加：みつば保育園から１名、西仙あおぞらこども園から１名
⑭藤木小学校
期日：令和４年１１月２９日（火）
内容：１年生（国語）授業参観、協議
参加：藤木保育園から２名
⑮太田東小学校
期日：令和４年１１月２９日（火）
内容：１年生（道徳）授業参観
参加：おおたわんぱくランドから１名
⑯高梨小学校
期日：令和４年１２月６日（火）
内容：１年生（算数）授業参観、協議
参加：せんぼくちびっこらんどから１名
⑰東大曲小学校
期日：令和４年１２月７日（水）
内容：１年生（生活科）授業参観、協議
参加：大曲南保育園から１名

小学校の協議で園の先生も積極的に発言

⑱四ツ屋小学校
期日：令和４年１２月１５日（木）
内容：１年生（算数）授業参観、協議
参加：四ツ屋こども園から２名、どれみ保育園から１名
⑲協和小学校
期日：令和４年１２月１９日（月）
内容：１年生（音楽）授業参観、協議
参加：協和まほろばこども園から１名
⑳大曲小学校
期日：令和５年１月２６日（木）
内容：１年生（算数）授業参観、協議
参加：大曲中央こども園、大曲駅前こども園、大曲東保育園、大曲南保育園
日の出ベビー保育園、かえで保育園など６園から参加予定

以上２０校

〈就学前施設の保育参観及び研究協議への参加〉

② 大川西根保育園

期日：令和４年５月２６日（木）

内容：５歳児クラスの保育、協議

参加：大川西根小学校から１名

②はなだて保育園

期日：令和４年７月８日（金）

内容：４歳児、５歳児クラスの保育、協議

参加：花館小学校から３名（１年担任、２年担任、校長）

③ つきの木こども園

期日：令和４年７月１３日（水）

内容：２歳児クラス、５歳児クラスの保育、協議

参加：南外小学校から参加予定だったが宿泊行事が重なっている上に当日急な休みの職員あり参加できず

園内研修に小学校から参加
「なるほど！」がたくさんありました

④すくすくだけっこ園

期日：令和４年７月２０日（水）

内容：５歳児クラスの保育、協議

参加：神岡小学校から２名（１年担任、校長）

⑤おおたわんぱくランド

期日：令和４年７月２１日（木）

内容：２歳児クラス、５歳児クラスの保育、協議

参加：太田南小学校から２名（４年担任、教頭）太田東小学校から１名（１年担任）

⑥藤木保育園

期日：令和４年７月２２日（金）

内容：５歳児クラスの保育、協議

参加：藤木小学校から２名（１年担任、教頭）

⑦西仙あおぞらこども園

期日：令和４年８月２日（火）

内容：５歳児クラスの保育、協議

参加：西仙小学校から１名（校長）

⑧せんぼくちびっこらんど

期日：令和４年８月２６日（金）

内容：５歳児クラスの保育、協議

参加：高梨小学校から２名（１年担任、教務主任）横堀小学校から１名（１年担任）参観のみ
横堀小学校長が協議に参加予定だったが、当日コロナ感染発生のため直前で欠席。

⑨協和まほろばこども園

期日：令和４年９月９日（金）

内容：５歳児クラスの保育、協議

参加：協和小学校から参加予定だったが、当日コロナ感染発生のため直前で欠席。

⑩角間川保育園

期日：令和４年９月１３日（火）

内容：５歳児クラスの保育、協議

参加：角間川小学校より１名（２年担任）

⑪なかせんワイワイらんど

期日：令和４年９月１３日（火）

内容：５歳児クラスの保育、協議

参加：中仙小学校から２名（学級担任～参観のみ）
清水小学校から１名（２年担任）

⑫内小友保育園

期日：令和４年９月１４日（水）

内容：５歳児クラスの保育、協議
参加：内小友小学校から１名（校長）
⑬四ツ屋こども園
期日：令和４年９月２７日（火）
内容：２歳児クラス、５歳児クラスの保育、協議
参加：四ツ屋小学校から１名（教頭）
⑭大曲中央こども園
期日：令和４年１０月１２日（水）
内容：２歳児クラス、５歳児クラスの保育、協議
参加：大曲小学校から５名（１年担任、教頭）協議参加は２名
⑮大曲東保育園
期日：令和４年１０月１８日（火）
内容：２歳児クラス、５歳児クラスの保育、協議
参加：大曲小学校から１名（教頭）東大曲小学校から１名（教頭）
⑯大曲南保育園
期日：令和４根１０月２０日（木）
内容：２歳児クラス、５歳児クラスの保育、協議
参加：大曲小学校から１名（教頭）東大曲小学校から１名（５年担任～参観のみ）
⑰みつば保育園
期日：令和４年１２月１５日（木）
内容：５歳児クラスの保育、協議
参加：西仙北小学校から１名（校長）
⑱大曲駅前子ども園
期日：令和４年１２月１６日（金）
内容：２歳児クラス、５歳児クラスの保育、協議
参加：大曲小学校及び花館小学校から参加予定だったがコロナ感染の影響により不参加
⑲大曲北保育園
期日：令和４年１２月１６日（金）　＊コロナにより１１月３０日（水）から延期
内容：５歳児クラスの保育、協議
参加：花館小学校から参加予定だったがコロナ感染の影響により不参加
⑳中仙東保育園
期日：令和４年１２月２１日（水）
内容：５歳児クラスの保育、協議
参加：豊成小学校から１名（１年担任）　以上２０園

＜園の指導主事訪問に参加した小学校職員の感想より＞
・保育参観は初めてで、どんな活動をしているのかイメージを持てなかったが、石けんで泡を作ったり、その泡でケーキやジュースを作ったりしている様子を見て、想像していたより難しい活動をしていることに驚いた。あのような活動が小学校で学習する内容につながっているのだと実感した。（新卒１年目：２年担任）
・今後、幼保小連携協議会で行われる「保育園訪問」に、可能な限り多数の職員が参観し、協議で感想や意見を述べ合うようにしたい。（校長）
・今回見せていただいた保育活動では、言葉の一斉指示で活動が行われるのではなく、自然な流れの中で遊びや片付けが進んでいた。小学校では、言葉での指示理解を求めることが多いため小学校の導入期のあり方を考えていきたい。（１年担任）
・学校でも児童が意欲をもって活動（学習）を続けていけるような「仕掛け」を事前に準備し、児童の実態に合った声かけや教材の準備、工夫が必要なことを保育参観して改めて思った。（教頭）

【成　果】

○コロナ感染発生や学校事情により仕方なく不参加の小学校もあるが、ほぼ協議に参加するようになり、保育の見方や捉え方も向上している。また、園での育ちを小学校への学びにつなげようという意識とともに園の子どもへの関わり方に学ぼうという姿勢も見えるようになった。
○スタートカリキュラムを全小学校で作成できた。学びや育ちについて園とやり取りした上で作成した小学校も増えている。

【課　題】
●スタートカリキュラムを、１年担任だけでなく学校全体で作成する小学校を増やす。
●園小連携協議会が、しっかりと育ちと学びをつなぐ実効性のある組織になるよう小学校の校務分掌に位置付けてもらうようにすること。

【今後に向けて】
◇市教委を通してスタートカリキュラムを提出してもらっているが、作成依頼の項目に「園とやりとりして」「学校全体で」等を入れてもらうようにする。
◇市教委を通して、この後開催される校長会や教頭会で、来年度の校務分掌に園小連携の組織を入れることをお願いしてもらう。

◆教育・保育の質の向上と、小学校教育との円滑な接続を図ることを目的とした「公開保育研究協議会及び就学前・小学校大仙地区合同研修会」の開催

期　日：令和４年９月２２日（木）
内　容：全体会、講話、小学校区を基本としたグループ協議
会　場：大曲市民会館小ホール及び大曲交流センター
講　師：横手市立増田小学校　校長：北條　保　氏
「幼小で連続した資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントについて」
対　象：市内教育・保育施設職員及び小学校職員各１名

＊同時開催計画の公開保育研究協議会（午前の部）コロナ感染拡大防止のため、中止。
公開予定だった４園・社会福祉法人
大曲保育会幼保連携型認定こども園：大曲中央こども園
保育所型認定こども園　：大曲駅前こども園
大空大仙　幼保連携型認定こども園：すくすくだけっこ園
おおたわんぱくランド

＊保育士等キャリアアップ研修「幼児教育分野」対象
＊参加レポート提出、アンケート実施

＜アンケート結果＞
◇講話について
①非常に満足…２７名　②満足…１６名 ③普通…なし ④やや不満…なし ⑤不満…なし
◇グループ協議について
①非常に満足…２６名　②満足…１４名 ③普通…なし ④やや不満…なし ⑤不満…なし

＜参加者の感想より＞
［就学前教育・保育施設の参加者より］
・今、保育の中で子どもへどう関わっていけばよいのか「どんな子どもに育てたいのか」など考え、どのような経験をさせていけばよいのかなど教えていただき勉強になりました。
・資質・能力は０～１５才までのつながりが大切であること、カリキュラムの見直しを全員で行い、誰が担任になっても大丈夫なように行っていくことが大事だとおもいました。
・小学校のカリキュラムの内容や、目指す子どもの姿を知ることができました。
・小学校の先生達と一緒に話し合い、本音、熱意を感じることができたことで、子どもたちを教育者みんなで「つなぎ生かす」に取り組んでいかなければならないんだなと思いました。

［小学校の参加者より］

・幼小の接続を図る上で、カリキュラム・マネジメントの計画の作成が大切であることや、作成のポイントや順序など具体的に示していただき大変参考になりました。資質・能力がまず大切であることの再確認ができました。

・環境と主体的に関わるということは幼小で共通した目標であると感じた。今後さらに連携を深め、スタートカリキュラムをより実効性のあるものへと改善していきたい。

小学校区を基本としたグループ協議

・「１０の姿」について「幼小の資質・能力や関わり方などの接続」について「カリキュラム・マネジメント」について良い話し合いができました。

・課題や今後の取組について具体的な話し合いができてありがたかったです。小学校区で情報交換できたことで話題を絞った話し合いができました。ありがとうございました。

【成　果】

○昨年度は、幼児教育側からと小学校教育側から２名の講師による講義で、幼小の接続の重要性についてより意識することができたことから、今年度は、そのためのスタートカリキュラムのあり方を具体的に学び、作成に向けて必要なことを確認することができた。

○小学校区を基本として、いくつかの小学校区同士で行ったグループ協議では、連携・接続の課題を互いに確認することができ、このあと実際に何をしなければならないかまで話し合うことができたので、改善・発展が期待できる協議となった。

【課　題】

●コロナ禍でも公開が可能になるようにと４園同時保育公開を計画したにもかかわらず、２年連続コロナにより公開保育が中止となったことから、来年度は、公開の形を検討する必要がある。

●グループ協議で確認した各小学校区での課題改善策が確実に実行できるようなアドバイザーの支援のあり方を探る。

【今後に向けて】

◇新型コロナ感染の状況は来年度も大きく変わらないと考える。公開保育ができなくても研究協議会及び就学前・小学校合同研修会が充実できるよう、保育参観を同日に統一して行うのではなく、研修会までに各小学校区で協議も含めた相互参観を実施する方向で検討したい。

◇合同研修会で確認した各小学校区での課題改善策についての進捗状況を、市教委を通して２月末あたりまでにアンケート等で報告してもらうことも考えたい。

◆機関誌の定期的発行の継続

幼小連携だより「だいせん元気っ子」を月１回程度発行し、連携活動の具体や内容、保育の様子や１年生の授業、相互参観・協議参加の学びなどを随時紹介することで、よりよい連携や円滑な接続についての意識を高める。

（５）「県との連携体制の充実」

・県主催の連絡協議会等、事業への継続的な参加
・県主催事業を通じ、事業実施市との情報交換及び連携
・事業実施市の公開保育の視察や研修会への参加
・県指導主事要請訪問の同行の継続（保育に対する指導・助言の共有）
・市主催研修会講師として活用

【成　果】

○教育・保育アドバイザー連絡協議会では、事例検討を中心に、子ども理解や保育のあり方を考え合うことで、よりよいアドバイザーの関わりについて再確認したり、新たな方向に気付いたりすることができた。また、指導主事訪問の同行や研修会への参加によって得た考え方やスキルを、園や保育士等の保育の質の向上に具体的に生かすことができた。

【課　題】

●県指導主事の指導・助言が、日常的な保育に結びついていくよう具体的に“翻訳”する役目を果たしたり、保育士等の自信や意欲をより高めたりできるような関わりを今後も模索したい。

【今後に向けて】

◇近隣市のアドバイザーとは随時情報交換できているが、他実施市のアドバイザーとも必要な時に気軽に情報交換し、他市の取組などに学びながらアドバイザーとしてのスキルを高めていきたい。

◆市アドバイザーに学ぶ研修会の実施

期　日：令和４年１０月１９日（水）

会　場：社会福祉法人大空大仙幼保連携型認定こども園
　　なかせんワイワイらんど

参集者：	秋田県教育庁幼保推進課	指導主事	佐藤　忠浩
		教育・保育アドバイザー	山上　真智子
	南教育事務所	指導主事	石山　潤
	横手市教育委員会教育指導課	教育・保育アドバイザー	石川　淳
	にかほ市市民福祉部子育て支援課	教育・保育アドバイザー	三浦　京子

内　容：４歳児クラスの保育参観及び協議を通したアドバイザーの関わり

３　わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(R４)の成果と課題

【成　果】

○就学前教育・保育施設経験者と小学校経験者という異なる経歴の２名が、主に保育の質の向上担当と、主に幼小の円滑な接続担当というように役割分担することで、両面からの取組を充実させる結果となっている。

○教育・保育アドバイザー２名が同じメンバーで昨年度から継続して活動できたことで、さらにアドバイザーと園との関係性が深まり、園内研修への派遣を要請する園が約３割から７割に増えた。同日に２園の園訪問も可能となったことも回数を増やすことができた要因といえる。それにより、各園の園内研修がより充実してきている。

○県指導主事要請訪問についても、これまで希望したことのなかった園の中で、今年度新しく要請する保育所が２園増え、保育の質の向上に向けて意欲を高めてきている。

○施設形態や法人の枠をこえた地域での「学び合い」も３年目となり、互いの保育や園内研修から刺激を受けたり保育士同士で活発な意見交換をしたりして主体的な学び合いに発展する中で、自分や自園のレベルアップにつなげようとする意識が高まり、実際の保育や子どもの姿に表れている。

○園内研修への関わりについて、「事後の助言」から「事前の助言」に一部形を変えたり、協議の柱を「ねらい」を軸にして立てることなどを中心にアドバイスしたりしてきたことで、具体的な改善に結びつけることができた。

小学校１年生活科を参観し、園の遊びに通じることを園の先生も実感。

○アンケートや園訪問を通して、園や保育士等のニーズに沿った市主催の保育実践力向上研修会を実施することができた。研修会での学びが園で確実に共有されていることが、訪問して実感できている。

○２年連続で公開保育が中止となってしまったが、教育・保育施設職員と小学校職員との合同研修会は参集型で開催することができた。園と小学校の職員が一堂に会し、保育の講評や講話を共に拝聴し、グループ協議で小学校区の連携や接続のあり方について話し合う機会をもつことができたことは、大きな一歩となった。資質・能力を「つなぐ」「生かす」ことの重要性を互いに再確認し、各小学校区で今後具体的に取り組んでいく実践項目を共通理解できたことも大きい。

○市教委との連携がより強化され、小学校への働きかけを市教委訪問や校長会・教頭会の機会に行ってもらえたことで、小学校側の接続や連携への意識が高まり、より充実したスタートカリキュラムの重要性への理解が深まった。

【課題及び今後に向けて】
●指導主事訪問の指定クラスが３才以上児が多いことから、３才未満児の保育の重要性をより理解し、園内研修で学ぶ機会を増やしていけるよう働きかけていきたい。
●園内研修での協議が研修リーダーを中心に充実してきてはいるが、さらに「ねらい」を拠り所にして、保育のあり方について掘り下げた話し合いができるような関わり方を探っていきたい。
●連携の一環である子ども同士（年長と１年生など）の交流活動がマンネリ化している傾向にある。園小の双方にとって意義（互恵性）のあるものになるよう、互いのねらいや育ちを確認し合って実施できるよう関わっていきたい。
●合同研修会で各小学校区が確認した実践項目が、このあと確実に実行できるよう、「幼小連携だより」を活用するなどして、小学校区で行われる今後の情報交換等のあり方にも具体的に関わっていく必要がある。
●スタートカリキュラムを園と関わりながら作成・実践し、それによって接続が円滑に図られたという１年生の姿を実感できることが最も大切である。そのため、円滑に図られた姿の具体を市教委と共に示していければと思う。

以上、成果と課題を述べたが、事業の２つの柱である「保育の質の向上」「幼小の円滑な接続」の大切さについての気付きが今後もより深められるよう、関係機関との連携、協力、共有を図り、今後も事業を段階的に推進していきたい。

実施市の具体的取組（にかほ市）

１　教育・保育の現状と課題
（１）各園の特色・特徴を把握し、行政との信頼関係を密にしながら保育の質の向上に繋げる支援体制を構築する。
（２）教育・保育アドバイザーの支援のもと、保育者が抱える課題等の改善を図り、意欲の向上に繋げる。

２　令和４年度の目的、重点、実施内容
【目的】
１．教育・保育アドバイザーが各園を定期的に訪問し、各園の取り組みや課題の把握に努め、課題解決のための支援を行う。
２．行政と園が連携して教育・保育の質の向上に資する取り組みを行う。（研修等）
３．小学校就学に向けた連携体制の強化に努める。

【重点】
園との連携体制をさらに深化させ、各園の課題やニーズの把握に努め支援を行う。幼保小接続の推進に向けた連携体制の構築と強化。

【実施内容】
（１）**「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」**
・子育て支援課と小学校教育部局（学校教育課）の連携を強化し、小学校との円滑な接続のための情報共有を図る。
・小学校への訪問、情報共有により就学までに身に付けたい資質・能力の向上について相互理解を深める。（市内各校を訪問）

○未就学児童の集団訓練や幼児相談カンファレンス等を通じて、配慮を要する子どもの就学に必要な支援について、関連部署において情報を共有している。
●各関連部署との情報共有を包括的に検証する機会を持ち、次年度以降の情報の引継ぎ等に役立てるようにしたい。

（２）「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

・子育て支援課に教育保育アドバイザー１名を継続配置
・教育保育アドバイザーが定期的に保育所・認定こども園を巡回訪問し、各園の実情を把握し、適切な助言、支援を行う（９施設：８１回訪問）
・園内研修への支援として、保育の改善や協議の仕方への支援、園の課題や研修計画等へのアドバイス
・子ども家庭総合支援拠点（家庭児童相談室）、ネウボラ（母子保健支援班）、障害児集団訓練事業等との情報共有を図り、支援が必要な子どもとその親に対して適切な支援を行う（毎月）

◇令和４年度アドバイザーによる巡回訪問･指導（にかほ市）

⑥派遣実績　計１３施設／全１３施設　１７２回		
回数	・保育園：私立５園（４８回） ・幼保連携型認定こども園：私立４園（３８回）	
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）	９園（４７回）
	・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）	園（　　回）
	・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）	９園（１９回）
	・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）	９園（　９回）
	・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）	９園（　９回） 施設（　回） 校（　　回）
	・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）	２園（　２回）
	・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）	校（　　回） 園（　　回）
理由	・各園を定期的に訪問することで各園の実情や課題等を把握し、課題解決に向けた支援を行い、保育の質の向上を図る。 ・家庭児童相談室、子ども家庭総合支援拠点等と情報共有を密にし、対応が難しい子どもとその保護者への関わり方について連携しながら支援を行う。	

○教育保育アドバイザーの役割や活用方法が認知されてきており、訪問を希望する園が増えてきている。
○教育保育アドバイザーが訪問、支援を重ねていく中で、保育園等では主体性を持って課題を提供したり目標を設定するなど意識の変化が見られる。
●一方で、園の規模や体制により教育・保育アドバイザーの活用機会に差があるため、引き続き各園の環境やニーズ把握に努めながら、アドバイザーを通じた支援を継続していく。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

①基本的な研修の進め方や研修の方法について学ぶ「取り組みやすい園内研修Ⅰ」を開催。
（※キャリアアップ研修として開催）
開催日：令和４年８月１０日(水)
講　師：秋田県教育庁幼保推進課　主任指導主事　武石　郁子
〃　指導主事　佐藤　玲子
〃　指導主事　佐藤　忠浩
〃　教育・保育アドバイザー　山上　真智子
参加者：９園５名
【参加者アンケート抜粋】
・子どもの姿や場面を見る際に、自分一人の見方だけではなく、様々な見方に触れることで、自分の見方や考え方が広がることを演習を通して改めて感じることができた。

・日々の保育について、素直にオープンな姿勢で話せる同僚との関係性を大事にしていきたい。そしてＳＯＡＰの視点で保育を評価する協議の進め方を自園の園内研修で実践できるようにしたい。
・演習の中でファシリテーターになってみて、協議を進める難しさを感じた。ＳＯＡＰの視点で意識して協議を進めることが大切だと思った。

（写真左：「ファシリテーターの役割について」講義、写真右：演習による実践）

○「ＳＯＡＰ」の視点による子どもの読み取り方法があることを学んだ参加者が多く、園に持ち帰り実践したいという声が多く聞かれ、有意義な研修であった。

②成長や行動等が気になる子、その保護者への支援について学ぶ「発達支援研修会」を開催。
（※キャリアアップ研修として開催）
開催日：令和４年８月３０日(火)
講　師：秋田県立ゆり支援学校
　　特別支援教育アドバイザー　石川　純子
参加者：８園１７名
【参加者アンケート抜粋】
・発達障害の特徴がとても分かりやすく、寄り添い方、理解の仕方、保護者へのかかわり方の大切さを知ることができた。
・保護者の対応のポイントを詳しく教えてもらい、困り感をいつでも聞いてあげられるように保護者との信頼関係を作っていきたい。
・ユニバーサルデザインを取り入れることは特性を持った子だけでなく、全員にとって分かりやすい、意欲につながる環境になるので意識して取り入れていきたい。

（写真：研修会の様子）

○園において、最近は気になる子及びその保護者への関わり方についての相談が増えてきていることから本研修に至った。講師からは発達障害を理解するという基本的な部分から保護者対応のポイントまで分かりやすい内容で講話があり、参加者にとっても充実した研修となった。

③基本的な研修の進め方や研修の方法について学ぶ「取り組みやすい園内研修Ⅱ」を開催。
（※キャリアアップ研修として開催）
開催日：令和４年１２月１６日(金)
講　師：秋田県教育庁幼保推進課　主任指導主事　武石　郁子
〃　指導主事　佐藤　玲子
〃　指導主事　佐藤　忠浩
〃　教育・保育アドバイザー　山上　真智子
参加者：９園５名
【参加者アンケート抜粋】
・ＳＯＡＰの視点を日々の記録に活かすことはこれからの保育にすぐに活かせることができるのではないかと思った。
・ファシリテーターとして話を進めていくことに難しさを感じていたが、今日の視点、ねらいを明確化することでその方向へ進められることを演習を通して感じることができた。
・リーダーとして保育を進めていくうえで、ファシリテーターの役割にもある傾聴を心掛けるようにして、自分の思いを話しやすい雰囲気作りや問いかけができるように努めていきたいです。

（写真左：「ファシリテーターの役割についてⅡ」講義、写真右：演習による実践）

○8/10 に行った研修のフォローアップを兼ねて開催した。ファシリテーターの役割について、今回も演習で実践した。回数を繰り返すことで参加者も理解が深まり成果のある研修となった。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」
・アドバイザーの小学校訪問による情報交換の実施
・教育委員会部局と連携し、就学前教育・保育と小学校教育の円滑な接続を図る（随時）

○これまでに実施してきた事業への参加・協力体制を強化することで、相互理解を深めることに繋げている。
●就学前施設から小学校教育への円滑な接続に向けて、保育所・認定こども園と小学校等の教職員間の相互理解、資質向上を目的に「幼保小合同研修会」を計画したが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止となった。
●幼保小の架け橋プログラムの実施に向けて、小学校を含めた教育委員会とは、更に連携を深めていく必要がある。

（５）「県との連携体制の充実」

・県との連携を強化し、事業の円滑な実施のための助言、指導法等の共通理解を図る（要請訪問による指導年２回・市の計画相談年２回）
・県就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会等を通じて、先行する地域の事例等を参考に、取り組み等への助言、指導等を活用
・県の要請訪問へのアドバイザーの同行支援（２園２回）
・県アドバイザーによる支援訪問に市アドバイザーが同行支援（２園２回）
・県主催「市アドバイザーに学ぶ研修会」にアドバイザーを派遣（開催地：仙北市、大仙市）
・県幼保推進課所管研修会にアドバイザーを派遣
（「園内研修リーダー養成講座Ⅰ」「園内研修リーダー養成講座Ⅱ」）

○県アドバイザー連絡協議会に参画することで、他市の取り組みを学ぶことができ参考になった。県アドバイザーから助言等も励みにして、引き続き効果的な事業実施に取り組みたい。
●アドバイザー１名の配置となっているため、業務の分担や検証がしづらい環境にある。他市のアドバイザーとの交流等から、業務の進め方について参考になる事例を学んでいく必要がある。

３　わか杉っこ！育ちと学びステップアップ事業（R4）の成果と課題
○教育保育アドバイザーの役割や活用方法について認知度が進み、配置による効果及び必要性がより高まってきている。
○コロナ禍であったが保育園等への訪問回数も初年度に比べ増え、活動量も増えた。
○園内研修においては、教育保育アドバイザーの支援及び研修会の実施により、園全体の意識の向上や教育・保育の質の向上につながっている。
●コロナ禍で「幼保小合同研修会」が中止となるなど、小学校への円滑な接続に向けた取り組みが思うようにできなかったため、次年度では幼保小接続の取り組みを強化したい。
●幼保小接続の体制の基盤を更に強化していかなければならない。

実施市の具体的取組（能代市）

１　教育・保育の現状と課題
（１）就学前施設において、保育士不足等を背景に、職員の育成が困難となっている状況が見られる。
（２）就学前施設、小学校職員双方において、接続期における子どもの育ちや学び、保護者支援に対する理解に相違がある。
（３）特別な配慮を必要とする児童やその保護者に対する支援の在り方について検討が必要である。

２　令和４年度の目的、重点、実施内容
【目的】
乳幼児期は人格形成の基礎を培う最も重要な時期であるとの認識の基、就学前施設及び小学校職員等を対象とした研修会等を通じて、接続期の子ども理解や保護者支援に対する相互理解を促進し、市全体の教育・保育の質の向上を図る。

【重点】
部局間において、教育・保育の質向上に向けた取組に係る基本的な考え方を共有し、効果的な事業推進体制を構築する。

【実施内容】
（１）「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」
①教育委員会及び子育て支援課の連携による教育･保育の推進体制の充実
・他市町村における取組事例等を参考に、就学前施設と小学校教育との円滑な接続に向けた課題等の把握（通年）

②幼児教育・保育アドバイザー１名を学校教育課へ配置（所属は子育て支援課）
・学校教育課及び子育て支援課におけるアドバイザーの活動内容の情報共有
③学校教育課による就学前の幼児通級指導教室の実施
④学校教育課配置の特別支援教育コーディネーター及び特別支援教育アドバイザーの活用

＜○成果と●課題＞

○幼児教育・保育アドバイザーが就学前施設・小学校への訪問を重ねたことにより、事業の周知が図られた。

○学校教育課による幼児通級指導教室は継続実施され、小学校低学年の通級教室とともに、定着している。

●幼児教育・保育アドバイザーの役割を明確にし、学校教育課と子育て支援課の連携をさらに強化していく必要がある。

●就学前施設に対し、特別支援教育コーディネーター及び特別支援教育アドバイザーの活用について周知に努める必要がある。

（２）「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

○幼児教育・保育アドバイザーによる市内全保育所等及び小学校への巡回訪問・助言等
・就学前施設等における課題の洗い出しと整理（４半期に１回程度の訪問）
・就学前施設及び小学校からのニーズの共有及びサポート（随時）

◇令和４年度アドバイザーによる巡回訪問･指導（能代市）

⑥派遣実績　計　25 施設／全 25 施設　100 回	
回数	・幼稚園：私立 2 園（8 回） ・保育園：公立 4 園（22 回）、私立 8 園（40 回） ・幼保連携型認定こども園：私立 4 園（16 回） ・その他の施設：小規模保育施設　　か所（　　回）、認可外保育施設　　か所（　回）、 事業所内保育施設　　か所（　回） ・小学校：　7 校（14 回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、18 園（18 回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、　園（　回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、　園（　回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、18 園（27 回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、18 園（18 回）） （目標のうち、7 校（ 7 回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、14 園（14 回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、7 校（7 回）） （目標のうち、9 園（9 回））
理由	・事業周知のため、各園、小学校に実態把握等のねらいで定期的に訪問する。 ・幼保小連携の実態把握のため、小学校区ごとに連携・交流の情報を得て訪問する。 ・園のニーズを把握し、園内研修等に継続的に訪問する。

＜○成果と●課題＞

○幼児教育・保育アドバイザーが就学前施設・小学校を訪問し、各施設の現状や課題等について聞き取るとともに、幼保小連携の必要性や保育研修の重要性等について確認することができた。

○幼児教育・保育アドバイザーが保育参観等で園を訪問し、各園の保育の実際について知り、園の課題や要望を把握することができた。

○幼保小の連携、交流の様子を取材し、通信で紹介することで、連携を進めるよう働きかけた。

●園内研修での幼児教育・保育アドバイザーの活用を図るための周知が必要である。

●園の体制や規模の違いにより、園の経営、環境、保育理念などそれぞれ特長があり、課題や要望も多様であるが、全体で取り組むべき課題等を整理、共有し、教育・保育体制の充実につなげて

いく必要がある。

３）「専門性の向上のための研修の充実」

保育の在り方についての研修等を通して、子ども理解や保育の実践的指導力の向上を図る。

豊かな経験に基づく講話に聞き入る参加者

・能代市保育研修会

開催日　11 月 21 日（月）

場　所　能代市役所

内　容　講話「乳幼児保育の在り方と子ども理解」

講師　大館市立花岡小学校　校長　浅野直子　氏

協議「子どもの発達に応じた保育について」

参加者の感想

＊他の保育者の保育観を聞くことができ、視点の違いなどとても参考になった。

＊未満児保育がこの先の子どもたちを形作っていくのだと思った。

・能代市保育実践研修会

開催日　１月 23 日（月）

場　所　能代市役所

内　容　講話・演習「指導要録・保育要録の作成について」

講師　秋田県教育庁北教育事務所　指導主事　庄司　伸子　氏

参加者の感想

＊自分の表記の仕方を振り返ることができた。リフレーミングについて意識して要録を作成していきたい。

＊指導要録を書くことに不安を感じていたが、書き方のコツを知ることができた。

＜○成果と●課題＞

○コロナ禍ではあったが、保育研修会を実施し、対面での意見交換等を通じて保育士同士がつながるきっかけとすることができた。

●テーマや実施時期等、園のニーズを把握し、複数年を視野に入れた研修会の計画を立案していきたい。

４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

①就学前施設及び小学校職員を対象とした合同研修会の開催

幼保小の相互理解を図り、連携を進める。

小学校区で連携について協議

・第１回能代市幼保小連携推進協議会

開催日　5 月 17 日（火）

場　所　能代市役所二ツ井庁舎

内　容　講話「育ちや学びをつなぐための連携について」

講師　幼児教育・保育アドバイザー　簾内　正子

協議　幼保小連携計画立案

参加者の感想

＊会をきっかけに先生方を知るよい機会になった。子どもの情報交換もでき有意義だった。

＊授業・保育参観し合うことや日常の子どもたちの様子を見合ったり交流したりする計画を立てることができたので、実施に向けて園にも働きかけていきたい。

・令和４年度就学前・小学校能代地区合同研修会

開催日　8 月 2 日（火）

場　所　能代山本広域交流センター

内　容　講話「育ちや学びをつなぐ幼小の円滑な接続」

講師　秋田県教育庁北教育事務所　庄司　伸子　氏

演習・協議「幼保小の育ちと学びのつながり」

演習 育ちと学びをつなぐ

参加者の感想

＊幼児教育の基盤があってこそ１年生の円滑なスタートにつながっていくことを再認識した。資料や説明が分かりやすく、学校に戻ってしっかり伝えたい。

＊園生活の遊びの１場面から見える姿や子どもの育ちは、学習時の基礎となる「やってみたい気持ち」「なんだろうと思う気持ち」に大きくかかわっていることが分かった。就学までに様々な経験や自信を積み重ねていくことが喜んで就学に向かえるきっかけにもなると思った。

・第２回能代市幼保小連携推進協議会

開催日　11 月 30 日（水）

場　所　能代市役所二ツ井庁舎

内　容　講話「幼児教育スタートプランについて」

講師　秋田県教育庁北教育事務所　指導主事　庄司　伸子　氏

協議「『幼保小架け橋プログラム』実施に向けて必要なこと」

参加者の感想

＊これまでは子どもの情報交換が主になってしまっていたが、これからは教育課程も話題にし、資質・能力をつなぐためのカリキュラムデザインを幼保小の先生方で協働で行いたいと思った。

・第３回能代市幼保小連絡推進協議会

開催日　3 月 3 日（金）

内　容　情報交換

②学校教育課及び子育て支援課で連携のための情報共有、意見交換等（通年）

＜○成果と●課題＞

○就学前・小学校合同研修会を初めて市単独で開催することができた。県の支援による開催ではあるが、市が主体となって行うことで、参加者の意識の高まりが見られた。

●幼保小連携に関する会合のため、参加対象が架け橋期の担当に偏りがちであるが、子どもの育ちを考えるという視点から見ると、管理職や他の学年・年齢の担当も視野に入れる必要がある。

（５）「県との連携体制の充実」

①県と連携しながら就学前施設と小学校教育との円滑な接続に向けた継続的指導や支援

②就学前教育推進協議会、教育・保育アドバイザー連絡協議会への参加

③県教育・保育アドバイザーの育成支援の活用

④県主催の連絡協議会等の事業を通じた他市町村との情報交換等

⑤保育所の要請訪問及び認定こども園訪問等への同行

＜○成果と●課題＞

○実施初年度ということもあり、県のアドバイザー連絡協議会での講話や他市の参加者からの指導助言や特色ある取組等、参考になることが多く、大変勉強になった。

○県の要請訪問等への同行は、保育参観、研究協議の助言等、実際の保育を基にした保育の見方を知る非常に有効な学びの機会となった。

○幼保小連携推進協議会、就学前・小学校合同研修会等、県の支援により、事業の意義を認識し、より有効な研修となるような助言を得て開催することができた。

●県教育・保育アドバイザーの育成支援をより積極的に活用するべきだった。初年度ということもあり、活用する必要性は高いのだが、活用に結び付けることができず残念だった。

３　わか杉っこ！育ちと学びステップアップ事業（R4）の成果と課題

○事業実施初年度のねらいは、幼児教育・保育アドバイザーの存在を就学前施設及び小学校に認識してもらうことであった。巡回訪問等を通じて徐々に認識されてきており、各施設における課題等も把握することができた。

○幼保小連携推進のための研修会や市主催の保育研修会の実施等、施設形態の別なく職員同士が情報交換を通して学び合える機会を拡充することができた。

●幼児教育・保育アドバイザーの一層の活用を図るため、役割を明確にするとともに具体策を探り、

周知を図っていく。

●架け橋期のカリキュラム開発に向けた取組を通じて、部局間の連携及び幼保小の連携強化を図っていく必要がある。